

英語科目についての概要

総合英語について（必修科目：1、2年次）

1. 目的および目標

1、2年次の必修科目である英語は、高校までに習得した英語の能力を、全ての技能について高め、国際的な視野を持つ教養豊かな社会人としてふさわしいコミュニケーション能力を身に付けることを目的とする。

英語 A I/A II（1年次）では、口と耳によるコミュニケーション能力の涵養に加え、英作文とプレゼンテーション技能の訓練も行なう。きめ細かな対応が必要となるため、少人数クラス編成を行っている。英語 A では、CEFR A2 のレベルを目標としている。

英語 B I/B II（1年次）は、英語 A I/A II と補完的に機能する科目で、読解力を中心に 4 技能を訓練する。読解力については、CEFR B2 を参照した読解レベル（「自分の専門分野の技術的な議論も含めて、抽象的かつ具体的な話題の複雑なテキストの主要な内容を理解できる。」）を目標としている。

英語 C I/C II（2年次）は、英語 A I/A II や B I/B II における学習内容を深め、応用力を高めることを目標としている。また、動機付けを高める要素としてテーマ選択制（「異文化理解」、「時事問題」、「実践英語」の三つ）としている。英語を「使用」する意識を高める科目である。

英語 D I/D II（2年次）は、ドイツ語Ⅲ/Ⅳ、中国語Ⅲ/Ⅳ、フランス語Ⅲ/Ⅳ、韓国語Ⅲ/Ⅳを合わせた選択科目群から選択する科目で、総合英語 A I/A II、B I/B II、C I/C II の学習内容を補完する。世界の諸問題を題材に批判的思考力を身につけるとともに、自分の意見を発信できる英語運用能力を涵養する。なお、1年次に本学で一斉受験した TOEFL ITP スコアの高い学生に対し、アドバンスト・クラスを設けている。英語 D では、CEFR A2 のレベルを目標としている。

*CEFR：Common European Framework of Reference for Languages 欧州共通言語参照枠

2. 履修上の注意

- 1) 出席率が 3 分の 2 以上ないと、原則として受験資格を失う。（九州工業大学工学部学修細則 第 11 条 2）
- 2) 開講年次に全て履修することを原則とする。再履修の場合、時間割上の制限が出てくるため、科目の開講年次に単位修得することを強く勧める。なお、再履修については事前に必ず担当教員に相談すること。
- 3) 編入生の場合も、必ず担当教員に相談すること。
- 4) 必修科目、演習形式という性質上、定期試験のみでの成績評価は行わない。授業への参加態度、提出物なども評価要素となる。
- 5) TOEFL ITP（レベル 1）スコア（550 点以上）、TOEFL IBT（80 点以上）、TOEIC（865 点以上）、英検 1 級で、必修英語科目への単位振替をおこなっている。詳しくは学生便覧を参照のこと。

英語の選択科目について（選択科目：全年次）

1. 目的および目標

英語 A、B、C、D と同時進行で履修できる選択科目であり、英語に意欲的な学生に対してさらなる学習の機会を提供することを主眼としている。国際的コミュニケーション能力を高め、文化的背景についての教養を深めることを目標としている。

選択英語 I

選択英語 II

2. 履修上の注意

- 1) この科目は学期外に適宜開講されるので、掲示に従って履修すること。
- 2) 履修希望者が多い場合、人数制限を行う。
- 3) オールド・ドミニオン大学（アメリカ合衆国）夏季語学研修の単位振替は、この科目をもって行なう。

その他

大学院においても英語（ラクストン）、総合技術英語（ロング）、国際関係概論（八丁）、批判的テキスト理解 I、II（虹林）を開講している。こちらの聴講（履修は不可）を希望する学生は、担当教員に相談すること。

英語 A I English A I

対象学科 (コース): 全学科 (人間科学科目)

学年: 1 年次 学期: 前期 単位区分: 必修 単位数: 1 単位

担当教員名 Robert Long, Chris O'Sullivan, Mason Lampert,
Huw Tyler, James Hicks, Kevin Weir,
Michael Berg, 渡邊**1. 概要**

Spoken English is becoming daily more essential for citizens of our rapidly globalizing world. The main aim is to teach students to speak and understand spoken English. Our course is also to help students with their writing and in presentations.

2. キーワード

speaking, listening, writing, reading, presenting, communication, culture

3. 到達目標

- さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につける。
- 英語圏での必要最低限の会話能力を身につける。

4. 授業計画

1. Self-introductions.
2. Meeting new people.
3. Describing people.
4. Talking about family.
5. Talking about daily activities.
6. Frequency adverbs.
7. Talking about likes and dislikes.
8. Describing locations.
9. Giving directions.
10. Describing places.
11. Talking about past activities.
12. Talking about jobs.
13. Presenting yourself.
14. Review
15. Review

5. 評価の方法・基準

Attendance at a minimum of 2/3 of classes, classwork, homework and an examination at the end of each semester.

6. 履修上の注意事項

Make sure you get this credit in the first year, as you will be very busy later with your engineering major. Watch videos and listen to English CDs in the library.

7. 授業外学習 (予習・復習) の指示

Check for any downloadable homework from the Sogo Eigo A site that your teacher might have given you. Read ahead in the next chapter of your text to familiarize yourself with the tasks and to know how to best respond to them in English.

8. 教科書・参考書

Instructors will use approved textbooks at their discretion.

9. オフィスアワー

ロバート・ロング long@dhs.kyutech.ac.jp
(月曜日 13:00 ~ 16:00 火曜日 10:00 ~ 14:00)
(General Education Building)
<https://sites.google.com/site/kitenglisha/>

英語 A II English A II

対象学科 (コース): 全学科 (人間科学科目)

学年: 1 年次 学期: 後期 単位区分: 必修 単位数: 1 単位

担当教員名 Robert Long, Chris O'Sullivan, Mason Lampert,
Huw Tyler, James Hicks, Kevin Weir,
Michael Berg, 渡邊**1. 概要**

Spoken English is becoming daily more essential for citizens of our rapidly globalizing world. The main aim is to teach students to speak and understand spoken English. Our course is also to help students with their writing and in presentations.

2. キーワード

speaking, listening, writing, reading, presenting, communication, culture

3. 到達目標

- さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につける。
- 英語圏での必要最低限の会話能力を身につける。

4. 授業計画

1. Getting information.
2. Making an invitation.
3. Talking about plans.
4. Making announcements.
5. Making predictions.
6. Asking about prices.
7. Shopping.
8. Talking about emotions.
9. Expressing opinions.
10. Following instructions.
11. Giving instructions.
12. Listening strategies.
13. Communication strategies.
14. Review
15. Review

5. 評価の方法・基準

Attendance at a minimum of 2/3 of classes, classwork, homework and an examination at the end of each semester.

6. 履修上の注意事項

Make sure you get this credit in the first year, as you will be very busy later with your engineering major. Watch videos and listen to English CDs in the library.

7. 授業外学習 (予習・復習) の指示

Check for any downloadable homework from the Sogo Eigo A site that your teacher might have given you. Read ahead in the next chapter of your text to familiarize yourself with the tasks and to know how to best respond to them in English.

8. 教科書・参考書

Instructors will use approved textbooks at their discretion.

9. オフィスアワー

ロバート・ロング long@dhs.kyutech.ac.jp
(月曜日 13:00 ~ 16:00 火曜日 10:00 ~ 14:00)
(General Education Building)
<https://sites.google.com/site/kitenglisha/>

英語 B I English B I

対象学科（コース）：機械知能工学科・電気電子工学科・
建設社会工学科

学年：1年次 学期：前期 単位区分：必修 単位数：1単位
担当教員名 八丁 由比

1. 概要

一口に英語と言っても、読む、聞く、話すなどの技法の違いに加え、分野や情報媒体によっても英語の特徴が異なる。自分にとって最も必要な技法、あるいは最も親しみを感じるジャンルを見つけ、そこから取り組むことも1つの上達方法であると考え。本授業では、様々な種類の英語に触れ、その中から必要な情報を獲得・利用できるようになることを目指す。「精読」よりも「多読」を重視。

2. キーワード

多種英語 異文化 時事問題

3. 到達目標

- ・さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につける。
- ・英語圏での必要最低限の情報収集に必要な読解を身につける。

4. 授業計画

1. デモンストレーション、サンプル・リーディング
2. 歌詞・ラジオ・スピーチの英語 I
3. 歌詞・ラジオ・スピーチの英語 II
4. 歌詞・ラジオ・スピーチの英語 III
5. 新聞・雑誌の英語 I
6. 新聞・雑誌の英語 II
7. 新聞・雑誌の英語 III
8. 新聞・雑誌の英語 IV
9. エッセイの英語 I
10. エッセイの英語 II
11. エッセイの英語 III
12. エッセイの英語 IV
13. プレゼンテーション I
14. プレゼンテーション II
15. 総評

5. 評価の方法・基準

平常点、小レポート、期末レポートを総合的に判断して評価する。

60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

- ・辞書を持参すること。
- ・自己学習の際には、図書館1階のCD、DVDや英字新聞等を利用すると良い。
- ・3分の2以上の出席が無い場合は、履修資格を失うので注意。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

- ・各ジャンルの最終回には小レポートを課し、理解度の確認を行うので必ず提出すること。
- ・授業の内容は連続しているので、欠席した場合は必ず前回授業について確認し、必要に応じてメイクアップしておくこと。

8. 教科書・参考書

- ・プリントを配布する。
- ・辞書

9. オフィスアワー

- ・オフィスアワー：研究室前の掲示を参照
- ・研究室：総合教育棟 410
- ・連絡先：hatcho@dhs.kyutech.ac.jp

英語 B I English B I

対象学科（コース）：機械知能・電気電子・
応用化学（人間科学科目）

学年：1年次 学期：前期 単位区分：必修 単位数：1単位
担当教員名 大野 瀬津子

1. 概要

英語力の向上には、与えられた課題を受動的にこなすだけでなく、自ら問題意識をもって取り組む能動的な学習が不可欠である。この授業では、パラグラフ・リーディング、リスニング等の実践を通じ英語力の向上を図るとともに、自主的な取り組みを喚起することで、主体的学習態度を育成したい。

2. キーワード

パラグラフ・リーディング、リスニング、音読、主体的学習

3. 到達目標

- ・さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につける。
- ・英語圏での必要最低限の情報収集に必要な読解力を身につける。

4. 授業計画

1. Introduction
2. Topic 1. Japanese Hit Cartoon Gets US Release
3. "
4. 発表
5. Topic 4.5. A Day's Wait
6. "
7. "
8. 発表
9. Topic 7. Islands of Genius
10. "
11. 発表
12. Topic 17 The Cuddliest Hero in Asia
13. "
14. 発表
15. まとめ

5. 評価の方法・基準

原則として、活動参加40%、発表10%、期末試験50%で評価する。総合評価で60%以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

- ・3分の2以上の全体出席数がないと、履修資格を失う。
- ・成績評価のフィードバックについて、個別に対応が必要な場合はオフィスアワーを当てる。
- ・私語、内職、携帯電話の使用、居眠り等は厳禁。学生主体の授業なので、毎回、十分な予習と復習、授業への積極的参加を求める。
- ・毎回辞書を持参すること。
- ・英英辞典、インターネット、英字新聞等を活用し、授業で取り上げた話題について積極的に調べて欲しい。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

- ・毎回授業で指示された教科書の該当箇所を事前に読み、指示されたやり方でレポートにまとめておくこと。
- ・加えて、レポート提出日には、教科書に関連する英語の記事を調査し、指示されたやり方でまとめておくこと。
- ・発表日には、事前に発表の予行演習をしておくこと。

8. 教科書・参考書

- 教科書：
1. Multiple Voices from around the World(朝日出版社)830.7/K-116
 2. Humorous Homestay Stories(南雲堂)ISBN: 9784523175544

9. オフィスアワー

研究室前に掲示。(研究室：総合教育棟 S408)

英語 B I English B I

対象学科（コース）：電気電子・マテリアル（人間科学科目）
 学年：1年次 学期：前期 単位区分：必修 単位数：1単位
 担当教員名 田吹 昌俊

1. 概要

本講義では、英語の多角的運用能力を高める目的で読み、聞き、話すという観点から英語を扱う。特に英文の速読、即解ができる能力の養成を目指す。また、ヒアリング、ディクテーションも併せて行う。題材としては現代社会に生きる我々にとって最も意識しなければならない科学問題と社会問題に焦点を当てる。

2. キーワード

科学技術、社会問題、環境問題

3. 到達目標

- さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につける。
- 多種多様な英語に慣れる。

4. 授業計画

1. Introduction
2. Crops for Food or Fuel?
3. Oceans Awash in Toxic Plastic
4. Global-warming Super Typhoons
5. Slingshot: Water Purification Innovation
6. Engineering Earth is Possible
7. Engineering Earth is Possible
8. Review
9. Making Stem Cell Therapy into Reality
10. Learning from the 2011 Tohoku Tsunami
11. Gigantic Oil Spills and Clean-ups
12. Public Construction Projects Under Review
13. Grand Unified Theory of Artificial Intelligence
14. Grand Unified Theory of Artificial Intelligence
15. Review

5. 評価の方法・基準

学期試験、授業での小テスト、発表、レポートを総合的に判断して評価する。総合評価で60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

- (1) 授業への十分な準備と積極的な参加を前提とする。準備不足のため質問に答えられない場合は減点対象となる。私語、内職、携帯電話等は厳禁。
- (2) 英英辞書か英和辞書を携帯すること。
- (3) 3分の2以上の全体出席数がないと、履修資格を失う。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

授業範囲の予習として、不明な専門用語の意味を調べておくこと。

8. 教科書・参考書

教科書：Science Avenue (Seibido) ISBN: 9784791912834

9. オフィスアワー

木曜日 4時限目（総合教育棟 4階 414）

英語 B I English B I

対象学科（コース）：機械知能工学科・電気電子工学科・
 総合システム工学科・マテリアル工学科
 学年：1年次 学期：前期 単位区分：必修 単位数：1単位
 担当教員名 虹林 慶

1. 概要

大学生として備えておくべきリーディングの力をテキスト読解の形で示したものが本授業である。高いレベルの英文が読めるようになるためのスキルの獲得を目指し、その習得を様々な場面で必要な読解力の基準としている。リスニングについても同様の基準で練習を行い、情報収集としてだけでなく、コミュニケーションに直結するものを扱う。

2. キーワード

異文化理解、カルチュラル・リテラシー

3. 到達目標

- さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につける。
- 英語圏での必要最低限の情報収集に必要な読解を身につける。

4. 授業計画

1. Introduction / What a Painful Can Tell Us
2. Split-Brain Research (1)
3. Split-Brain Research (2)
4. The Process of Image Formation (1)
5. The Process of Image Formation (2)
6. The Nightly Battle: Bacteria vs. Egg
7. The Eiffel Tower (1)
8. The Eiffel Tower (2)
9. Review Test
10. The Expanding Universe (1)
11. The Expanding Universe (2)
12. The Blind Watchmaker (1)
13. The Blind Watchmaker (2)
14. The Rise of the Labor Market
15. Review Test 2
16. まとめ

5. 評価の方法・基準

定期試験と授業参加点を総合的に評価し、60点以上を合格とする。成績評価のうち、TOEFL テストに関連した内容を10パーセント以上含める。

6. 履修上の注意事項

- 3分の2以上の出席を履修の原則とする。（履修細則第11条2）
- 試験の結果のフィードバックは個別に行う。
- 予習、復習を前提とした授業である。
- 授業態度が悪い場合（私語、内職、携帯の使用など）は減点や除名の対象となることがある。
- 教科書に取り上げられたテーマに関連したビデオ教材（附属図書館蔵）を授業時間外にみることが有益である。（詳細は授業中に説明する。）

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

事前に指定された箇所について、課題を期日までに提出すること。指定については授業進行に合わせて行う。

8. 教科書・参考書

教科書：The Universe of English（東京大学出版会）837.7/T-1

参考書：新版研究社英和中辞典（辞書を持たない人に）833/K-31/7（第7版）

Oxford Advanced Learner's Dictionary 833/H-6（英英辞書に関心がある人に）

9. オフィスアワー

水曜日（17:00～18:00）（総合教育棟 3階：S313）

英語 B I English B I

対象学科 (コース)：機械知能・建設社会
 学年：1 年次 学期：前期 単位区分：必修 単位数：1 単位
 担当教員名 高田 とも子

1. 概要

国際社会を生きる上で、「日本人とは何か」という疑問は熟考するに値すると同時に、避けて通ることのできない論点でもある。本講義では、アメリカの経済紙『ウォール・ストリート・ジャーナル』東京支局の記者が発信したブログサイトで連載された記事を扱うことで、英文読解能力を向上させると同時に、海外の視点から見た日本文化を捉えることを目的とする。「カワイイ」「半沢直樹」といった身近なトピックを通じ、受講者には日本とは何か、という根本的な問いを追究してもらいたい。尚、毎回の授業では、語彙力強化の為、単語テストを実施する為、受講生は事前準備をすること。さらに、受講生には、毎回担当を決め、海外のメディアが日本文化をどのように報じているか、という点にフォーカスしたプレゼンテーションを行ってもらおう。

2. キーワード

3. 到達目標

- ・さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につける。
- ・多種多様な英語に慣れる。

4. 授業計画

1. Introduction
2. 5 Things You Didn't Know About Kawaii
—Kawaii の美学—
3. Uniqlo Finds Wealth of Data in Banglades Not-For-Profit Venture —ユニクロが蓄積したお宝データ—
4. When the B List Is Best —味が勝負の B 級グルメ—
5. Harvard Degree: The Political Economy of Kumamon
—くまモンの政治経済学—
6. Saving Fukuoka's Street Food —福岡の屋台文化の歴史—
7. A Japanese Artist Finds New Life A Year After the Quake —ある芸術家の再生と「成長」—
8. Fictional Japanese TV Banker Takes Double the Payback
—ドラマ『半沢直樹』ヒットの要因—
9. As Sentiment Improves, Red Lipstick Back in Vogue
—赤い口紅と景気の関係—
10. Japan's Aging, Female Criminals?
—女性受刑者の倍増と犯罪のグローバル化—
11. Cult TV Travelogue Lets You Share Wednesday's Ride
—『水曜どうでしょう』ロングヒットの秘密—
12. Want to Cosplay? Then Lose That Swaord
—コスプレを安全に楽しむ方法—
13. Fukushima Watch: Who Wrote the New Anti-Nuke Novel? —反原発の新刊本を書いたのは誰?—
14. For Some, Scented Fabric Softeners No Laughing Matter —柔軟剤の流行と弊害—
15. The 1964 Tokyo Olympics: A Turning Point for Japan
—オリンピックに見る日本のターニングポイント— (予定)

5. 評価の方法・基準

授業への積極的参加態度 30%、プレゼンテーション 20%、小テスト 10%、期末テスト 40% で評価する。総合評価で 60% 以上を合格とする

6. 履修上の注意事項

- ・3 分の 2 以上の出席を履修の原則とする。
- ・十分な予習をすること。
- ・積極的な授業への参加を求める。

7. 授業外学習 (予習・復習) の指示

受講者は全員、各回ごとに指示のある教科書の該当箇所を事前に読んでおくこと。尚、プレゼンテーション担当者はパワーポイント、あるいはレジュメ等の資料を作成すること。

8. 教科書・参考書

教科書：15 Things Happening in Japan From <A Hit Drama "Hanzawa Naoki"> to <Yoshimoto Nara's New Life> (松柏社) ISBN: 9784881987070

9. オフィスアワー

質問や連絡事項がある場合には、メールにて対応する。
 tmknagakawa@yahoo.co.jp

英語 B I English B I

対象学科 (コース)：総合システム工学科
 学年：1 年次 学期：前期 単位区分：必修 単位数：1 単位
 担当教員名 林 恵子

1. 概要

英語を学ぶ上で、語彙、文法、リスニング力を培うことは大切な要素ですが、また同時に、英語で自己表現ができるようになることも重要なことです。そのためには、文化的、社会的、感情的に、学習者の教養を高めることも大切です。本授業では、国際的な雑誌 Newsweek やイギリスの新聞 The Guardian などから厳選された記事を読むことで、あらゆる視点から物事を見て、その背景にある事実を理解し、日本と世界に対して、確固たる視点や考え方を身に付けます。また、プレゼンテーションをする機会を設けることで、主体的な授業への参加、並びに、分かり易いハンドアウトの作り方や発表の仕方を学びます。

2. キーワード

時事問題、異文化理解、主体的学習

3. 到達目標

- ・さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につけます。
- ・多種多様な英語に慣れます。

4. 授業計画

1. Introduction
2. On Language: Does language "difficulty" speak of a sense beyond mere words? (前半部)
3. On Language: Does language "difficulty" speak of a sense beyond mere words? (後半部)
4. America and the World: Thirty years on, have no lessons been learned from Vietnam? (前半部)
5. America and the World: Thirty years on, have no lessons been learned from Vietnam? (後半部)
6. The World Today: A new kind of challenge. (前半部)
7. The World Today: A new kind of challenge. (後半部)
8. Japan: Where do the Japanese stand today? (前半部)
9. Japan: Where do the Japanese stand today? (後半部)
10. Japan: The stage is set for genuine change. (前半部)
11. Japan: The stage is set for genuine change. (後半部)
12. 英文学訪問：シェイクスピア『ハムレット』—名場面より
13. 『ハムレット』の DVD 鑑賞
14. プレゼンテーション①
15. 定期試験
16. プレゼンテーション②

5. 評価の方法・基準

予習及び授業への積極的参加態度 20%、小テスト 10%、プレゼンテーション及び課題 20%、期末テスト 50% で評価します。総合評価で 60% 以上を合格とします。

6. 履修上の注意事項

- ・全授業の 3 分の 2 以上の出席数がないと、履修資格を失います。
- ・授業中の私語、携帯電話の使用、居眠り等は厳禁です。
- ・毎回、辞書を持参してください。
- ・毎回、十分な予習、授業への積極的な参加を求めます。

7. 授業外学習 (予習・復習) の指示

2 回目から 11 回目までは、各回に該当する箇所を予習しておいてください。また、3 回目から 11 回目までは各テーマに対する自分の考えをレポートにしておいてください。毎回実施される復習を兼ねた小テストの勉強をしておいてください。12 回目は『ハムレット』の予習をしておいてください。14 回目、及び、16 回目はプレゼンテーションのためのハンドアウトを作成しておいてください。

8. 教科書・参考書

教科書：Setting the Stage (研究社) ISBN: 978-4-327-42167-0

9. オフィスアワー

質問や相談は授業終了後をお願いします。
 メールアドレス：scotty@jeans.ocn.ne.jp

英語 B II English B II

対象学科（コース）：機械知能工学科・建設社会工学科・
電気電子工学科

学年：1年次 学期：後期 単位区分：必修 単位数：1単位
担当教員名 八丁 由比

1. 概要

英文理解、文献調査、発表の仕方、発表の聞き方、質問の仕方等を学ぶ。ニュース英語の概要を理解する。

2. キーワード

多種英語 情報発信 運用能力

3. 到達目標

- ・さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につける。
- ・英語圏での必要最低限の情報収集に必要な読解を身につける。

4. 授業計画

1. デモンストレーション
2. 発表と評価
3. 発表と評価
4. 発表と評価
5. 発表と評価
6. 発表と評価
7. 発表と評価
8. 中間テスト
9. 発表と評価
10. 発表と評価
11. 発表と評価
12. 発表と評価
13. 発表と評価
14. 発表と評価
15. 総評

5. 評価の方法・基準

平常点、発表、期末試験を総合的に評価する。TOEFL テストに関連した内容を10パーセント以上含める。
60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

- ・3分の2以上の出席が無い場合は、履修資格を失うので注意する。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

- ・各自オピニオンシートを作成したうえで出席すること。
- ・発表に際しては十分な準備が必要である。時間配分について計画を立て、予行演習を行う。
- ・発表担当箇所に関する疑問は、オフィスアワーなどを利用して事前に解決しておく。

8. 教科書・参考書

- ・辞書
- ・TOEFL® テスト ITP リーディング完全攻略（アルク）ISBN: 978-4-7574-1021-3

9. オフィスアワー

- ・オフィスアワー：研究室前の掲示を参照
- ・研究室：総合教育棟 410
- ・連絡先：hatcho@dhs.kyutech.ac.jp

英語 B II English B II

対象学科（コース）：機械知能・電気電子・
応用化学（人間科学科目）

学年：1年次 学期：後期 単位区分：必修 単位数：1単位
担当教員名 大野 瀬津子

1. 概要

英語力の向上には、与えられた課題を受動的にこなすだけでなく、自ら問題意識をもって取り組む能動的な学習が不可欠である。前期に続き、この授業では、パラグラフ・リーディング、リスニング等の実践を通じ英語力の向上を図るとともに、自主的な取り組みを喚起することで、主体的学習態度を育成したい。TOEFL テストについても学習を行う。

2. キーワード

パラグラフ・リーディング、リスニング、音読、主体的学習

3. 到達目標

- ・さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につける。
- ・英語圏での必要最低限の情報収集に必要な読解を身につける。

4. 授業計画

1. Introduction
2. Topic 1 The Slippery Case of the Missing Butter
3. "
4. 発表
5. Topic 2 By Bike round Australia (I)
6. Topic 2 By Bike round Australia (II)
7. Topic 2 まとめ
8. 発表
9. Topic 4 From Why Write?
10. "
11. 発表
12. Topic 8 Change of Heart (I)
13. "
14. 発表
15. まとめ

5. 評価の方法・基準

原則として、活動参加40%、発表10%、期末試験50%で評価する。総合評価で60%以上を合格とする。成績評価のうち、TOEFL テストに関連した内容を10パーセント以上含める。

6. 履修上の注意事項

- ・3分の2以上の全体出席数がないと、履修資格を失う。
- ・成績評価のフィードバックについて、個別に対応が必要な場合はオフィスアワーを当てる。
- ・私語、内職、携帯電話の使用、居眠り等は厳禁。学生主体の授業なので、毎回、十分な予習と復習、授業への積極的参加を求める。
- ・毎回辞書を持参すること。
- ・図書館の英字新聞やインターネット等を活用し、授業で取り上げた話題について積極的に調べる。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

毎回授業で指示された教科書の該当箇所を事前に読み、指示されたやり方でレポートにまとめておくこと。加えて、レポート提出日には、与えられたテーマについて、自分の意見を英語にまとめておくこと。発表日には、事前に発表の予行演習をしておくこと。

8. 教科書・参考書

教科書：

1. Multiple Voices from around the World(朝日出版社)830.7/K-116
2. Topics and Tactics for the Toefl Test (南雲堂) ISBN: 9784523175865

9. オフィスアワー

研究室前に掲示。(研究室：総合教育棟 S408)

英語 B II English B II

対象学科 (コース) : 電気電子・マテリアル (人間科学科目)
 学年 : 1 年次 学期 : 後期 単位区分 : 必修 単位数 : 1 単位
 担当教員名 田吹 昌俊

1. 概要

本講義では、英語の多角的運用能力を高める目的で読み、聞き、話すという観点から英語を扱う。特に英文の速読、即解ができる能力の養成を目指す。また、ヒアリング、ディクテーションも併せて行う。題材としては現代社会に生きる我々にとって最も意識しなければならない科学問題と社会問題に焦点を当てる。また TOEFL テストについても学習を行う。

2. キーワード

科学技術、社会問題、環境問題

3. 到達目標

- さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につける。
- 英語圏での必要最低限の情報収集に必要な読解を身につける。

4. 授業計画

1. Introduction
2. A Bright Future for LED Lights
3. Kindles and iPads: Reshaping Japanese Publishing
4. Civil Engineers Test New Concrete
5. Solar-powered Planes and Yachts
6. A Sonic Refrigerator: Cooling with Sound Waves
7. A Sonic Refrigerator: Cooling with Sound Wave
8. Review
9. Electric Cars
10. Preparing for the Trip to Mars
11. 3D TV Gadget
12. Controlling Gadget with Your Own Thoughts
13. Gesture-based Computing
14. Gesture-based Computing
15. Review

5. 評価の方法・基準

学期試験、授業での小テスト、発表、レポートを総合的に判断して評価する。総合評価で 60 点以上を合格とする。なお評価に TOEFL に関連した内容を 10% 以上含める。

6. 履修上の注意事項

- (1) 授業への十分な準備と積極的な参加を前提とする。準備不足のため質問に答えられない場合は減点対象となる。私語、内職、携帯電話等は厳禁。
- (2) 英英辞書か英和辞書を携帯すること。
- (3) 3分の2以上の全体出席数がないと、履修資格を失う。

7. 授業外学習 (予習・復習) の指示

授業範囲の予習として、不明な専門用語の意味を調べておくこと。

8. 教科書・参考書

教科書 : 1. Science Avenue (Seibido) ISBN: 9784791912834
 教科書 : 2. Boost Your English 2 - Practice for TOEFL UTP - (Seibido) ISBN: 9784791931255

9. オフィスアワー

木曜日 4 時限目 (総合教育棟 4 階 414)

英語 B II English B II

対象学科 (コース) : 機械知能工学科・電気電子工学科・マテリアル工学科
 学年 : 1 年次 学期 : 後期 単位区分 : 必修 単位数 : 1 単位
 担当教員名 虹林 慶

1. 概要

大学生として備えておくべきリーディングの力をテキスト読解の形で示したものが本授業である。高いレベルの英文が読めるようになるためのスキルの獲得を目指し、その習得を様々な場面で必要な読解力の基準としている。リスニングについても同様の基準で練習を行い、情報収集としてだけでなく、コミュニケーションに直結するものを扱う。TOEFL テストについても学習を行う。

2. キーワード

異文化理解、カルチュラル・リテラシー

3. 到達目標

- さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につける。
- 英語圏での必要最低限の情報収集に必要な読解を身につける。

4. 授業計画

1. Introduction/On Speaking of Spaking
2. How Our Ancestors Survived the Ice Age
3. Ecology (1)
4. Ecology (2)
5. Columbus: From Hero to Fall Guy (1)
6. Columbus: From Hero to Fall Guy (2)
7. The New Women of Ireland
8. Review Test
9. The Ocean System (1)
10. The Ocean System (2)
11. Australia Today (1)
12. Australia Today (2)
13. The Greenhouse Effect (1)
14. The Greenhouse Effect (2)
15. Review Test 2
16. まとめ

5. 評価の方法・基準

定期試験と授業参加点を総合的に評価し、60 点以上を合格とする。成績評価のうち、TOEFL テストに関連した内容を 10 パーセント以上含める。

6. 履修上の注意事項

- 3分の2以上の出席を履修の原則とする。(履修細則第 11 条 2)
- 試験の結果のフィードバックは個別に行う。
- 予習、復習を前提とした授業である。
- 授業態度が悪い場合 (私語、内職、携帯の使用など) は減点や除名の対象となることがある。
- 教科書に取り上げられたテーマに関連したビデオ教材 (附属図書館蔵) を授業時間外にみることは有益である。(詳細は授業中に説明する。)

7. 授業外学習 (予習・復習) の指示

事前に指定された箇所について、課題を期日までに提出すること。指定については授業進行に合わせて行う。

8. 教科書・参考書

教科書 : The Universe of English (東京大学出版会) 837.7/T-1 5-Minute Quizzes for TOEFL (マクミラン) ISBN: 9784895852722

参考書 : 新版研究社英和中辞典 (辞書を持たない人に) 833/K-31/7 (第 7 版)

Oxford Advanced Learner's Dictionary 833/H-6 (英英辞書に関心がある人に)

9. オフィスアワー

水曜日 (17:00 ~ 18:00) (総合教育棟 3 階 : S313)

英語 B II English B II

対象学科（コース）：機械知能・建設社会

学年：1年次 学期：後期 単位区分：必修 単位数：1単位

担当教員名 高田 とも子

1. 概要

本講義では、前期に引き続き、現代日本文化が海外の視点で如何に表象されているかという点に焦点を当てたエッセイを読むことで、総合的な英語能力を身につけることを目的とする。「草食系男子」や「就職活動」など、現代日本社会を取り巻く身近な話題を通し、受講生には日本文化の海外受容に対する深い洞察力を養ってもらいたい。尚、本講義では、語彙力強化のための単語テストを毎回実施する。また、前期に引き続き、毎回担当を決め、各自プレゼンテーションを行ってもらう為、各自十分な準備をすること。さらに、本講義では、TOEFL テストについても学習を行う。

2. キーワード

3. 到達目標

- さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につける。
- 多種多様な英語に慣れる。

4. 授業計画

1. Introduction
2. Unit 1: Change 変革を好まぬ国民性
3. Unit 2: Shouganai 仕方がないで済ませる国民
4. Unit 3: Tatemaie and Honne 本音と建前を使い分ける
5. Unit 4: Following the Crowd 大勢に従う習性
6. Unit 5: Vehicle Inspections 高すぎる車検制度
7. Unit 6: Overkill 何でもやりすぎる習性
8. Unit 7: Sports Day 疲れる運動会
9. Unit 8: Striving to be Average 平均が一番
10. Unit 9: Pride in One's School 母校愛
11. Unit 10: Monster Fruit お化けフルーツ
12. Unit 11: It's to Die For! 死んでも食べたい好物
13. Unit 12: No more Plastic Bags ビニール袋の有料化
14. Unit 13: Girlie Men 男らしくない男子
15. Unit 14 制服が好きな国民（予定）

5. 評価の方法・基準

授業への積極的参加態度 20%、プレゼンテーション 20%、小テスト 10%、期末テスト 40%、また TOEFL テストに関連した内容 10%で評価する。総合評価で 60%以上を合格とする

6. 履修上の注意事項

- 3分の2以上の出席を履修の原則とする。
- 十分な予習をすること。
- 積極的な授業への参加を求める。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

受講者は全員、各回ごとに指示のある教科書の該当箇所を事前に読んでおくこと。尚、プレゼンテーション担当者はパワーポイント、あるいはレジュメ等の資料を作成すること。

8. 教科書・参考書

教科書：Eye on Japan American and Japanese Views of Japanese Culture（三修社）830/C-7

Topics and Tactics for the TOEFL Test（南雲堂）ISBN: 9784523175865

9. オフィスアワー

質問や連絡事項がある場合には、メールにて対応する。

tmknagakawa@yahoo.co.jp

英語 B II English B II

対象学科（コース）：総合システム工学科

学年：1年次 学期：後期 単位区分：必修 単位数：1単位

担当教員名 林 恵子

1. 概要

本授業では多読・速度が求められる英文理解に不可欠な要素である「英文を正確に読む」ことを目指します。この100年位の間にかかれた古典的な小説、エッセイ、論文を精読するとともに、論理的思考を培い、正確な英文読解力を身に付けます。また、プレゼンテーションをする機会を設けることで、主体的な授業への参加、並びに、分かり易いハンドアウトの作り方や発表の仕方を学びます。また、TOEFL のテキストからは読解・リスニング力等の向上を目指します。

2. キーワード

異文化理解、正確な読み、論理的思考力

3. 到達目標

- さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につけます。
- 多種多様な英語に慣れます。

4. 授業計画

1. Introduction
2. Lesson 1: George Orwell, Animal Farm
3. Lesson 2: Elisabeth Kübler-Ross, On Death and Dying
4. Lesson 3: O. Henry, A Retrieved Reformation
5. Lesson 4: George Gissing, The Private Papers of Henry Ryecroft
6. Lesson 5: Earnest Hemingway, The Old Man and The Sea
7. Lesson 6: Rachel Carson: Silent Spring
8. Lesson 7: William Wilkie Collins, The Family Secret
9. Lesson 8: Henry David Thoreau, Walden
10. Lesson 9: William Somerset Maugham, The Summing Up /A Writer's Notebook
11. Lesson 10: Arthur Waley, The Tale of Genji
12. Lesson 11: William Henry Davies, The Autobiography of a Super-Tramp
13. Review
14. プレゼンテーション①
15. 学期末定期試験
16. プレゼンテーション②

5. 評価の方法・基準

予習及び授業への積極的参加態度 20%、小テスト 10%、プレゼンテーション 20%、期末テスト 50%で評価します。総合評価で 60%以上を合格とします。成績評価のうち、TOEFL テストに関連した内容を 10 パーセント以上含めます。

6. 履修上の注意事項

- 全授業の 3分の2以上の出席数がないと、履修資格を失います。
- 授業中の私語、携帯電話の使用、居眠り等は厳禁です。
- 毎回、辞書を持参してください。
- 毎回、十分な予習、授業への積極的な参加を求めます。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

2回目から12回目までは各 Lesson の予習、並びに時代背景を調べておいてください。また、毎回小テストに備えて、前回の復習をしておいてください。14回目と16回目はプレゼンテーションのためのハンドアウトを作成しておいてください。また、TOEFL のテキストに関しては、毎回授業で指示される箇所を必ずしておいてください。

8. 教科書・参考書

• 教科書：名文で養う英語精読力（研究社）ISBN: 978-4-327-42179-3

• 教科書：Boost Your English - Practice for TOEFL ITP - 1（SEIBIDO）ISBN: 978-4-7919-3124-8

9. オフィスアワー

質問や相談は授業終了後をお願いします。

メールアドレス：scotty@jeans.ocn.ne.jp

英語 C I English C I

対象学科 (コース) : 全学科

学年 : 2 年次 学期 : 前期 単位区分 : 必修 単位数 : 1 単位

担当教員名 八丁 由比

1. 概要

演習型授業。最終的な目標は英語で情報発信ができるようになること。英語の文章は、日本語の文章に比べて固定的な構成パターンに沿って構成される。よって、これを理解することにより、的確に読み、理解される文章を書き、話すことができる。本授業では、英文の特徴を分析しながら英文を読み、スタイルのある文章を書く方法を学ぶ。学期の後半には、口頭発表による情報発信も行う。

2. キーワード

英文スタイル 作文

3. 到達目標

- さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につける。
- 多種多様な英語に慣れる。

4. 授業計画

1. デモンストレーション、サンプル・リーディング
2. Report (1)
3. Report (2)
4. Report (3)
5. Essay (1)
6. Essay (2)
7. Essay (3)
8. Critiques (1)
9. Critiques (2)
10. Critiques (3)
11. Projects (1)
12. Projects (2)
13. Presentation
14. Presentation
15. Presentation

5. 評価の方法・基準

平常点、発表、小レポートを総合的に判断して評価する。
60 点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

- 授業では個人作業だけでなく、グループの作業も行う。役割分担をしながら、班全体で協力して取り組むことを期待する。
- 3 分の 2 以上の全体出席数が無い場合は、履修資格を失うので注意。
- 自主学习として、図書館の Japan Times や、インターネットで週刊 ST、Daily Yomiuri などの英字新聞を読むことを勧める。

7. 授業外学習 (予習・復習) の指示

- 各ジャンルの最終回には小レポートを課し、理解度の確認を行うので必ず提出すること。
- 授業の内容は連続しているので、欠席した場合は必ず前回授業について確認し、必要に応じてメイクアップしておくこと。

8. 教科書・参考書

- プリントを配布する。
- 辞書

9. オフィスアワー

- オフィスアワー : 研究室前の掲示を参照
- 研究室 : 総合教育棟 410
- 連絡先 : hatcho@dhs.kyutech.ac.jp

英語 C I English C I

対象学科 (コース) : 全学科 (人間科学科目)

学年 : 2 年次 学期 : 前期 単位区分 : 必修 単位数 : 1 単位

担当教員名 大野 瀬津子

1. 概要

総合的な英語力の向上を目指す。特に英語を「読む」と「話す」ことに力点を置く。「読む」ことに関しては、パラグラフ・リーディングを通じ、段落ごとの概要、および文章全体の論理的構成を把握する練習をする。また、「話す」ことに関しては、スピーチの機会を設けることにより、自分の意見を英語で論理的に整理し伝える練習をする。この授業を、今後の学習に役立てて欲しい。

2. キーワード

パラグラフ・リーディング、論理的思考力、スピーチ

3. 到達目標

- さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につける。
- 多種多様な英語に慣れる。

4. 授業計画

1. イントロダクション
2. Unit 1 My Club Activities
3. Unit 2 How Committed Are You to Learning English?
4. Unit 3 What Do You Want to Do with Your Life?
5. Unit 4 My Part-time Job
6. Unit 5 How Do You Keep Fit?
7. アウトライン発表会
8. スピーチ・コンテスト 予行演習
9. スピーチ・コンテスト
10. スピーチ・コンテスト
11. スピーチ・コンテスト
12. スピーチ・コンテスト
13. スピーチ・コンテスト
14. スピーチ・コンテスト
15. スピーチ・コンテスト

5. 評価の方法・基準

原則として、活動参加 50%、スピーチ 50% で評価する。総合評価で 60% 以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

- 3 分の 2 以上の全体出席数がないと、履修資格を失う。
- 成績評価のフィードバックについて、個別に対応が必要な場合はオフィスアワーを当てる。
- 私語、内職、携帯電話の使用、居眠り等は厳禁。学生主体の授業なので、毎回、十分な予習と復習、授業への積極的参加を求める。
- 毎回辞書を持参すること。
- インターネットや図書館の English Journal 等を利用し、ネイティブ・スピーカーのスピーチを数多く視聴することを勧めたい。

7. 授業外学習 (予習・復習) の指示

毎回授業で指示された教科書の該当箇所を事前に読み、指示されたやり方でレポートにまとめておくこと。アウトライン発表会、スピーチ・コンテスト 予行演習、スピーチの回には、事前に指示されたやり方で発表原稿を作成しておくこと。自分のスピーチ発表の前は、事前に予行演習を何回もしておくこと。

8. 教科書・参考書

教科書 : Your First Speech and Presentation (南雲堂) 836.7/T-1

9. オフィスアワー

研究室前に掲示。(研究室 : 総合教育棟 S408)

英語 C I English C I

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目）

学年：2 年次 学期：前期 単位区分：必修 単位数：1 単位

担当教員名 田吹 昌俊

1. 概要

英語の多角的運用能力を高める目的で、読み、聞き、話すという観点から英語に取り組むが、ここでは特に英文の読解の能力の養成を目指す。また、Listening Comprehension の訓練も行う。題材は科学分野の知的好奇心を刺激する読み物を扱う。

2. キーワード

科学技術、環境、自然、健康

3. 到達目標

- さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につける。
- 多種多様な英語に慣れる。

4. 授業計画

1. オリエンテーション
2. The March of the Microbes
3. Genetic Doping
4. Ethics in Science
5. Tsunami, Hurricanes, and Global Warming
6. World Population
7. After the Peak Oil Crash
8. Starvation, Famine and Hunger
9. Nanotechnology
10. Efficient Cars
11. Cyborgs
12. Identity Theft
13. Chaos Theory
14. Comets, Meteors and Asteroids
15. Space Stations and Outer Space Exploration

5. 評価の方法・基準

学期試験、授業での小テスト、発表、レポートを総合的に判断して評価する。総合評価で 60 点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

- (1) 授業への十分な準備と積極的な参加を前提とする。準備不足のため質問に答えられない場合は減点対象となる。（私語、内職、携帯電話等は厳禁。）
- (2) 英英辞書か英和辞書を携帯すること。
- (3) 3 分の 2 以上の全体出席数がないと、履修資格を失う。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

授業範囲の予習として、不明な専門用語の意味を調べておくこと。

8. 教科書・参考書

教科書：Bruce Allen: *Imagining Tomorrow* (Seibido) 830.7/A-39/1

9. オフィスアワー

木曜日 4 時限目（総合教育棟 4 階 414）

英語 C I English C I

対象学科（コース）：全学科

学年：2 年次 学期：前期 単位区分：必修 単位数：1 単位

担当教員名 虹林 慶

1. 概要

厳選されたテキストについて、読解（構造理解、語彙、文化的な背景）とディスカッションを行う。

2. キーワード

異文化理解、カルチュラル・リテラシー、リーディング・スキル

3. 到達目標

- さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につける。
- 多種多様な英語に慣れる。

4. 授業計画

1. They Gave Her a Rise の導入
2. They Gave Her a Rise の英語表現確認および Same Time, Same Place の導入
3. Same Time, Same Place の英語表現確認
4. Mr Loveday's Little Outing の導入
5. Mr Loveday's Little Outing の英語表現確認
6. Tea の導入
7. Tea の英語表現確認
8. レビュー・テスト 1
9. The Bath の導入
10. The Bath の英語表現確認
11. A Bit of Singing and Dancing の導入
12. A Bit of Singing and Dancing の英語表現確認
13. A Bit of Singing and Dancing の英語表現確認
14. A Bit of Singing and Dancing の英語表現確認
15. レビュー・テスト 2
16. まとめ

5. 評価の方法・基準

定期試験と授業参加点を総合的に評価し、60 点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

- 3 分の 2 以上の出席を履修の原則とする。（履修細則第 11 条 2）
- 試験の結果のフィードバックは個別に行う。
- 予習、復習を前提とした授業である。
- 授業態度が悪い場合（私語、内職、携帯の使用など）は減点や除名の対象となることがある。
- 教科書に取り上げられたテーマに関連したビデオ教材（附属図書館蔵）を授業時間外にみることが有益である。（詳細は授業中に説明する。）

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

事前に指定された箇所について、課題を期日までに提出すること。指定については授業進行に合わせて行う。

8. 教科書・参考書

教科書：From the Cradle to the Grave (Oxford University Press) ISBN: 9780194226929

参考書：新版研究社英和中辞典（辞書を持たない人に）833/K-31/7（第 7 版）

Oxford Advanced Learner's Dictionary（英英辞書に関心がある人に）833/H-6

9. オフィスアワー

水曜日（17:00～18:00）（総合教育棟 3 階：S313）

英語 C I English C I

対象学科（コース）：全学科

学年：2 年次 学期：前期 単位区分：必修 単位数：1 単位

担当教員名 吉村 理一

1. 概要

学士（大卒者）には英語運用に関わる確かな基礎力と国際的な視野に立って考える力、知識が求められる。特に工学部の学生は、将来様々な国々の人々との技術協力や事業展開に関わることが期待されているため、専門用語の習得に加え、意思疎通を図ることが出来る程度の英語運用能力は必要である。

『英語 C I』では、様々な国々で話される英語（英語を母語としない人々が話す英語）の「聴き取り」の力の向上と、その力の養成に必要な「文法」、「語彙」、そして「発音」の向上を目指す。また、自分の意見の論述や質疑応答を英語で自信を持って行えるように「発信力」の育成に重点を置く。

2. キーワード

- ・多種英語
- ・情報共有
- ・情報発信
- ・サイト・トランスレーション
- ・シャドーイング
- ・パラフレージング
- ・サマライゼーション

3. 到達目標

- ・さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につける。
- ・多種多様な英語に慣れる。

4. 授業計画

- 第1回 Course Introduction
- 第2回 Chapter 1 Australia
- 第3回 Chapter 2 Indonesia
- 第4回 Chapter 3 Singapore
- 第5回 Chapter 4 China
- 第6回 Chapter 5 Argentina
- 第7回 Chapter 6 Mexico
- 第8回 Chapter 7 Germany
- 第9回 Chapter 8 Finland
- 第10回 Chapter 9 Poland
- 第11回 Chapter 10 Spain
- 第12回 Chapter 11 Greece
- 第13回 Chapter 12 Kenya
- 第14回 Chapter 13 Morocco
- 第15回 Chapter 14 Lebanon
- 第16回 期末試験

5. 評価の方法・基準

- ・積極的な授業参加（予習・プレゼン・ディスカッション等）40%
 - ・期末試験 60%
- 総合評価 60%以上を合格とする。

（出席と授業での取り組みを単位取得の大前提とするため、積極的に取り組んでください。）

6. 履修上の注意事項

- （1）3分の2以上の全体出席数がないと、履修資格を失う。
- （2）私語、内職、携帯電話の使用、居眠り等は厳禁。欠席として扱い、最悪の場合、除名する。
- （3）学生主体で進めるため、毎回、十分な予習と復習、授業への積極的参加を求める。プレゼンの担当者は必ず万全の準備をして臨むこと。
- （4）毎回辞書を持参すること。（スマートフォンやタブレット等を辞書として使用することは認めない。）
- （5）自宅学習できるようにDVDが付属されているため、予習と復習の際に必ず視聴して積極的に英語を耳に入れ、スクリプトをもとに音読練習することを強く勧める。

トをもとに音読練習することを強く勧める。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

【予習】

担当教員が指示した予習箇所は必ず授業までにやってくるようにしてください。その際、DVDを見て学習をしておいてください。予習の段階で分からない語句は調べておくようにしてください。

【復習】

授業中に出来なかったことを中心に復習し、もう一度DVDを見てリスニングと音読の練習をしてください。

【プレゼンテーション】

必ず1回は英語でプレゼンをしてもらいます。自分の担当分野のことを調べ、効果的に伝えられる努力をしてみてください。

8. 教科書・参考書

教科書：

On Board for More World Adventures 続・DVDで学ぶ世界の文化と英語（金星堂）ISBN: 978-4-7647-3991-8

9. オフィスアワー

ご質問、ご相談等は授業後あるいはメールで受け付けます。

メールアドレス：r-yoshimura@kyudai.jp

英語 C I English C I

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目）

学年：2年次 学期：前期 単位区分：必修 単位数：1単位

担当教員名 松本 知子

1. 概要

話題性のある英字新聞に触れ、英語のリーディング能力を高めるとともに、ニュース記事について多角的に捉え、自分の意見を英語で述べる能力をつけることを目標とする。多様性、段階性のある練習問題とタスクを通じて、総合的な英語力の向上をめざす。

2. キーワード

時事英語、読解力、文法、語彙、4技能

3. 到達目標

- さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につける。
- 多種多様な英語に慣れる。

3. 到達目標

1. Introduction
2. Chapter 1: Required English from third grade eyed
3. Chapter 1: Required English from third grade eyed
4. Chapter 2: Amazon plans drone delivery of packages in less than 30 minutes
5. Chapter 2: Amazon plans drone delivery of packages in less than 30 minutes
6. Chapter 3: Japanese cuisine added to UNESCO intangible heritage list
7. Chapter 3: Japanese cuisine added to UNESCO intangible heritage list
8. Chapter 4: Captain of Sunken South Korean Ferry Arrested by Police
9. Chapter 4: Captain of Sunken South Korean Ferry Arrested by Police
10. Chapter 5: Ruling LDP's debate on family expected to be rocky
11. Chapter 5: Ruling LDP's debate on family expected to be rocky
12. Chapter 6: Japanese 'Snoopy' island created by volcanic eruption
13. Chapter 6: Japanese 'Snoopy' island created by volcanic eruption
14. Chapter 7: Launch of the Epsilon rocket
15. Course Review

5. 評価の方法・基準

授業への積極的参加・発表点 20%、小テスト・課題提出 30%、期末試験 50%で評価する。総合評価で 60%以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

- 全授業の3分の2以上の出席数がないと履修資格を失う。
- 毎回、十分な予習と復習を必須とし、授業への積極的参加をポイントに加味する。
- 授業態度が悪い学生（私語、居眠り、内職、携帯電話の使用等）や予習の不十分な学生は、減点の対象となることがある。
- 毎回辞書（携帯電話の辞書機能使用は不可）を持参すること。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

- 各回の該当チャプターの本文に目を通して、不明な単語を調べておくこと。
- 各回の該当チャプターの練習問題を事前にやっておくこと。
- 前回の授業を復習しておくこと。
- 各チャプターの内容を十分理解した上で自己の意見を発展させることが必須となる。

8. 教科書・参考書

教科書：Open your Eyes through News in English（三修社）

ISBN: 978-4-384-33451-7

その他、適宜プリントを配布する。

9. オフィスアワー

質問や相談は授業終了後をお願いします。

e-mail: matsumoto@gm.ftokai-u.ac.jp

英語 C I English C I

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目）

学年：2年次 学期：前期 単位区分：必修 単位数：1単位

担当教員名 江口 雅子

1. 概要

英字新聞記事を読むことにより、英語の運用能力を高めると同時に、現代という時代を感知し、視野を広げ、新しい時代に向けた知見を得ることを目標とする。英文読解力を強化し、練習問題を通じ、リスニング力、ライティング力と総合的に英語の能力を高めていく。関連する学習として、毎回、最新のニュースの提示、解説も行なう。英語を読み解き、英文を通じ、現代社会を捉え、未来への橋渡しとすることを教育目標とする。

2. キーワード

英字新聞読解、最新ニュース、文法理解

3. 到達目標

- さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につける。
- 多種多様な英語に慣れる。

4. 授業計画

1. Course Introduction
2. Chapter 1 Astronaut Wakata, 1st Japanese ISS Commander, returns to Earth
3. Chapter 1 Astronaut Wakata (2)
4. Chapter 2 U.S. Ambassador Caroline Kennedy visits Nagasaki (1)
5. Chapter 2 U.S. Ambassador (2)
6. Chapter 3 Obama warns Russia over military moves in Crimea (1)
7. Chapter 3 Obama warns (2)
8. Chapter 4 Reported food allergies on rise among students in Japan (1)
9. Chapter 4 Reported food (2)
10. Chapter 5 U.N. study: Electrical waste up by third by 2017 (1)
11. Chapter 5 U.N. study (2)
12. Chapter 6 More university students looking for post-graduation employment
13. Chapter 6 More university students (2)
14. Chapter 7 *12 Years a Slave* win best picture at Oscars
15. Course Review

5. 評価の方法・基準

期末試験 50%、小テスト 30%、活動参加・発表点 20%で評価する。総合評価で 60%以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

- 全授業の3分の2以上の出席数がないと履修資格を失う。
- 私語、携帯電話の使用、居眠り等は厳禁。
- 学生主体の授業なので、毎回、十分な予習と復習、授業への積極的参加を求める。
- ネット上で、各テーマに関する検索をし、概略を把握しておくことは有効である。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

- 各回該当チャプターの英文を事前に読んでおくこと。
- 各回該当チャプターの練習問題を事前にやっておくこと。
- 小テストを行うので前回授業の英語語彙について復習をしておくこと。

c 教科書：News Gallery 2015 (Kaibunsha Publications)
ISBN: 9784875711605

参考書：リーダーズ英和辞典（研究社）の入った英語専用モデルの電子辞書を勧める。

9. オフィスアワー

質問や学習相談は授業終了後に。

メールアドレス: teddybear610@do9.enjoy.ne.jp

英語 C I English C I

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目）

学年：2年次 学期：前期 単位区分：必修 単位数：1単位

担当教員名 坂口 由美

1. 概要

めまぐるしく変化する現代社会において、世界中の有名な芸術家、企業家たちのサクセスストーリーを通して、外国人の思想、文化的背景を学ぶ。日英表現を比較して、異文化に対する興味、関心を引き起こすことを目標とする。

2. キーワード

日常的基礎知識 基本的文法力、読解力、リスニング力

3. 到達目標

- さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につける。
- 多種多様な英語に慣れる。

4. 授業計画

1. オリエンテーション（授業の進め方、目標等の説明）
2. Walt Disney World
3. The Rapid Development of the COca-Cola Company
4. New York's Wall Street
5. Ingenuity
6. Adjusting to the Changing Times
7. Positive Thinking
8. Luck is an Accidental Product?
9. Success Stories in the Business World
10. Original Art Works
11. What Provides Children with
12. Jewish Education
13. The Significance of History
14. Speeches by Citizens
15. 試験
16. 試験の解説等、まとめ

5. 評価の方法・基準

期末試験（70%）

出席点、受講態度（30%）により総合的に評価し、60%以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

- 3分の2以上の出席が、履修資格の条件。
- 私語、携帯電話の使用、居眠り等は厳禁。
- 毎回辞書を持参すること。
- 予習をしていることを前提に授業を進めるので、毎回の予習は必ずしておくこと。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

予習：次回の Unit の本文に目を通して、不明な単語を調べておくこと。

復習：前回の本文の内容をまとめておき、次回の授業時に提出すること。

8. 教科書・参考書

教科書：The Secret of Success (Aahi Press) ISBN: 9784255155432

9. オフィスアワー

メールアドレス yume0801@iris.ocn.ne.jp

英語 C I English C I

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目）

学年：2年次 学期：前期 単位区分：必修 単位数：1単位

担当教員名 森 千鶴

1. 概要

日常生活に根ざした実用的な英語の使い方に慣れ、聞いたり読んだりして得た情報をもとに、自分の考えなどを書いたり話したりして、表現できるようになることを目標とする。内容については、学生の多様な興味に対応するため、「オーガニック食品」「キャラクター文化」「オフィス・ゴシップ」など日常的话题をトピック別に編集してあるテキストを用いる。「聞くこと」に関しては、適宜 TOEIC の問題を解くことによって演習する。

2. キーワード

日常的话题、基本的な英語、4技能

3. 到達目標

- さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につける。
- 多種多様な英語に慣れる。

4. 授業計画

1. オリエンテーション
2. Pro Gaming
3. Organic Food
4. Character Culture
5. Language Change
6. Unlocking Motivation
7. Yellow Dust Storms
8. これまでのまとめ、表現活動
9. The End of Privacy
10. Going Carbon Neutral
11. Retro Style
12. Insourcing
13. Office Gossip
14. Stem Cells
15. これまでのまとめ、表現活動
16. 試験

5. 評価の方法・基準

- (1) 学期試験—60%
 - (2) 授業での小テスト—20%
 - (3) 授業での発表や提出物—20%
- 総合評価で60%以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

- (1) 授業への準備不足のため質問に対して答えられない学生にはマイナス評点を与える。私語、携帯電話の使用は厳禁。
- (2) 英和辞書、和英辞書を持参すること。
- (3) 3分の2以上の全体出席数がないと、履修資格を失う。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

- 各回に指示のある教科書の該当箇所について事前に読んでおくこと。
- 授業終了時に示す英作文課題を完成させ提出すること。
- 毎回の授業の復習をすること。

8. 教科書・参考書

教科書 Reading Pass 3 (Second Edition) (南雲堂) ISBN: 9784523176107

その他、適宜プリントを配布する。

9. オフィスアワー

オフィスアワーはありませんが、質問等はメール（アドレス：morichiz@fukuoka-edu.ac.jp）で随時受け付けます。

英語 C I English C I

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目）

学年：2年次 学期：前期 単位区分：必修 単位数：1単位

担当教員名 田吹 香子

1. 概要

ニュースを素材にしたビデオ、CDを活用し、英語のリスニング能力を高めることに重点を置き、英語耳を育成する。さらに、耳で聞いた英文を目で読んで内容を確認し、その情報を元に自己のメディア・リテラシーを高めるなど、様々な英語の能力を駆使して実力を育成することを目標とする。

2. キーワード

ディクテーション、主体的学習、時事英語読解、日本社会事情の理解、外国から見た日本の特徴を知る比較文化的視野を持つこと。

3. 到達目標

- さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につける。
- 多種多様な英語に慣れる。

4. 授業計画

1. オリエンテーション
2. Unit 1 Box Stars
3. Unit 2 Tearing Down Language Barriers
4. Unit 4 Waking Up Sleeping Patents
5. Unit 5 Traditional Japanese Cuisine
6. Unit 6 The Cost of Convenience
7. Unit 8 Operating Rooms on Wheels
8. Unit 9 Off the Tourist Trail
9. Unit 10 Blindness No Battier
10. Unit 11 Against the Grain
11. Unit 12 Healthy Workers Paying Off
12. Unit 13 Japanese-style *Halal*
13. Unit 14 Long-lasting Food
14. Unit 15 Touching Is Believing
15. 関連情報を使ったまとめ

5. 評価の方法・基準

評点の満点を100%とし、その内授業での発言や活動を40%、定期試験を60%として評価する。総合評価で60%以上を合格とする。（授業内活動に関して初回の授業で配点を詳しく説明するので、必ず出席すること）

6. 履修上の注意事項

- 3分の2以上の全体出席数がないと、履修資格を失う。
- 個別に対応が必要な場合は授業前後の時間を当てる。
- 私語、内職、携帯電話の使用、居眠り等は厳禁。毎回、十分な予習と復習を必須とし、授業への積極的参加を評点に加味する。
- 毎回辞書を持参すること。
- 授業態度が悪い場合は、減点の対象とすることもある。
- 教科書を持参しない場合、出席とはみなさない。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

- 予習に関してはオリエンテーションで詳しく説明するので、その通りにしてくること。
- 毎回小テストを行うので、学習した内容を復習すること。
- 復習方法としては「音読」、「付属DVDを使ったシャドーイング」を勧める。最低でもスクリプトを3回音読し、DVDを視聴すること。
- 本授業は「英語力」を高めることだけでなく、英語で日本の社会現象を考察することも目標とするので、各ユニットの内容を十分理解した上で自己の意見を発展させることが必須となる。

8. 教科書・参考書

教科書：What's on Japan 9（金星堂）ISBN: 9784764739949

9. オフィスアワー

授業時間前後

（連絡用メールアドレス等はオリエンテーションで伝えます）

英語 C I English C I

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目）

学年：2年次 学期：前期 単位区分：必修 単位数：1単位

担当教員名 永次 健人

1. 概要

様々なトピックについて、英語で読み、National Geographicの写真や映像を通して理解するとともに、それらについて、批判的に考え、議論する能力を身に付けることを目標とする。読解を中心にしながら、他の技能についても、向上をめざす。

2. キーワード

異文化理解、時事英語、リーディング、4技能

3. 到達目標

- さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につける。
- 多種多様な英語に慣れる。

4. 授業計画

1. Introduction
2. Unit 1: Food and Health
3. Unit 1: Food and Health
4. Unit 2: Our Bond with Animals
5. Unit 2: Our Bond with Animals
6. Unit 3: History Detectives
7. Unit 3: History Detectives
8. Unit 4: Traditions and Rituals
9. Unit 4: Traditions and Rituals
10. Unit 5: Urban Underworlds
11. Unit 5: Urban Underworlds
12. Unit 6: Reef Encounters
13. Unit 6: Reef Encounters
14. Review and instructor's material
15. Exam Review and Conclusion

5. 評価の方法・基準

授業への積極的参加（20%）、小テスト・課題提出（40%）、期末試験（40%）
60%以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

- 3分の2以上の全体出席数がないと、履修資格を失う。
- 予習を前提とする。
- 授業態度が悪い学生（私語、居眠り、内職、携帯電話の使用等）や予習の不十分な学生は、減点の対象となることがある。
- 毎回辞書（携帯電話の辞書機能使用は不可）を持参すること。
- 授業の進行予定は、学生の理解度に応じて、変更することがある。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

各回に指示のあるテキストの該当箇所について、読んでおくこと。

また、事前に指示されたテキスト内の課題を済ませておくこと。むろん、指示された以外の部分も自主的に予習しておくことが望ましい。

8. 教科書・参考書

教科書：Reading Explorer 2（Cengage Learning）ISBN: 9781305254473

9. オフィスアワー

質問等は授業時間前後に受け付ける。

英語 C I English C I

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目）

学年：2年次 学期：前期 単位区分：必修 単位数：1単位

担当教員名 今川 京子

1. 概要

英字新聞に掲載された記事を読みニュースメディアの英語を学習する。社会・文化・政治経済・情報・言語・教育・科学・医学・環境・娯楽・スポーツなどの幅広い分野の記事を読み、身近に世界中のニュースに触れ、読み、聞き、話し、書く楽しさを育みながら、多角的にそして複眼的に英語運用能力が培われるのを目指す。学生には、記事に関連した多様な社会問題に関して自発的に調べ、自らの意見を英語で発信する能力を高めることを目標とする。また、英語文化圏の歴史と文化を知るための入門として、適宜マザーグースを紹介する。

2. キーワード

パラグラフ・リーディング、リスニング、プレゼンテーション、異文化及び時事問題への理解

3. 到達目標

- ・さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につける。
- ・多種多様な英語に慣れる。

4. 授業計画

1. イントロダクション
2. In Taking Jobs, Women Take On a Saudi Taboo.
3. Fortune-seeking migrants turn to Mexico.
4. Japanese Team Dominates Competition to Create Generation.
5. A Borderline Where Women Bear the Weight.
6. E-Cigarettes, by Other Names, Lure Young and Worry Experts.
7. NYC fans of Kyary Pamyu Pamyu share 'zest for life'.
8. Pakistanis ambivalent about Malala.
9. Chinese schooling wins praise — but not from nation's parents or educators.
10. Ethnic strife unsettles a lawless frontier.
11. Learning to speak Brazinglish.
12. 'How are you?' Don't ask!
13. New generation of innovators emerges in Japan.
14. Striding toward a national image.
15. Hanyu embraces new role as Olympic champ.

5. 評価の方法・基準

予習及び授業への積極的参加態度 20%、ミニレポート 10%、プレゼンテーション及び課題 20%、期末テスト 50%で評価します。総合評価で 60%以上を合格とします。

6. 履修上の注意事項

- ・全授業の 3 分の 2 以上の出席数がないと、履修資格を失います。
- ・授業中の私語、携帯電話の使用、居眠り等は厳禁です。
- ・毎回、辞書を持参してください。
- ・毎回、十分な予習、授業への積極的な参加を求めます。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

受講者は全員、各回ごとに指示のある教科書の該当箇所を事前に読み、Words and Phrases や Summary の穴埋め、Exercises をやっておくこと。

8. 教科書・参考書

教科書：15 Selected Units of English through the News Media. 2015 Edition (Asahi Press) ISBN: 9784255155500 (2014ed.)

9. オフィスアワー

質問や相談は授業終了後をお願いします。
e-mail: kyoko.gyan@gmail.com

英語 C I English C I

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目）

学年：2年次 学期：前期 単位区分：必修 単位数：1単位

担当教員名 飯田 弘子

1. 概要

英語の総合的な運用能力を高めるために読みやすい英語で学ぶ日米比較文化を通して英語の読解力と聴解力を中心に、聞く、話す、読む、書くという英語の能力を培うことを目指す。同時に発音の練習に力を入れて、再訓練する。

2. キーワード

異文化理解、コミュニケーション、情報交換

3. 到達目標

- ・さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につけて、総合的な英語力を育成する。

4. 授業計画

1. Introduction+Lesson 1: Cherry Blossoms
2. Names
3. Sports.
4. Employment
5. Movies
6. Karaoke.
7. Shaking hands
8. Job hopping
9. Money or greeting cards.?
10. Cash or credit card?
11. Independence or parasite?
12. Working year around.
13. Low birthrate
14. Review
15. Final Test.

5. 評価の方法・基準

Class attendance (33%)、Class participation (33%)、Final test (33%)。

総合評価で 60%以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

- ・3 分の 2 以上の全体出席数がないと、履修資格を失う。
- ・毎回辞書を持参すること。授業中の私語、携帯電話の使用、居眠り等は厳禁。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

今回の授業範囲の予習として、不明な専門用語の意味を調べておくこと。

8. 教科書・参考書

教科書：Spotlight on America and Japan（南雲堂）ISBN: 9784523177241

9. オフィスアワー

授業時間 15 分前後 iida0818@gmail.com

英語 C I English C I

対象学科 (コース): 全学科 (人間科学科目)

学年: 2 年次 学期: 前期 単位区分: 必修 単位数: 1 単位

担当教員名 林 恵子

1. 概要

アメリカの有力経済紙『ウォール・ストリート・ジャーナル』(The Wall Street Journal. WSJ)の東京支局の記者が「いま一番新しい日本」を世界に向けてレポートするブログサイト Japan Real Time (JRT) のコーナーで連載されている記事を読み、現代社会の様々な問題に触れながら、英語を聞き内容を理解する力と、英文を読み内容を理解する力を培い、総合的な英語力の向上を目指します。また、各課のテーマについて問題意識をもち、自ら意見を述べる力を培います。適宜に、パラグラフ・リーディングを通して段落ごとの要約の練習を行い、速読のスキルを高めます。また、各テーマに関しての学生の皆さんによるプレゼンテーションも行い、積極的な授業への参加を期待します。

2. キーワード

パラグラフ・リーディング、リスニング、異文化及び時事問題への理解

3. 到達目標

- さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につける。
- 多種多様な英語に慣れる。

4. 授業計画

1. イントロダクション.
2. Unit 1. 5 Things You Didn't Know About Kawaii.
3. Unit 2. Uniqlo Finds Wealth of Data in Bangladesh Not-For-Profit Venture.
4. Unit 4. Harvard Degree: The Political Economy of Kumamon.
5. Unit 5. Saving Fukuoka's Street Food.
6. Unit 6. A Japanese Artist Finds New Life A Year After the Quake.
7. Unit 7. Fictional Japanese TV Banker Takes Double the Payback.
8. Unit 8. As Sentiment Improves, Red Lipstick Back in Vogue.
9. Unit 12. Fukushima Watch: Who Wrote the New Anti-Nuke Novel?
10. Unit 13. For Some, Scented Fabric Softeners No Laughing Matter.
11. Review
12. 英文学訪問: シェイクスピア『ロミオとジュリエット』一名場面より
13. 『ロミオとジュリエット』の DVD 鑑賞
14. プレゼンテーション①
15. 学期末試験
16. プレゼンテーション②

5. 評価の方法・基準

予習及び授業への積極的参加態度 20%、小テスト 10%、プレゼンテーション及び課題 20%、期末テスト 50% で評価します。総合評価で 60% 以上を合格とします。

6. 履修上の注意事項

- 全授業の 3 分の 2 以上の出席数がないと、履修資格を失います。
- 授業中の私語、携帯電話の使用、居眠り等は厳禁です。
- 毎回、辞書を持参してください。
- 毎回、十分な予習、授業への積極的な参加を求めます。

7. 授業外学習 (予習・復習) の指示

2 回目から 10 回目までは各 Lesson の予習をしておいてください。3 回目から 11 回目までは前 Lesson の復習、及び、復習小テストの勉強をしておいてください。12 回目は『ロミオとジュリエット』の予習をしておいてください。14 回目、及び、16 回目はプレゼンテーションのためのハンドアウトを作成しておいてください。

8. 教科書・参考書

教科書: 15 Things Happening in Japan (2015 年度版/松柏社) ISBN: 9784881987070

9. オフィスアワー

質問や相談は授業終了後をお願いします。
メールアドレス: scotty@jeans.ocn.ne.jp

英語 C I English C I

対象学科 (コース):

学年: 2 年次 学期: 前期 単位区分: 必修 単位数: 1 単位

担当教員名 高田 とも子

1. 概要

本講義では、芸術・文学・心理学・ファッションといった私たちの日常生活にとって身近なトピックと扱った英文を読み解くことで、総合的な英語能力を養うと同時に、現代社会を取り巻く問題を英語で考える能力を養うことを目的とする。受講生には、各セッションのテーマに即したプレゼンテーションを行ってもらい、毎回のセッションで扱われているトピックに関する深い考察を行ってもらおうと同時に、論点を他人に分かりやすく伝えるという過程を通し、情報発信能力の向上にも努めてもらいたい。毎回の授業では、語彙力強化の為に単語テストを実施する。

2. キーワード

3. 到達目標

- さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につける。
- 多種多様な英語に慣れる。

4. 授業計画

1. Introduction
2. Unit 1, Reading 1: The Toe of the Shoe
3. Unit 1, Reading 2: Trousers and Skirts
4. Unit 2, Reading 1: Cleanliness
5. Unit 2, Reading 2: Cleaner Fish
6. Unit 3, Reading 1: Frida Kahlo
7. Unit 3, Reading 2: Digital Photop Illustration
8. Unit 4. Reading 1: Body Language
9. Unit 4. Reading 2: Extraversion and Introversion
10. Unit 5. Reading 1: Doctors Without Borders
11. Unit 5. Reading 2: Stranglers in a Strange Land
12. Unit 6. Reading 1: Animal Rights
13. Unit 6. Reading 2: Clone Farm
14. Unit 7. Reading 1: Winterblossom Garden
15. Unit 7. Reading 2: Mrs. Sen's (予定)

5. 評価の方法・基準

授業への積極的参加態度 30%、プレゼンテーション 20%、小テスト 10%、期末テスト 40% で評価する。総合評価で 60% 以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

- 3 分の 2 以上の出席を履修の原則とする。
- 十分な予習をすること。
- 積極的な授業への参加を求める。

7. 授業外学習 (予習・復習) の指示

受講者は全員、各回ごとに指示のある教科書の該当箇所を事前に読んでおくこと。尚、プレゼンテーション担当者はエッセイについて要約・疑問点・問題点を記したレジュメを作成すること。

8. 教科書・参考書

教科書: Connection 4 (松柏社) ISBN: 9784881986998

9. オフィスアワー

質問や連絡事項がある場合には、メールにて対応する。
tmknagakawa@yahoo.co.jp

英語 C I English C I

対象学科 (コース) : 全学科

学年 : 2 年次 学期 : 前期 単位区分 : 必修 単位数 : 1 単位

担当教員名 Ian Ruxton

1. 概要

The aim of this class is to improve listening, reading, writing and speaking skills through the study of British culture. Satisfactory attendance is required.

2. キーワード

Britain, culture, inter-cultural communication

3. 到達目標

- さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につける。
- 多種多様な英語に慣れる。

4. 授業計画

1. The British Isles
2. Very British
3. Influences
4. Empire
5. Politics
6. The Monarchy
7. A world role
8. Being British
9. The British year
10. Many faiths
11. Coming to Britain
12. At home
13. In the family
14. At school
15. Test
16. Review

5. 評価の方法・基準

Coursework, Tests

6. 履修上の注意事項

You must attend at least 2/3rds of classes. You must show a positive attitude in class.

7. 授業外学習 (予習・復習) の指示

- 1) Read the text book before class.
- 2) Check the meaning of keywords before class using dictionaries and internet.
- 3) Be ready to discuss readings in class.

8. 教科書・参考書

In Britain: 21st Century Edition (Macmillan Language House) 830/V-3/2

9. オフィスアワー

Mondays : 12 : 00 – 2 : 30pm.

ruxton@dhs.kyutech.ac.jp (Room 404 General Education Building)

英語 C I English C I

対象学科 (コース) : 全学科 (人間科学科目)

学年 : 2 年次 学期 : 前期 単位区分 : 必修 単位数 : 1 単位

担当教員名 Robert Long

1. 概要

Satisfactory attendance is required. Students' effort in the class is also evaluated by the weekly assignments, time spent on various speaking topics, and email assignments. Extra credit can be earned through presentations and through the writing/email assignments. The syllabus provides engineering topics for students in their own field.

2. キーワード

Critical Thinking, communication, analysis, writing, debates

3. 到達目標

- さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につける。
- 多種多様な英語に慣れる。

4. 授業計画

1. Overview of class, video homework
2. Seminar: Video homework/Chapter 1 Food
3. Seminar: Video homework & Chapter 1/Chapter 2 Urban Problems
4. Seminar: Video homework & Chapter 2/Chapter 3 Culture
5. Seminar: Video homework & Chapter 3/Chapter 4 Environment
6. Seminar: Video homework & Chapter 4/Chapter 5 Work
7. Seminar: Video homework & Chapter 5/Chapter 6 Health
8. Seminar: Video homework & Chapter 6/Chapter 7 Family
9. Seminar: Video homework & Chapter 7/Chapter 8 Money/Financial Problems
10. Seminar: Video homework & Chapter 8/Chapter 9 Gender Issues
11. Seminar: Video homework & Chapter 9/Chapter 10 Personal Issues
12. Seminar: Video homework & Chapter 10/Chapter 11 Space
13. Seminar: Video homework & Chapter 11/Chapter 12 Social Media
14. Seminar: Video homework & Chapter 12/Chapter 13 Global Militarization
15. Exam
16. Seminar: Video homework & Chapter 13/Review

5. 評価の方法・基準

Weekly Seminar Reports 40 %, Chapter Homework 40 %, Tests 20%

6. 履修上の注意事項

Students are highly encouraged to find more information on the topics above from the Internet and to provide interesting comments and opinions as a basis for further conversation.

7. 授業外学習 (予習・復習) の指示

Watch the Youtube videos (class homework) that relate to each theme and write out important questions and comments to talk about in class. Also, read ahead in the next chapter so as to familiarize yourself with the tasks and vocabulary.

8. 教科書・参考書

Connections: Understanding Social and Cultural Issues (Third Edition) (Perceptia Press) ISBN: 9781411680692

9. オフィスアワー

Monday : 11 : 00 – 12 : 00, 13 : 00 – 14 : 00

Tuesday : 11 : 00 – 12 : 00, 13 : 00 – 14 : 00

long@dhs.kyutech.ac.jp (Room 406 General Education Building)

英語 C II English C II

対象学科（コース）：全学科

学年：2 年次 学期：後期 単位区分：必修 単位数：1 単位

担当教員名 八丁 由比

1. 概要

演習型授業。最終的な目標は英語で情報発信ができるようになること。英語の文章は、日本語の文章に比べて固定的な構成パターンに沿って構成される。よって、これを理解することにより、的確に読み、理解される文章を書き、話すことができる。本授業では、英文の特徴を分析しながら英文を読み、スタイルのある文章を書く方法を学ぶ。学期の後半には、口頭発表による情報発信も行う。

2. キーワード

英文スタイル、作文

3. 到達目標

- さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につける。
- 多種多様な英語に慣れる。

4. 授業計画

1. デモンストレーション、サンプル・リーディング
2. Report (1)
3. Report (2)
4. Report (3)
5. Essay (1)
6. Essay (2)
7. Essay (3)
8. Critiques (1)
9. Critiques (2)
10. Critiques (3)
11. Projects (1)
12. Projects (2)
13. Presentation
14. Presentation
15. Presentation

5. 評価の方法・基準

平常点、発表、小レポートを総合的に判断して評価する。
60 点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

- 授業では個人作業だけでなく、グループの作業も行う。役割分担をしながら、班全体で協力して取り組むことを期待する。
- 3 分の 2 以上の全体出席数が無い場合は、履修資格を失うので注意。
- 自主学习として、図書館の Japan Times や、インターネットで週刊 ST、Daily Yomiuri などの英字新聞を読むことを勧める。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

- 各ジャンルの最終回には小レポートを課し、理解度の確認を行うので必ず提出すること。
- 授業の内容は連続しているので、欠席した場合は必ず前回授業について確認し、必要に応じてメイクアップしておくこと。

8. 教科書・参考書

- プリントを配布する。
- 辞書

9. オフィスアワー

- オフィスアワー：研究室前の掲示を参照
- 研究室：総合教育棟 410
- 連絡先：hatcho@dhs.kyutech.ac.jp

英語 C II English C II

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目）

学年：2 年次 学期：後期 単位区分：必修 単位数：1 単位

担当教員名 大野 瀬津子

1. 概要

総合的な英語力の向上を目指す。特に英語を「読む」ことと「話す」ことに力点を置く。「読む」ことに関しては、パラグラフ・リーディングを通じ、段落ごとの概要、および文章全体の論理的構成を把握する練習をする。また、「話す」ことに関しては、スピーチの機会を設けることにより、自分の意見を英語で論理的に整理し伝える練習をする。この授業を、今後の学習に役立てて欲しい。

2. キーワード

パラグラフ・リーディング、論理的思考力、スピーチ

3. 到達目標

- さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につける。
- 多種多様な英語に慣れる。

4. 授業計画

1. イントロダクション
2. Unit 7 Smoking Should Be Banned in All Public Places
3. Unit 11 How can We Prevent Suicides?
4. Unit 14 Should the Age of Adulthood Be Lowered in Japan?
5. Unit 15 Should English Be Taught in Primary Schools?
6. Unit 16 Should We Let Children Use Cellphones?
7. アウトライン発表会
8. スピーチ・コンテスト予行演習
9. スピーチ・コンテスト
10. スピーチ・コンテスト
11. スピーチ・コンテスト
12. スピーチ・コンテスト
13. スピーチ・コンテスト
14. スピーチ・コンテスト
15. スピーチ・コンテスト

5. 評価の方法・基準

原則として、活動参加 50%、スピーチ 50% で評価する。総合評価で 60% 以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

- 3 分の 2 以上の全体出席数がないと、履修資格を失う。
- 成績評価のフィードバックについて、個別に対応が必要な場合はオフィスアワーを当てる。
- 私語、内職、携帯電話の使用、居眠り等は厳禁。学生主体の授業なので、毎回、十分な予習と復習、授業への積極的参加を求める。
- 毎回辞書を持参すること。
- インターネットや図書館の English Journal 等を利用し、ネイティブ・スピーカーのスピーチを数多く視聴することを勧めたい。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

毎回授業で指示された教科書の該当箇所を事前に読み、指示されたやり方でレポートにまとめておくこと。アウトライン発表会、スピーチ・コンテスト予行演習、スピーチの回には、事前に指示されたやり方で発表原稿を作成しておくこと。自分のスピーチ発表の前は、事前に予行演習を何回もしておくこと。

8. 教科書・参考書

教科書：Your First Speech and Presentation（南雲堂）836.7/T-1

9. オフィスアワー

研究室前に掲示。（研究室：総合教育棟 S408）

英語 C II English C II

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目）

学年：2 年次 学期：後期 単位区分：必修 単位数：1 単位

担当教員名 田吹 昌俊

1. 概要

英語の多角的運用能力を高める目的で、読み、聞き、話すという観点から英語に取り組むが、ここでは特に英文の読解の能力の養成を目指す。また、Listening Comprehension の訓練も行う。題材は科学分野の知的好奇心を刺激する読み物を扱う。

2. キーワード

科学技術、環境、エコロジー

3. 到達目標

- ・さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につける。
- ・多種多様な英語に慣れる。

4. 授業計画

1. オリエンテーション
2. Thw Washington Cherry Trees
3. A Modern Day Japanese Knight
4. Mona Lisa — A Mysterious Painting
5. Space Shuttle Challenger
6. Honesty Wins
7. The Family Bridge
8. Dr.Shinya Yamanaka
9. Made in Japan
10. Youth
11. Deadly Progress
12. John Matthew Ottoson
13. It's a No-brainer
14. The Genius in You
15. A Commitment to Honesty: Academic Integrity

5. 評価の方法・基準

学期試験、授業での小テスト、発表、レポートを総合的に判断して評価する。総合評価で 60 点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

- (1) 授業への十分な準備と積極的な参加を前提とする。準備不足のため質問に答えられない場合は減点対象となる。私語、内職、携帯電話等は厳禁。
- (2) 英英辞書か英和辞書を携帯すること。
- (3) 3分の2以上の全体出席数がないと、履修資格を失う。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

授業範囲の予習として、不明な専門用語の意味を調べておくこと。

8. 教科書・参考書

教科書 Reading Compass(Sanshusha)ISBN: 9784384334494

9. オフィスアワー

木曜日 4 時限目（総合教育棟 4 階 414）

英語 C II English C II

対象学科（コース）：全学科

学年：2 年次 学期：後期 単位区分：必修 単位数：1 単位

担当教員名 虹林 慶

1. 概要

厳選されたテキストについて、読解（構造理解、語彙、文化的な背景）とディスカッションを行う。

2. キーワード

異文化理解、カルチュラル・リテラシー、リーディング・スキル

3. 到達目標

- ・さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につける。
- ・多種多様な英語に慣れる。

4. 授業計画

1. Introduction/The Talk of the Town
2. The Way We Eat Now/What is Death?/What is Intelligence, Anyway
3. Prime Illusion
4. Essay for the Left Hand
5. The House/In Jail
6. A Primary Human Group/Islanders Running Out of Isolation
7. The Wilderness
8. Review Test
9. On the Path of Lafcadio Hearn
10. The Sinking of the Titanic (1)
11. The Sinking of the Titanic (2)
12. Iron-Age Man Uncovered
13. What a Zoo! — An Insult to the Animals
14. Additional Reading
15. Review Test 2
16. まとめ

5. 評価の方法・基準

定期試験と授業参加点を総合的に評価し、60 点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

- ・3分の2以上の出席を履修の原則とする。（履修細則第11条2）
- ・試験の結果のフィードバックは個別に行う。
- ・予習、復習を前提とした授業である。
- ・授業態度が悪い場合（私語、内職、携帯の使用など）は減点や除名の対象となることがある。
- ・教科書に取り上げられたテーマに関連したビデオ教材（附属図書館蔵）を授業時間外にみることは有益である。（詳細は授業中に説明する。）

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

事前に指定された箇所について、課題を期日までに提出すること。指定については授業進行に合わせて行う。

8. 教科書・参考書

教科書：The Rattle Bag: Reading English Cultures 英語文化を読む（研究社）ISBN: 9784327421090

参考書：新版研究社英和中辞典（辞書を持たない人に）833/K-31/7（第7版）

Oxford Advanced Learner's Dictionary（英英辞書に関心がある人に）833/H-6

9. オフィスアワー

水曜日（17：00～18：00）（総合教育棟 3 階：S313）

英語 C II English C II

対象学科（コース）：全学科

学年：2 年次 学期：後期 単位区分：必修 単位数：1 単位

担当教員名 吉村 理一

1. 概要

学士（大卒者）には英語運用に関わる確かな基礎力と国際的な視野に立って考える力、知識が求められる。特に工学部の学生は、将来様々な国々の人々との技術協力や事業展開に関わることが期待されているため、専門用語の習得に加え、意思疎通を図ることが出来る程度の英語運用能力は必要である。

『英語 C II』では、様々な国々で話される英語（英語を母語としない人々が話す英語）の「聴き取り」の力の向上と、その力の養成に必要な「文法」、「語彙」、そして「発音」の向上を目指す。また、自分の意見の論述や質疑応答を英語で自信を持って行えるように「発信力」の育成に重点を置く。

2. キーワード

- ・多種英語
- ・情報共有
- ・情報発信
- ・サイト・トランスレーション
- ・シャドーイング
- ・パラフレージング
- ・サマライゼーション

3. 到達目標

- ・さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につける。
- ・多種多様な英語に慣れる。

4. 授業計画

- 第1回 Course Introduction
- 第2回 Chapter 1 India
- 第3回 Chapter 2 Philippines
- 第4回 Chapter 3 Thailand
- 第5回 Chapter 4 Vietnam
- 第6回 Chapter 5 Korea
- 第7回 Chapter 6 France
- 第8回 Chapter 7 Italy
- 第9回 Chapter 8 Denmark
- 第10回 Chapter 9 Portugal
- 第11回 Chapter 10 Turkey
- 第12回 Chapter 11 Egypt
- 第13回 Chapter 12 South Africa
- 第14回 Chapter 13 Brazil
- 第15回 Chapter 14 Peru
- 第16回 期末試験

5. 評価の方法・基準

- ・積極的な授業参加（予習・プレゼン・ディスカッション等）40%
 - ・期末試験 60%
- 総合評価 60%以上を合格とする。

（出席と授業での取り組みを単位取得の大前提とするため、積極的に取り組んでください。）

6. 履修上の注意事項

- (1) 3分の2以上の全体出席数がないと、履修資格を失う。
- (2) 私語、内職、携帯電話の使用、居眠り等は厳禁。欠席として扱い、最悪の場合、除名する。
- (3) 学生主体で進めるため、毎回、十分な予習と復習、授業への積極的参加を求める。プレゼンの担当者は必ず万全の準備をして臨むこと。
- (4) 毎回辞書を持参すること。（スマートフォンやタブレット等を辞書として使用することは認めない。）
- (5) 自宅学習できるようにDVDが付属されているため、予習と復習の際に必ず視聴して積極的に英語を耳に入れ、スクリプトをもとに音読練習することを強く勧める。

トをもとに音読練習することを強く勧める。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

【予習】

担当教員が指示した予習箇所は必ず授業までにやってくるようにしてください。その際、DVDを見て学習をしておいてください。言うまでもありませんが、予習の段階で分からない語句は調べておくようにしてください。

【復習】

授業中に出来なかったことを中心に復習し、もう一度DVDを見てリスニングと音読の練習をしてください。

【プレゼンテーション】

必ず1回は英語でプレゼンをしてもらいます。自分の担当分野のことを調べ、効果的に伝えられる努力をしてきてください。

8. 教科書・参考書

教科書：

World Adventures DVDで学ぶ世界の文化と英語（金星堂）
ISBN: 978-4-7647-3907-9

9. オフィスアワー

ご質問、ご相談等は授業後あるいはメールで受け付けます。
メールアドレス：r-yoshimura@kyudai.jp

英語 C II English C II

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目）

学年：2 年次 学期：後期 単位区分：必修 単位数：1 単位

担当教員名 松本 知子

1. 概要

話題性のある英字新聞に触れ、英語のリーディング能力を高めるとともに、ニュース記事について多角的に捉え、自分の意見を英語で述べる能力をつけることを目標とする。多様性、段階性のある練習問題とタスクを通じて、総合的な英語力の向上をめざす。

2. キーワード

時事英語、読解力、文法、語彙、4 技能

3. 到達目標

- さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につける。
- 多種多様な英語に慣れる。

4. 授業計画

1. Introduction
2. Chapter 8: A century on stage
3. Chapter 8: A century on stage
4. Chapter 9: Dallas Observes 50th Anniversary of Kennedy Assassination
5. Chapter 9: Dallas Observes 50th Anniversary of Kennedy Assassination
6. Chapter 10: Parents unaware of dangers faced by children on smartphones
7. Chapter 10: Parents unaware of dangers faced by children on smartphones
8. Chapter 11: Japanese universities rush to tackle cheating in wake of STAP cell controversy
9. Chapter 11: Japanese universities rush to tackle cheating in wake of STAP cell controversy
10. Chapter 12: 'Kindai' bluefin tuna set to delight taste buds in Osaka
11. Chapter 12: 'Kindai' bluefin tuna set to delight taste buds in Osaka
12. Chapter 13: Pope Francis named Time's Person of the Year
13. Chapter 13: Pope Francis named Time's Person of the Year
14. Chapter 14: Soccer: Reds ordered to play behind closed doors for racist banner
15. Course Review

5. 評価の方法・基準

授業への積極的参加・発表点 20%、小テスト・課題提出 30%、期末試験 50% で評価する。総合評価で 60% 以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

- 全授業の 3 分の 2 以上の出席数がないと履修資格を失う。
- 毎回、十分な予習と復習を必須とし、授業への積極的参加を評点に加味する。
- 授業態度が悪い学生（私語、居眠り、内職、携帯電話の使用等）や予習の不十分な学生は、減点の対象となることがある。
- 毎回辞書（携帯電話の辞書機能使用は不可）を持参すること。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

- 各回の該当チャプターの本文に目を通して、不明な単語を調べておくこと。
- 各回の該当チャプターの練習問題を事前にやっておくこと。
- 前回の授業を復習しておくこと。
- 各チャプターの内容を十分理解した上で自己の意見を発展させることが必須となる。

8. 教科書・参考書

教科書：Open your Eyes through News in English（三修社） ISBN: 978-4-384-33451-7

その他、適宜プリントを配布する。

9. オフィスアワー

質問や相談は授業終了後をお願いします。
e-mail: matsumoto@gm.ftokai-u.ac.jp

英語 C II English C II

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目）

学年：2 年次 学期：後期 単位区分：必修 単位数：1 単位

担当教員名 江口 雅子

1. 概要

英字新聞記事をよく読むことにより、英語の運用能力を高めると同時に、現代という時代を感知し、視野を広げ、新しい時代に向けた知見を得ることを目標とする。英文読解力を強化し、練習問題を通じ、リスニング力、ライティング力と総合的に英語の能力を高めていく。関連する学習として、毎回、最新のニュースの提示、解説も行なう。英語を読み解き、英文を通じ、現代社会を捉え、未来への橋渡しとすることを教育目標とする。

2. キーワード

英字新聞読解、最新ニュース、文法理解

3. 到達目標

- さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につける。
- 多種多様な英語に慣れる。

4. 授業計画

1. Course Introduction
2. Chapter 8 Car-sharing business booming in Japan (1)
3. Chapter 8 Car-sharing (2)
4. Chapter 9 Rising number of elderly with dementia taken into protective
5. Chapter 9 Rising number (2)
6. Chapter 10 Olympics: Hanyu gives Japan 1st Sochi gold on Olympic debut (1)
7. Chapter 10 Olympics (2)
8. Chapter 11 Cyclists need more education, insurance (1)
9. Chapter 11 Cyclists (2)
10. Chapter 12 U.S. women publish illustrated book on Shikoku pilgrimage (1)
11. Chapter 12 U.S. women (2)
12. Chapter 13 Jazz study shows link between music and language (1)
13. Chapter 13 Jazz (2)
14. Chapter 14 Korea trade fire; island residents in shelters
15. Course Review

5. 評価の方法・基準

期末試験 50%、小テスト 30%、活動参加・発表点 20% で評価する。総合評価で 60% 以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

- 全授業の 3 分の 2 以上の出席数がないと履修資格を失う。
- 私語、携帯電話の使用、居眠り等は厳禁。
- 学生主体の授業なので、毎回、十分な予習と復習、授業への積極的参加を求める。
- ネット上で、各テーマに関する検索をし、概略を把握しておくことは有効である。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

- 各回該当チャプターの英文を事前に読んでおくこと。
- 各回該当チャプターの練習問題を事前にやっておくこと。
- 小テストを行うので前回授業の英語語彙について復習をしておくこと。

8. 教科書・参考書

教科書：News Gallery 2015 (Kaibunsha Publications) ISBN: 9784875711605

参考書：リーダーズ英和辞典（研究社）の入った英語専用モデルの電子辞書を勧める。

9. オフィスアワー

質問や学習相談は授業終了後に。

メールアドレス: teddybear610@do9.enjoy.ne.jp

英語 C II English C II

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目）

学年：2 年次 学期：後期 単位区分：必修 単位数：1 単位

担当教員名 坂口 由美

1. 概要

世界のニュースを通して効果的な 4 技能の学習を目指す。採り上げるトピックはあらゆる分野に渡り、身近なもので学生の興味、関心を引くものである。難しいと思われがちなニュース英語を読むことで語彙力、読解力を培い、英語力に自信をつけることを目標とする。

2. キーワード

語彙力、読解力、英字新聞に慣れ親しむ

3. 到達目標

- さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につける。
- 多種多様な英語に慣れる。

4. 授業計画

1. オリエンテーション（授業の進め方、目標等の説明）
2. Nothing is private when it's all on Facebook
3. AKB48 and Kimimaro
4. New holes in European safety nets
5. Economic shoe on the other foot
6. Latvian Voters Rejects Russian as a Second Language
7. Olympics in London
8. As Myanmar Changes, So Does Its Leader
9. Pakisutani puzzle: Hindu daughter to Muslim bride
10. Less acclaim, more fun for Japan's Ig Nobel prize winners
11. How to deal with 7 billion people
12. 'King of kings' Gadhafi met his end in the gutter
13. 工業英検 4 級練習問題
14. 工業英検 3 級練習問題
15. 期末試験
16. 試験の説明等、まとめ

5. 評価の方法・基準

期末試験（70%）

出席点、受講態度（30%）により総合的に評価し、60%以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

- 3 分の 2 以上の出席が、履修資格の条件。
- 私語、携帯電話の使用、居眠り等は厳禁。
- 毎回辞書を持参すること。
- 予習をしていることを前提に授業を進めるので、毎回の予習は必ずしておくこと。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

予習：次回の Unit の本文に目を通して、不明な単語を調べておくこと。

復習：前回の Unit に関連するレポートを次回の授業時に提出すること。

8. 教科書・参考書

教科書 The Half-Edition of English through the News Media (Asahi Press) ISBN: 9784255155388

9. オフィスアワー

メールアドレス yume0801@iris.ocn.ne.jp

英語 C II English C II

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目）

学年：2 年次 学期：後期 単位区分：必修 単位数：1 単位

担当教員名 森 千鶴

1. 概要

日常生活に根ざした実用的な英語を聞いたり読んだりして得た情報をもとに、自分の考えなどを書いたり話したりして、表現できるようになることを目標とする。内容については、現代社会のニーズに応ずるため、「石油依存」「死に至る病：インフルエンザ」「絶滅動物」「金融危機」など社会生活に直接的に関わるトピックについて取り扱う。また「聞くこと」に関しては、適宜 TOEIC の問題を解くことによって演習する。

2. キーワード

社会的話題、基本的な英語、4 技能

3. 到達目標

- さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につける。
- 多種多様な英語に慣れる。

4. 授業計画

1. オリエンテーション
2. Oil Dependency
3. Peace or War
4. Sports Idols
5. Deadly Influenza
6. What's It Say?
7. Animal Extinction
8. これまでのまとめと表現活動
9. Driving and the Cell
10. Online-Gaming Addiction
11. Genocide
12. Overpopulation
13. Obesity
14. Global Financial Crisis
15. これまでのまとめと表現活動
16. 試験

5. 評価の方法・基準

- (1) 学期試験－60%
 - (2) 授業での小テスト－20%
 - (3) 授業での発表や提出物－20%
- 総合評価で 60%以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

- (1) 授業への準備不足のため質問に対して答えられない学生にはマイナス評点を与える。私語、携帯電話の使用は厳禁。
- (2) 英和辞書、和英辞書を持参すること。
- (3) 3 分の 2 以上の全体出席数がないと、履修資格を失う。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

• 各回に指示のある教科書の該当箇所について事前に読んでおくこと。

- 授業終了時に示す英作文課題を完成させ提出すること。
- 毎回の授業の復習をすること。

8. 教科書・参考書

教科書: Reading the World (世界の潮流を読み解く) (南雲堂) ISBN: 9784523176787

その他、適宜プリントを配布する。

9. オフィスアワー

オフィスアワーはありませんが、質問等はメール（アドレス：morichiz@fukuoka-edu.ac.jp）で随時受け付けます。

英語 C II English C II

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目）

学年：2 年次 学期：後期 単位区分：必修 単位数：1 単位

担当教員名 田吹 香子

1. 概要

本授業は ABC News の DVD 映像を通してアメリカの社会現象・社会問題を疑似体験し、コミュニケーションの第一歩であるリスニング力を高め、情報をキャッチする力を養うことが第一目標とする。さらに、そのスクリプトを読解し、内容を詳細に検討し解釈することで、各人が自身の考えを発展させ、物事を見る視点を広げてゆくことをさらなる目標とする。

2. キーワード

ディクテーション、読解、主体的学習、時事・異文化理解

3. 到達目標

- ・さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につける。
- ・多種多様な英語に慣れる。

4. 授業計画

1. オリエンテーション
2. Unit 2 Breadwinning Moms
3. Unit 2 Breadwinning Moms
4. Unit 3 “Nighborhood Watch”
5. Unit 4 American Dream: WhatsApp Founders Strike it Rich
6. Unit 4 American Dream: WhatsApp Founders Strike it Rich
7. Unit 7 Attention Shoppers: Changing the Labels
8. Unit 7 Attention Shoppers: Changing the Labels
9. Unit 8 Born in the USA? Baby Boom
10. Unit 8 Born in the USA? Baby Boom
11. Unit 9 Ban Bossy
12. Unit 11 Rite of Passage: Big Changes in the SATs
13. Unit 11 Rite of Passage: Big Changes in the SATs
14. Unit 13 Farmer’s Market: City Girl Dates Country Boy
15. より視野を広げる活動：まとめと考察

5. 評価の方法・基準

評点の満点を 100% とし、その内授業での発言や活動を 40%、定期試験を 60% として評価する。総合評価で 60% 以上を合格とする。（初回の授業で配転の説明詳しくするので、必ず出席すること）

6. 履修上の注意事項

- ・3 分の 2 以上の全体出席数がないと、履修資格を失う。
- ・個別に対応が必要な場合は授業前後の時間を当てる。
- ・私語、内職、携帯電話の使用、居眠り等は厳禁。毎回、十分な予習と復習を必須とし、授業への積極的参加を評点に加味する。
- ・毎回辞書を持参すること。
- ・授業態度が悪い場合は、減点の対象とすることもある。
- ・教科書を持参しない場合、出席とはみなさない。
- ・授業の進み方が変則的なので注意すること。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

- ・予習に関してはオリエンテーションで詳しく説明するので、その通りにしてくること。
- ・毎回小テストを行うので、学習した内容を復習すること。
- ・復習方法としては「音読」、「付属 DVD を使ったシャドーイング」を勧める。具体的には DVD を見ながらニュースの英語が理解できるまで聞くこと。
- ・本授業は「英語力」を高めることだけでなく、英語でアメリカの社会現象を考察することも目標とするので、各ユニットの内容を十分理解した上で自己の意見を発展させることが必須となる。

8. 教科書・参考書

教科書：ABC World News 17（金星堂）ISBN: 9784764739956

9. オフィスアワー

授業時間前後

（連絡用メールアドレス等はオリエンテーションの時に伝えます）

英語 C II English C II

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目）

学年：2 年次 学期：後期 単位区分：必修 単位数：1 単位

担当教員名 永次 健人

1. 概要

様々なトピックについて、英語で読み、National Geographic の写真や映像を通して理解するとともに、それらについて、批判的に考え、議論する能力を身に付けることを目標とする。読解を中心にしながら、他の技能についても、向上をめざす。

2. キーワード

異文化理解、時事英語、リーディング、4 技能

3. 到達目標

- ・さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につける。
- ・多種多様な英語に慣れる。

4. 授業計画

1. Introduction
2. Unit 7: Sweet Scents
3. Unit 7: Sweet Scents
4. Unit 8: Great Explorers
5. Unit 8: Great Explorers
6. Unit 9: Who we are
7. Unit 9: Who we are
8. Unit 10: Global Warming
9. Unit 10: Global Warming
10. Unit 11: Incredible Insects
11. Unit 11: Incredible Insects
12. Unit 12: Going to Extremes
13. Unit 12: Going to Extremes
14. Review and instructor’s material
15. Exam Review and Conclusion

5. 評価の方法・基準

授業への積極的参加（20%）、小テスト・課題提出（40%）、期末試験（40%）
60% 以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

- ・3 分の 2 以上の全体出席数がないと、履修資格を失う。
- ・予習を前提とする。
- ・授業態度が悪い学生（私語、居眠り、内職、携帯電話の使用等）や予習の不十分な学生は、減点の対象となることがある。
- ・毎回辞書（携帯電話の辞書機能使用は不可）を持参すること。
- ・授業の進行予定は、学生の理解度に応じて、変更することがある。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

各回に指示のあるテキストの該当箇所について、読んでおくこと。

また、事前に指示されたテキスト内の課題を済ませておくこと。むろん、指示された以外の部分も自主的に予習しておくことが望ましい。

8. 教科書・参考書

教科書：Reading Explorer 2 (Cengage Learning) ISBN: 9781305254473

9. オフィスアワー

質問等は授業時間前後に受け付ける。

英語 C II English C II

対象学科 (コース) : 全学科 (人間科学科目)

学年 : 2 年次 学期 : 後期 単位区分 : 必修 単位数 : 1 単位

担当教員名 今川 京子

1. 概要

厳選されたテキストを精読して読解能力 (構造理解・語彙・文化的背景) を養い、ディスカッションを行ない論理的思考力を培うことを目標とする。各章ごとにプレゼンターを決め、担当者にはレジメを作成して該当箇所について発表してもらう。また英語文化圏の歴史と文化を知るための入門として、適宜マザーゲースを紹介する。

2. キーワード

異文化理解、論理的思考力、リーディング・スキル、プレゼンテーション

3. 到達目標

- さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につける。
- 多種多様な英語に慣れる。

4. 授業計画

1. Introduction
2. East Wind (1)
3. East Wind (2)
4. The Day Out (1)
5. The Day Out (2)
6. Laughing Gas (1)
7. Laughing Gas (2)
8. The Bird Woman (1)
9. The Bird Woman (2)
10. John and Barbara's Story (1)
11. John and Barbara's Story (2)
12. West Wind (1)
13. West Wind (2)
14. 英語で映画鑑賞 *Mary Poppins* (1) (1964)
15. 映画鑑賞 *Mary Poppins* (2)

5. 評価の方法・基準

予習及び授業への積極的参加態度 20%、ミニレポート 10%、プレゼンテーション及び課題 20%、期末テスト 50% で評価します。総合評価で 60% 以上を合格とします。

6. 履修上の注意事項

- 全授業の 3 分の 2 以上の出席数がないと履修資格を失う。
- 私語、携帯電話の使用、居眠り等は厳禁。
- 予習として事前に次回の授業で扱う範囲の章を読んでくること。また授業のなかでペアになり互いに授業で読んだ箇所について内容確認の問題を出し合う活動を取り入れるので、毎回 3 つほど英語で質問を考えてくること。
- 毎回辞書を持参すること。

7. 授業外学習 (予習・復習) の指示

- 各回該当チャプターの英文を事前に読んでおくこと。
- 事前に指定された箇所のテーマについて考え、課題を期日までに提出すること。指定については授業の進捗状況に合わせて行う。

8. 教科書・参考書

教科書 : *Mary Poppins* (Eiko-Sha) ISBN: 9784870970021

9. オフィスアワー

質問や学習相談は授業終了後にお願いします。

e-mail : kyoko.gyan@gmail.com

英語 C II English C II

対象学科 (コース) : 全学科 (人間科学科目)

学年 : 2 年次 学期 : 後期 単位区分 : 必修 単位数 : 1 単位

担当教員名 飯田 弘子

1. 概要

コミュニケーションの手段としての英語能力を上達させる目標で授業を行なう。特に伝統の国イギリスと日本の文化を比較し、その差異を学習する。読解力、リスニング、ライティングのスキルを養成する授業を行う。

2. キーワード

異文化理解、コミュニケーション、英日比較

3. 到達目標

- さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につける。
- 多種多様な英語に慣れる。

4. 授業計画

1. Introduction
2. British sports everywhere.
3. The Beatles forever.
4. From the cradle to the grave?
5. Great novelists.
6. History of the Royal Families.
7. Pound or Euro?
8. What is the Tube?
9. Two -party politics?
10. Art collections in Britain.
11. New house, old house.
12. Are British foods tasty?
13. Newspaper, TV or iPad?
14. Review
15. Final Test

5. 評価の方法・基準

Class attendance (33%)、Class participation (33%)、Final test (33%)。総合評価で 60% 以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

- 3 分の 2 以上の全体出席数がないと、履修資格を失う。
- 毎回辞書を持参すること。授業中の私語、携帯電話の使用、居眠り等は厳禁。

7. 授業外学習 (予習・復習) の指示

1. 次回の授業範囲の予習として、不明な専門用語の意味を調べておくこと
2. 不明な点は授業終了後に質問に来ると良い。個別にアドバイスをする。

8. 教科書・参考書

教科書 : *Cross-Cultural Views on Britain* (南雲堂) ISBN: 9784523177531

9. オフィスアワー

授業時間 15 分前後 iida0818@gmail.com

英語 C II English C II

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目）

学年：2 年次 学期：後期 単位区分：必修 単位数：1 単位

担当教員名 林 恵子

1. 概要

AFP World Academic Archive のニュース映像と合わせて、世界中で起こる現代社会の様々な問題に触れながら、英語を聞き内容を理解する力と、英文を読み内容を理解する力を培い、総合的な英語力の向上を目指します。また、各課のテーマについて問題意識をもち、自ら意見を述べる力を培います。適宜に、パラグラフ・リーディングを通して段落ごとの要約の練習を行い、速読のスキルを高めます。また、各テーマに関しての学生の皆さんによるプレゼンテーションを行い、積極的な授業への参加を期待します。

2. キーワード

パラグラフ・リーディング、多読、異文化及び時事問題の理解、プレゼンテーションの仕方

3. 到達目標

- さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につける。
- 英語圏での必要最低限の情報収集に必要な読解を身につける。

4. 授業計画

1. イントロダクション
2. Lesson 1: Aging Societies and Aging Workers.
3. Lesson 2: Rethinking Our Food Culture.
4. Lesson 3: Restoring Ecosystems in the Galapagos Island.
5. Lesson 4: Virtual Reality and Actual Reality.
6. Lesson 6: Winning Hearts with Monsters and Superstars.
7. Lesson 7: The Austerity Debate: Bitter Medicine-or Poison?
8. Lesson 13: Myanmar at a Turning point.
9. Lesson 14: Computer Games for Therapy
10. Lesson 16: Medical Tourism
11. Review
12. 英文学訪問：シェイクスピア『ヴェニスの商人』
—名場面より
13. 『ヴェニスの商人』の DVD 鑑賞
14. プレゼンテーション①
15. 学期末試験
16. プレゼンテーション②

5. 評価の方法・基準

予習及び授業への積極的参加態度 20%、小テスト 10%、プレゼンテーション及び課題 20%、期末テスト 50% で評価します。総合評価で 60% 以上を合格とします。

6. 履修上の注意事項

- 全授業の 3 分の 2 以上の出席数がないと、履修資格を失います。
- 授業中の私語、携帯電話の使用、居眠り等は厳禁です。
- 毎回、辞書を持参してください。
- 毎回、十分な予習、授業への積極的な参加を求めます。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

2 回目から 10 回目までは各 Lesson の予習をしておいてください。3 回目から 11 回目までは前 Lesson の復習、及び、復習小テストの勉強をしておいてください。12 回目は『ヴェニスの商人』の予習をしておいてください。14 回目、及び、16 回目はプレゼンテーションのためのハンドアウトを作成しておいてください。

8. 教科書・参考書

教科書：AFP World News Report 2 (2014 年度版／成美堂)
ISBN: 9784791910205

9. オフィスアワー

質問や相談は授業終了後をお願いします。
メールアドレス：scotty@jeans.ocn.ne.jp

英語 C II English C II

対象学科（コース）：

学年：2 年次 学期：後期 単位区分：必修 単位数：1 単位

担当教員名 高田 とも子

1. 概要

本講義では、銃規制、人種、移民といった現代アメリカ社会を考える上で不可欠なトピックと扱った英文を読み解くことで、総合的な英語能力を養うと同時に、現代社会を取り巻く問題を英語で考える能力を養うことを目的とする。受講生には、各セッションのテーマに即したプレゼンテーションを行ってもらい、毎回のセッションで扱われているトピックに関する深い考察を行ってもらおうと同時に、論点を他人に分かりやすく伝えるという過程を通し、情報発信能力の向上にも努めてもらいたい。毎回の授業では、語彙力強化の為に単語テストを実施する。

2. キーワード

3. 到達目標

- さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につける。
- 多種多様な英語に慣れる。

4. 授業計画

1. Introduction
2. Unit 1, The Popularity of the Japanese Language
3. The Job Search for College Seniors
4. Visiting the Birthplace of Jazz
5. What Makes Hollywood Films Wonderful?
6. Is Illegal Immigration a Problem?
7. Gun Control: Two Opposing Sides
8. Wall Street After 9/11
9. The Future of Auto Industry
10. Major League Dreams and Odds
11. F1 Racing Comes to America!
12. Environmental Champions Muir and Pinchot
13. Balancing Growth and Protectionism
14. The Leadership of Female CEO's
15. Today's Feminist Movement (予定)

5. 評価の方法・基準

授業への積極的参加態度 30%、プレゼンテーション 20%、小テスト 10%、期末テスト 40% で評価する。総合評価で 60% 以上を合格とする

6. 履修上の注意事項

- 3 分の 2 以上の出席を履修の原則とする。
- 十分な予習をすること。
- 積極的な授業への参加を求める。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

受講者は全員、各回ごとに指示のある教科書の該当箇所を事前に読んでおくこと。尚、プレゼンテーション担当者はエッセイについて要約・疑問点・問題点を記したレジュメを作成すること。

8. 教科書・参考書

教科書：American Dynamics (金星堂) ISBN: 9784764739444

9. オフィスアワー

質問や連絡事項がある場合には、メールにて対応する。
tmknagakawa@yahoo.co.jp

英語 C II English C II

対象学科 (コース): 全学科

学年: 2年次 学期: 前期 単位区分: 必修 単位数: 1 単位

担当教員名 Ian Ruxton

1. 概要

The aim of this class is to improve listening, reading, writing and speaking skills through the study of British culture. Satisfactory attendance is required.

2. キーワード

Britain, culture, inter-cultural communication

3. 到達目標

- さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につける。
- 多種多様な英語に慣れる。

4. 授業計画

1. Working Life
2. Finding a job
3. The economy
4. Food
5. The Arts
6. Film and theatre
7. Music
8. The classics
9. Modern life
10. The Media
11. In the news
12. On TV and radio
13. Leisure
14. Getting around
15. Test
16. Review

5. 評価の方法・基準

Coursework, Tests

6. 履修上の注意事項

You must attend at least 2/3rds of classes. You must show a positive attitude in class.

7. 授業外学習 (予習・復習) の指示

- 1) Read the text book before class.
- 2) Check the meaning of keywords before class using dictionaries and internet.
- 3) Be ready to discuss readings in class.

8. 教科書・参考書

In Britain: 21st Century Edition (Macmillan Language House) 830/V-3/2

9. オフィスアワー

Mondays: 12:00 – 2:30pm.

ruxton@dhs.kyutech.ac.jp (Room 404 General Education Building)

英語 C II English C II

対象学科 (コース): 全学科 (人間科学科目)

学年: 2年次 学期: 後期 単位区分: 必修 単位数: 1 単位

担当教員名 Robert Long

1. 概要

Satisfactory attendance is required. Students' effort in the class is also evaluated by the weekly assignments, time spent on various speaking topics, and email assignments. Extra credit can be earned through presentations and through the writing/email assignments. The syllabus provides engineering topics for students in their own field.

2. キーワード

Vocabulary, reading, questioning, debating

3. 到達目標

- さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につける。
- 多種多様な英語に慣れる。

4. 授業計画

1. No Summer for Me, Please
2. Yamete Kure!
3. Color Me Happy
4. What a Sleepy Country!
5. Handwritten Letters
6. Sugar Cookies
7. The Love Doctor
8. Part-time Jobs
9. A Penny Saved
10. What's in a Name?
11. Stuck in the Middle-and Glad!
12. Forget about Love
13. Telling Lies
14. "Foolish" Dreams

5. 評価の方法・基準

Weekly assignments 90%, Tests 10%

6. 履修上の注意事項

Students are highly encouraged to find more information on the topics above from the Internet and to provide interesting comments and opinions as a basis for further conversation.

7. 授業外学習 (予習・復習) の指示

For homework, respond to each of the Internet postings logically and meaningfully, using long and complex sentences to express your ideas. Also, check out any of the five websites and post your comment on any of the news articles or forums. Print out your comment and any replies to it.

8. 教科書・参考書

A World of Difference: A Reading and Discussion Textbook (Perceptia Press) ISBN: 9784939130960

9. オフィスアワー

Monday: 11:00 – 12:00, 13:00 – 14:00

Tuesday: 11:00 – 12:00, 13:00 – 14:00

long@dhs.kyutech.ac.jp (Room 406, General Education Building)

英語 D I EnglishDI

対象学科（コース）：全学科

学年：2 年次 学期：前期 単位区分：選択必修 単位数：1 単位

担当教員名 田吹 昌俊・Ian Ruxton・Robert Long・

虹林 慶・八丁 由比・大野 瀬津子・

前田 雅子

1. 概要

世界の諸問題を材料にアカデミック・イングリッシュの養成をめざす、ほぼ英語のみを用いた少人数授業。分析的に文献を読む練習を通じて批判的思考力を身につけるとともに、読んだ題材に関する自分の意見を発信できるような英語運用能力を涵養する。この授業を通じ、国際社会の一員としての基礎力を高めて欲しい。

2. キーワード

cultural literacy, paragraph reading, discussion, CLIL, critical thinking

3. 到達目標

- ・英語文献を分析的に読解する力を身につける。
- ・ディスカッションに必要な英語運用能力を身につける。

4. 授業計画

1. Introduction
2. Topic 01 (preparation)
3. Topic 01 (discussion)
4. Topic 02 (preparation)
5. Topic 02 (discussion)
6. Topic 03 (preparation)
7. Topic 03 (discussion)
8. Review Test
9. Topic 04 (preparation)
10. Topic 04 (discussion)
11. Topic 05 (preparation)
12. Topic 05 (discussion)
13. Topic 06 (preparation)
14. Topic 06 (discussion)
15. Final exam
16. Review

5. 評価の方法・基準

定期試験と授業内活動を総合的に評価し、60 点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

- ・3 分の 2 以上の出席を履修の原則とする。（履修細則第 11 条 2）
- ・私語、内職、携帯電話の使用、居眠り等は厳禁。学生主体の授業なので、毎回、十分な予習と復習、授業への積極的参加を求める。
- ・毎回教科書と辞書を持参すること。
- ・教科書で扱うテーマに関する書籍やビデオ（付属図書館所蔵）を授業時間外に見ることを薦める。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

毎週、指示された通りに授業の準備をしていくこと。

8. 教科書・参考書

別途指示する。

9. オフィスアワー

別途指示する。

英語 D II EnglishD II

対象学科（コース）：全学科

学年：2 年次 学期：後期 単位区分：選択必修 単位数：1 単位

担当教員名 田吹 昌俊・Ian Ruxton・Robert Long・

虹林 慶・八丁 由比・大野 瀬津子・前田 雅子

1. 概要

世界の諸問題を材料にアカデミック・イングリッシュの養成をめざす、ほぼ英語のみを用いた少人数授業。分析的に文献を読む練習を通じて批判的思考力を身につけるとともに、読んだ題材に関する自分の意見を発信できるような英語運用能力を涵養する。この授業を通じ、国際社会の一員としての基礎力を高めて欲しい。

2. キーワード

cultural literacy, paragraph reading, discussion, CLIL, critical thinking

3. 到達目標

- ・英語文献を分析的に読解する力を身につける。
- ・ディスカッションに必要な英語運用能力を身につける。

4. 授業計画

1. Introduction
2. Topic 01 (preparation)
3. Topic 01 (discussion)
4. Topic 02 (preparation)
5. Topic 02 (discussion)
6. Topic 03 (preparation)
7. Topic 03 (discussion)
8. Review Test
9. Topic 04 (preparation)
10. Topic 04 (discussion)
11. Topic 05 (preparation)
12. Topic 05 (discussion)
13. Topic 06 (preparation)
14. Topic 06 (discussion)
15. Final exam
16. Review

5. 評価の方法・基準

定期試験と授業内活動を総合的に評価し、60 点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

- ・3 分の 2 以上の出席を履修の原則とする。（履修細則第 11 条 2）
- ・私語、内職、携帯電話の使用、居眠り等は厳禁。学生主体の授業なので、毎回、十分な予習と復習、授業への積極的参加を求める。
- ・毎回教科書と辞書を持参すること。
- ・教科書で扱うテーマに関する書籍やビデオ（付属図書館所蔵）を授業時間外に見ることを薦める。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

毎週、指示された通りに授業の準備をしていくこと。

8. 教科書・参考書

別途指示する。

9. オフィスアワー

別途指示する。

選択英語Ⅰ Selective English I

対象学科(コース): 全学科

学年: 全年次 学期: 前期 単位区分: 選択 単位数: 1 単位

担当教員名 未定

1. 概要
2. キーワード
3. 到達目標
4. 授業計画
5. 評価の方法・基準
6. 履修上の注意事項
7. 授業外学習(予習・復習)の指示
8. 教科書・参考書
9. オフィスアワー

選択英語Ⅱ Selective English II

対象学科(コース): 全学科

学年: 全年次 学期: 後期 単位区分: 選択 単位数: 1 単位

担当教員名 Robert Long

1. 概要

This intensive course is both an orientation to student exchange programs, and a communicative course aimed at improving students' social, interactive, pragmatic and oral skills. The course is divided on various skills as they pertain to living abroad as well as better understanding foreign societies and cultures. In addition, students will be asked to discuss various aspects of Japanese culture in role-plays, and to evaluate their own performance.
2. キーワード

Exchange program, interactive skills, cultural literacy, discussion, critical thinking, Japanese culture, foreign cultures
3. 到達目標
 - To learn how to initiate discussions with foreigners, and to respond to various kinds of situations and problems.
 - To discuss aspects concerning Japanese culture in-depth.
 - To improve one's self-assessment in communicative effectiveness
4. 授業計画
 1. Introduction: Asking about travel plans/Talking about Japanese sports
 2. Asking and answering questions at immigration/Japanese music
 3. Giving directions/Japanese food
 4. Reserving rooms/Japanese handicrafts
 5. Talking about interests, sight-seeing/Japanese holidays
 6. Selecting and renting a car/Japanese games
 7. Meeting and talking with strangers/Japanese cities and places
 8. Mid-term exam
 9. Negotiating prices/relaxing in Japan
 10. Inviting and socializing with friends/famous people in Japan
 11. Reading a menu, ordering food/Japanese superstitions
 12. Simulating a trip to Los Angeles/Japanese anime
 13. Simulating a side-trip to San Francisco/Japanese Arts and Theater
 14. Simulating a trip to ODU/Japanese customs
 15. Final exam
 16. Simulating a trip to Malaysia/Japanese Buildings and Gardens
5. 評価の方法・基準

Homework, class participation and exams will make up the credit of this class. Students must have at least 60 points to pass
6. 履修上の注意事項

Two-third attendance is required for this class. Dictionaries might be needed. It is important to participant and to prepare for various role-plays beforehand. As this course is intensive, class time will involve three periods per day.
7. 授業外学習(予習・復習)の指示

Daily practice is required, and thus students should be prepared to handle homework for the next day.
8. 教科書・参考書

Encounters Abroad. Author: Michael Critchley ISBN: 9784523175391
9. オフィスアワー

Tuesday: 8 : 00 - 12 : 00

外国系科目（初修外国語）

初修外国語科目について

1. 目的

外国語は未知なる世界の扉を開ける鍵である。形は千種百様のように見えるが、開け方そのものは実に共通している部分が多い。要領を一つ心得ておけば応用が可能となる。また、不思議なことに、それが何らかの形で母語にフィードバックし、客観的に日本語を見つめ直すきっかけを与えてくれる。これまでの英語学習ですでにその経験をした学生は新しい扉へと進み、そうでない学生は今度こそとゼロからチャレンジしてもらうことが初修外国語科目の目的である。アジアとヨーロッパからそれぞれ2カ国語ずつ用意しているが、もちろんこれで十分というわけではない。グローバル化が加速する中、何語が役に立つかを考えるよりもむしろ、何語にでも取り組む姿勢や心意気が大事だと思われる。真の国際人として時代の要請に応えていくための一歩を、とにかくここから踏み出してくれるよう望む。

2. 内容

ドイツ語 I II III IV

中国語 I II III IV

フランス語 I II III IV

韓国語 I II III IV

3. 履修上の注意

I II は1年次の選択必修科目である。どの言語を履修するか、希望調査を基に決定する。なお、同じ言語でクラスが複数ある場合も、クラスの適正規模を考慮し、適宜に振り分ける。

III IV は2年次の選択語学科目である。1年次に履修した言語と英語D I / D II のどちらかを選択して2単位修得しなければならない。

ドイツ語 I German I

対象学科（コース）：機械知能・建設社会（人間科学科目）

学年：1年次 学期：前期 単位区分：選択必修 単位数：1単位

担当教員名 渡辺 アンゲリカ

1. 概要

●授業の背景

サッカー、バウムクーヘン、ソーセージ、クラシック音楽、車、エコライフ、古城など、ドイツの文化は日本でも広く親しまれている。

この授業の狙いはヨーロッパで2番目に大きい国ドイツの言葉や文化をABCから学び、様々なメディアを通じてドイツを“体験”し、身近に感じることである。

単語を暗記し文法をマスターしても、外国人に自分の気持ちが伝わらない、相手の気持ちが分からないときがある。考え方や価値観の違いを理解しないと会話が成り立たない可能性もある。ドイツ文化に触れながら、日本との価値観の違いを知り、将来、役に立つ会話力を身につけてもらいたい。

●授業の目的

ドイツ語の発音、基礎的な文法、身近な会話表現を学び、さまざまな練習をし、ロールプレイにも挑戦する。ドイツの日常生活や文化を紹介する。

●授業の位置付け

ドイツ語の基礎文法を学びつつ、簡単な日常会話を練習し、外国語で話すことへの抵抗を減らす。

ドイツ語IIまでの1年間で、ドイツ語初級の読み書き、聞き取り、会話ができることを目指す。

2. キーワード

コミュニケーション、異文化理解、国際性

3. 到達目標

- ①音素を把握することができる。
- ②語句を区切って読むことができる。
- ③単語を書くことができる。
- ④個人についての情報を伝えることができる。

4. 授業計画

第1回 ドイツ語とドイツ語圏について、簡単な自己紹介 I

第2回 飲み物を注文しよう

第3回 アルファベット、つづりと発音

第4回 挨拶 <<国民性や常識の違いに注意>>

第5回 自己紹介 II <<名前、呼び方、敬語？>>

第6回 趣味や特技、好き嫌いについて話し合う

第7回 つづき

第8回 持っている物、欲しい物について話す

第9回 買い物のロールプレイ

第10回 買い物のロールプレイ

第11回 自分の家族を紹介しよう

第13回 一緒に温泉へ行こう

第14回 ドイツの映画を見よう 現代ドイツの様子を感じ取る

第15回 前期の授業の復習

5. 評価の方法・基準

授業への取り組み 20%+ロールプレイ 20%+期末テスト 60%を総合的に評価し、6割以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

授業中の活動に積極的に参加すること。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

復習を欠かさないこと。

- ・授業中に取り上げた文法事項を教科書で確認し、練習問題を解いてみること。

- ・授業時間に行ったロールプレイや会話を身につけていくこと。

8. 教科書・参考書

秋田静男ほか「ドイツ語インフォメーション neu2」(朝日出版社) ISBN: 9784255253589

9. オフィスアワー

木曜日の昼休み（非常勤講師控室）

メールアドレス：angelika_rose_29@yahoo.co.jp

ドイツ語Ⅰ German I

対象学科（コース）：機械知能・建設社会（人間科学科目）
 学年：1年次 学期：前期 単位区分：選択必修 単位数：1単位
 担当教員名 平川 要

1. 概要

●授業の背景

大学では外国語として英語以外に、第2外国語を学習する。英語圏以外の文化や言語、ものの考え方・見方を学ぶことによって複眼的な思想を培う。ドイツは西欧近代思想の中心的な担い手であったが、現在においてもEUの旗頭としてヨーロッパの政治・経済・文化の発展に寄与している。学生諸君には、学生時代に直接ヨーロッパの伝統・文化に触れ、日本の将来のあり方を見つめ直して欲しい。

●授業の目的

ドイツ語文法の基礎（独検4級程度）を学習する。外国語を学ぶことは、言葉を用いて考える基礎的な能力を伸ばしていくことを主たる目的とする。西欧近代を形作るのに大きな力となったドイツ語を学ぶことにより、西欧近代的な思考の枠組みを考えなおす。さらに学生諸君には日本語や英語との比較から、今一度、日本語の特異性を顧みて欲しい。

●授業の位置付け

ドイツ語を学ぶことによって、はっきりした効果が目に見える形ではないものの、強靱で幅広い思考力が培われる。目に見える効果としては、ヨーロッパの主要言語であるドイツ語を学ぶことで、ヨーロッパを視野に入れた国際化に対応できる。

2. キーワード

コミュニケーション、異文化理解、国際性

3. 到達目標

- ①音素を把握することができる。
- ②語句を区切って読むことができる。
- ③単語を書くことができる。
- ④個人についての情報を伝えることができる。

4. 授業計画

- 1回目：ドイツおよびドイツ語について
- 2回目：ドイツ語の発音
- 3回目：「おはようございます」ドイツ語のあいさつ、数詞
- 4回目：「タナカマコトと申します①」人称代名詞
- 5回目：「タナカマコトと申します②」動詞の現在人称変化、seinの人称変化
- 6回目：「何をしているの①」habenの人称変化
- 7回目：「何をしているの②」名詞の性、語順
- 8回目：「その帽子はいくらですか①」定冠詞と名詞の変化
- 9回目：「その帽子はいくらですか②」名詞の複数形
- 10回目：発音のテスト
- 11回目：「コーヒーが一杯欲しい①」不定冠詞
- 12回目：「コーヒーが一杯欲しい②」所有冠詞、否定冠詞
- 13回目：「こちらザビーネです①」不規則な動詞①
- 14回目：「こちらザビーネです②」名詞の3格、疑問代名詞
- 15回目：発音のテスト、前期授業内容の総括

5. 評価の方法・基準

授業への取り組み（出席等）30% 発音のテスト20% 期末テスト50%

6. 履修上の注意事項

授業には必ず辞書を持ってくること。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

教科書についているCDを何度も聞いて復習すること。

8. 教科書・参考書

秋田静男ほか「ドイツ語インフォメーション neu2」（朝日出版社）ISBN: 9784255253589

9. オフィスアワー

授業の前後

E-mail: k.hirakawa@uma.bbq.jp

ドイツ語Ⅰ German I

対象学科（コース）：電気電子・総合システム（人間科学科目）
 学年：1年次 学期：前期 単位区分：選択必修 単位数：1単位
 担当教員名 渡辺 アンゲリカ

1. 概要

●授業の背景

サッカー、バウムクーヘン、ソーセージ、クラシック音楽、車、エコライフ、古城など、ドイツの文化は日本でも広く親しまれている。

この授業の狙いはヨーロッパで2番目に大きい国ドイツの言葉や文化をABCから学び、様々なメディアを通じてドイツを“体験”し、身近に感じることである。

単語を暗記し文法をマスターしても、外国人に自分の気持ちが伝わらない、相手の気持ちが分からないときがある。考え方や価値観の違いを理解しないと会話が成り立たない可能性もある。ドイツ文化に触れながら、日本との価値観の違いを知り、将来、役に立つ会話を身につけてもらいたい。

●授業の目的

ドイツ語の発音、基礎的な文法、身近な会話表現を学び、さまざまな練習をし、ロールプレイにも挑戦する。ドイツの日常生活や文化を紹介する。

●授業の位置付け

ドイツ語の基礎文法を学びつつ、簡単な日常会話を練習し、外国語で話すことへの抵抗を減らす。

ドイツ語Ⅱまでの1年間で、ドイツ語初級の読み書き、聞き取り、会話ができることを目指す。

2. キーワード

コミュニケーション、異文化理解、国際性

3. 到達目標

- ①音素を把握することができる。
- ②語句を区切って読むことができる。
- ③単語を書くことができる。
- ④個人についての情報を伝えることができる。

4. 授業計画

- 第1回 ドイツ語とドイツ語圏について、簡単な自己紹介Ⅰ
- 第2回 飲み物を注文しよう
- 第3回 アルファベット、つづりと発音
- 第4回 挨拶 <<国民性や常識の違いに注意>>
- 第5回 自己紹介Ⅱ <<名前、呼び方、敬語？>>
- 第6回 趣味や特技、好き嫌いについて話し合う
- 第7回 つづき
- 第8回 持っている物、欲しい物について話す
- 第9回 買い物のロールプレイ
- 第10回 買い物のロールプレイ
- 第11回 自分の家族を紹介しよう
- 第13回 一緒に温泉へ行こう
- 第14回 ドイツの映画を見よう 現代ドイツの様子を感じ取る
- 第15回 前期の授業の復習

5. 評価の方法・基準

授業への取り組み20%+ロールプレイ20%+期末テスト60%を総合的に評価し、6割以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

授業中の活動に積極的に参加すること。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

復習を欠かさないこと。

- ・授業中に取り上げた文法事項を教科書で確認し、練習問題を解いてみること。
- ・授業時間に行ったロールプレイや会話を身につけていくこと。

8. 教科書・参考書

秋田静男ほか「ドイツ語インフォメーション neu2」（朝日出版社）ISBN: 9784255253589

9. オフィスアワー

木曜日の昼休み（非常勤講師控室）

メールアドレス: angelika_rose_29@yahoo.co.jp

ドイツ語Ⅰ German I

対象学科（コース）：応用化学・マテリアル（人間科学科目）

学年：1年次 学期：前期 単位区分：選択必修 単位数：1単位

担当教員名 山本 達夫

1. 概要

●授業の背景

日本で普通に使われる「欧米」という言葉はドイツにはない。ヨーロッパとアメリカが一緒されるのを不思議に思ったり迷惑に感じたりするドイツ人は多い。ドイツ語を、ヨーロッパの文化・ドイツの歴史を踏まえながら学ぶことで、異文化理解の幅を広げたい。

●授業の目的

ドイツ語文法の基礎を習得すること。ドイツ文を流ちょうに音読できるようにすること。

●授業の位置付け

ドイツ語の文法構造を理解し、ドイツ語が正しく発音できるようにする。ドイツの歴史・文化・現代事情の考察を通して日本と自分自身を考える。

2. キーワード

コミュニケーション、異文化理解、国際性

3. 到達目標

- ①音素を把握することができる。
- ②語句を区切って読むことができる。
- ③単語を書くことができる。
- ④個人についての情報を伝えることができる。

4. 授業計画

- 第1回 ドイツ語とドイツ語圏について、アルファベット、つづりと発音（1）
- 第2回 アルファベット、つづりと発音（2）
- 第3回 おはようございます！
- 第4回 タナカ マコトと申します（1）
- 第5回 タナカ マコトと申します（2）
- 第6回 何をしているの（1）
- 第7回 何をしているの（2）
- 第8回 その帽子はいくらですか？（1）
- 第9回 その帽子はいくらですか？（2）
- 第10回 発音テスト（1）
- 第11回 コーヒーが一杯欲しい（1）
- 第12回 コーヒーが一杯欲しい（2）
- 第13回 こちらザビーネです（1）
- 第14回 こちらザビーネです（2）
- 第15回 発音テスト（2）、前期授業の確認

5. 評価の方法・基準

授業への取り組み（定刻出席、課題の達成、辞書の持参）30% + 発音テスト20% + 期末テスト50%を総合的に評価し、6割以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

- ・辞書で単語・熟語の意味を調べ、ドイツ文を日本語に翻訳してこくこと。
- ・ドイツ文の文化・歴史的な背景がわからないときは、ウィキペディアなどの百科事典を活用すること。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

毎回の授業時間中に示す課題を仕上げ、専用のノートに書いてこくこと。

8. 教科書・参考書

秋田静男ほか「ドイツ語インフォメーション neu2」（朝日出版社）ISBN: 9784255253589

9. オフィスアワー

授業時間の前後

ドイツ語Ⅱ German II

対象学科（コース）：機械知能・建設社会（人間科学科目）

学年：1年次 学期：後期 単位区分：選択必修 単位数：1単位

担当教員名 渡辺 アンゲリカ

1. 概要

●授業の背景

サッカー、バウムクーヘン、ソーセージ、クラシック音楽、車、エコライフ、古城など、ドイツの文化は日本でも広く親しまれている。

この授業の狙いはヨーロッパで2番目に大きい国ドイツの言葉や文化をABCから学び、様々なメディアを通じてドイツを“体験”し、身近に感じることである。

単語を暗記し文法をマスターしても、外国人に自分の気持ちが伝わらない、相手の気持ちが分からないときがある。考え方や価値観の違いを理解しないと会話が成り立たない可能性もある。ドイツ文化に触れながら、日本との価値観の違いを知り、将来、役に立つ会話を身につけてもらいたい。

●授業の目的

ドイツ語の発音、基礎的な文法、身近な会話表現を学び、さまざまな練習をし、ロールプレイにも挑戦する。ドイツの日常生活や文化を紹介する。

●授業の位置付け

ドイツ語の基礎文法を学びつつ、簡単な日常会話を練習し、外国語で話すことへの抵抗を減らす。

ドイツ語Ⅱまでの1年間で、ドイツ語初級の読み書き、聞き取り、会話ができることを目指す。

2. キーワード

コミュニケーション、異文化理解、国際性

3. 到達目標

- ①音素を把握することができる。
- ②語句を区切って読むことができる。
- ③単語を書くことができる。
- ④個人についての情報を伝えることができる。

4. 授業計画

- 第1回 前期のまとめ・復習
- 第2回 カフェにて
- 第3回 迷子になったらどうしよう？ 道案内
- 第4回 自分の部屋を紹介しよう
- 第5回 ホテルでの宿泊Ⅰ
- 第6回 ホテルでの宿泊Ⅱ
- 第7回 電車の旅Ⅰ
- 第8回 電車の旅Ⅱ
- 第9回 ドイツ人の食生活
- 第10回 クリスマスの手紙を書いてみよう
- 第11回 過去のことを話そうⅠ
- 第12回 過去のことを話そうⅡ
- 第13回 自分の生い立ち
- 第14回 ドイツの映画をみよう 現代ドイツの様子を感じ取る
- 第15回 後期の授業の復習

5. 評価の方法・基準

授業への取り組み20% + ロールプレイ20% + 期末テスト60%を総合的に評価し、6割以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

授業中の活動に積極的に参加すること。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

復習を欠かさないこと。

- ・授業中に取り上げた文法事項を教科書で確認し、練習問題を解いてみること。
- ・授業時間に行ったロールプレイや会話を身につけていくこと。

8. 教科書・参考書

秋田静男ほか「ドイツ語インフォメーション neu2」（朝日出版社）ISBN: 9784255253589

9. オフィスアワー

木曜日の昼休み（非常勤講師控室）

メールアドレス：angelika_rose_29@yahoo.co.jp

ドイツ語Ⅱ German II

対象学科（コース）：機械知能・建設社会（人間科学科目）
 学年：1年次 学期：後期 単位区分：選択必修 単位数：1単位
 担当教員名 平川 要

1. 概要

●授業の背景

英語圏以外の文化や言語、ものの考え方・見方を学ぶことによって複眼的な思想を培う。ドイツは西欧近代思想の中心的な担い手であったが、現在においてもEUの旗頭としてヨーロッパの政治・経済・文化の発展に中心的な役割を果たしている。学生諸君には、学生時代に直接ヨーロッパの伝統に触れ、日本の将来のあり方を見つめ直してほしい。

●授業の目的

ドイツ語文法の基礎（独検4級程度）を学習する。外国語を学ぶことにより、言葉を用いて考える基礎的な能力を伸ばしていくことが主たる目的である。西欧近代を形作るのに大きな力となったドイツ語を学ぶことにより、西欧近代的な思考の枠組みを視野に入れる。さらに日本語や英語との比較から、今一度、日本語の特異性を顧みる。

●授業の位置付け

「ドイツ語Ⅰ」に引き続きドイツ語の基礎（独検4級程度）を学習する。ドイツ語を学ぶことによって、強靱で幅広い思考力、複眼的なものの見方を培う。さらにヨーロッパの主要言語であるドイツ語を学ぶことで、ヨーロッパを視野に入れた国際化に対応できるようにする。

2. キーワード

コミュニケーション、異文化理解、国際性

3. 到達目標

- ① ゆっくりはっきりと話されれば、単語を聞き取ることができる。
- ② 基本構文を理解することができる。
- ③ 短い言い回しを書き写すことができる。
- ④ 身近な話題について簡単な応答をすることができる。

4. 授業計画

- 1回目：「何を注文する？①」 不規則な動詞②
- 2回目：「何を注文する？②」 人称代名詞、非人称のes
- 3回目：「市庁舎へはどう行ったらいいのですか？①」 前置詞
- 4回目：「市庁舎へはどう行ったらいいのですか？②」 前置詞と定冠詞の融合形
- 5回目：「歩いてホテルまで行くことができますか？①」 話法の助動詞の人称変化
- 6回目：「歩いてホテルまで行くことができますか？②」 話法の助動詞の意味
- 7回目：「その列車は何時に発車しますか？①」 分離動詞
- 8回目：「その列車は何時に発車しますか？②」 命令形、時刻表現
- 9回目：「音楽に興味があります」 再帰代名詞、再帰動詞
- 10回目：発音のテスト
- 11回目：「とてもよかった！①」 動詞の3基本形
- 12回目：「とてもよかった！②」 過去人称変化
- 13回目：「おいしかった！①」 現在完了
- 14回目：「おいしかった！②」 分離動詞の現在完了
- 15回目：発音のテスト、後期授業内容の総括

5. 評価の方法・基準

授業への取り組み（出席等）30% 発音のテスト20% 期末テスト50%

6. 履修上の注意事項

授業には必ず辞書を持ってくること。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

教科書についているCDを何度も聞いて復習すること。

8. 教科書・参考書

秋田静男ほか「ドイツ語インフォメーション neu2」（朝日出版社）ISBN: 9784255253589

9. オフィスアワー

授業の前後

E-mail: k.hirakawa@uma.bbiq.jp

ドイツ語Ⅱ German II

対象学科（コース）：電気電子・総合システム（人間科学科目）
 学年：1年次 学期：後期 単位区分：選択必修 単位数：1単位
 担当教員名 渡辺 アンゲリカ

1. 概要

●授業の背景

サッカー、バウムクーヘン、ソーセージ、クラシック音楽、車、エコライフ、古城など、ドイツの文化は日本でも広く親しまれている。

この授業の狙いはヨーロッパで2番目に大きい国ドイツの言葉や文化をABCから学び、様々なメディアを通じてドイツを“体験”し、身近に感じることである。

単語を暗記し文法をマスターしても、外国人に自分の気持ちが伝わらない、相手の気持ちが分からないときがある。考え方や価値観の違いを理解しないと会話が成り立たない可能性もある。ドイツ文化に触れながら、日本との価値観の違いを知り、将来、役に立つ会話を身につけてもらいたい。

●授業の目的

ドイツ語の発音、基礎的な文法、身近な会話表現を学び、さまざまな練習をし、ロールプレイにも挑戦する。ドイツの日常生活や文化を紹介する。

●授業の位置付け

ドイツ語の基礎文法を学びつつ、簡単な日常会話を練習し、外国語で話すことへの抵抗を減らす。

ドイツ語Ⅱまでの1年間で、ドイツ語初級の読み書き、聞き取り、会話ができることを目指す。

2. キーワード

コミュニケーション、異文化理解、国際性

3. 到達目標

- ① 音素を把握することができる。
- ② 語句を区切って読むことができる。
- ③ 単語を書くことができる。
- ④ 個人についての情報を伝えることができる。

4. 授業計画

- 第1回 前期のまとめ・復習
- 第2回 カフェにて
- 第3回 迷子になったらどうしよう？ 道案内
- 第4回 自分の部屋を紹介しよう
- 第5回 ホテルでの宿泊 I
- 第6回 ホテルでの宿泊 II
- 第7回 電車の旅 I
- 第8回 電車の旅 II
- 第9回 ドイツ人の食生活
- 第10回 クリスマスの手紙を書いてみよう
- 第11回 過去のことを話そう I
- 第12回 過去のことを話そう II
- 第13回 自分の生い立ち
- 第14回 ドイツの映画をみよう 現代ドイツの様子を感じ取る
- 第15回 後期の授業の復習

5. 評価の方法・基準

授業への取り組み20%+ロールプレイ20%+期末テスト60%を総合的に評価し、6割以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

授業中の活動に積極的に参加すること。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

復習を欠かさないこと。

- ・授業中に取り上げた文法事項を教科書で確認し、練習問題を解いてみること。
- ・授業時間に行ったロールプレイや会話を身につけていくこと。

8. 教科書・参考書

秋田静男ほか「ドイツ語インフォメーション neu2」（朝日出版社）ISBN: 9784255253589

9. オフィスアワー

木曜日の昼休み（非常勤講師控室）

メールアドレス: angelika_rose_29@yahoo.co.jp

ドイツ語Ⅱ German II

対象学科（コース）：応用化学・マテリアル（人間科学科目）
 学年：1年次 学期：後期 単位区分：選択必修 単位数：1単位
 担当教員名 山本 達夫

1. 概要

●授業の背景

日本で普通に使われる「欧米」という言葉はドイツにはない。ヨーロッパとアメリカが一緒されるのを不思議に思ったり迷惑に感じたりするドイツ人は多い。ドイツ語を、ヨーロッパの文化・ドイツの歴史を踏まえながら学ぶことで、異文化理解の幅を広げたい。

●授業の目的

ドイツ語文法の基礎を習得すること。ドイツ文を流ちょうに音読できるようにすること。

●授業の位置付け

ドイツ語の文法構造を理解し、ドイツ語が正しく発音できるようにする。ドイツの歴史・文化・現代事情の考察を通して日本と自分自身を考える。ドイツ語技能検定試験（独検）4級合格を目指す。

2. キーワード

コミュニケーション、異文化理解、国際性

3. 到達目標

- ① ゆっくりはっきりと話されれば、単語を聞き取ることができる。
- ② 基本構文を理解することができる。
- ③ 短い言い回しを書き写すことができる。
- ④ 身近な話題について簡単な応答をすることができる。

4. 授業計画

- 第1回 何を注文する？（1）
- 第2回 何を注文する？（2）
- 第3回 市庁舎にはどう行ったらいいですか？（1）
- 第4回 市庁舎にはどう行ったらいいですか？（2）
- 第5回 歩いてホテルまで行くことができますか？（1）
- 第6回 歩いてホテルまで行くことができますか？（2）
- 第7回 その列車は何時に発車しますか（1）
- 第8回 その列車は何時に発車しますか（2）
- 第9回 発音テスト（1）
- 第10回 音楽に興味があります
- 第11回 とてもよかった！（1）
- 第12回 とてもよかった！（2）
- 第13回 おいしかった！（1）
- 第14回 おいしかった！（2）
- 第15回 発音テスト（2）、後期授業の確認

5. 評価の方法・基準

授業への取り組み（定刻出席、課題の達成、辞書の持参）30% + 発音テスト20% + 期末テスト50%を総合的に評価し、6割以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

- ・辞書で単語・熟語の意味を調べ、ドイツ文を日本語に翻訳してこること。
- ・ドイツ文の文化・歴史的な背景がわからないときは、ウィキペディアなどの百科事典を活用すること。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

毎回の授業時間中に示す課題を仕上げ、専用のノートに書いてこること。

8. 教科書・参考書

秋田静男ほか「ドイツ語インフォメーション neu2」（朝日出版社）ISBN: 9784255253589

9. オフィスアワー

授業時間の前後

ドイツ語Ⅲ German III

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目）
 学年：2年次 学期：前期 単位区分：選択必修 単位数：1単位
 担当教員名 未定

1. 概要

●授業の背景

人間の思考は言語によって作り出される。すなわちどの言語によって物事を考えるか、が肝心である。異文化理解には、その言語に対する知識が欠かせない。言語と文化に関する理解を深め、国際性とコミュニケーション能力の向上を図る。国際性とは世界の多様性と多様な世界との付き合い方を学ぶことであり、コミュニケーション能力は多様な世界の中であって個人や社会との相互理解に不可欠で、共に必須の教養的要素である。

●授業の目的

音声、文字の両面からドイツ語の基礎を総合的に学習することによってドイツ語の表現力を養成し、言語と文化の関連を理解する。

●授業の位置付け

1年次に行われた「ドイツ語Ⅰ、Ⅱ」（独検4級程度）に引き続きドイツ語の基礎を学習するとともに、中級ドイツ語（独検3級程度）に挑戦する。

2. キーワード

コミュニケーション、異文化理解、国際性

3. 到達目標

- ① 具体的な指示を聞き取ることができる。
- ② 平易なテキストを理解することができる。
- ③ 基礎語彙を使って単文を書くことができる。
- ④ 要求や意思を簡単に伝えることができる。

4. 授業計画

- 第1回 ドイツ語Ⅰ・Ⅱの復習、発音の復習、日常使う単語の確認
- 第2回 出会いと自己紹介（1）
- 第3回 出会いと自己紹介（2）
- 第4回 家族について尋ねる（1）
- 第5回 家族について尋ねる（2）
- 第6回 明日の予定を尋ねる（1）
- 第7回 明日の予定を尋ねる（2）
- 第8回 買い物に行く（1）
- 第9回 買い物に行く（2）
- 第10回 発音テスト（1）
- 第11回 週末の予定を尋ねる（1）
- 第12回 週末の予定を尋ねる（2）
- 第13回 趣味について尋ねる（1）
- 第14回 趣味について尋ねる（2）
- 第15回 発音テスト（2）、前期授業の確認

5. 評価の方法・基準

授業への取り組み（出席等）30%、発音のテスト20%、期末テスト50%

6. 履修上の注意事項

- ・授業には必ず辞書を持参すること。
- ・辞書で単語・熟語の意味を調べ、ドイツ文を日本語に翻訳してこること。
- ・ドイツ文の文化・歴史的な背景がわからないときは、ウィキペディアなどの百科事典を活用すること。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

教科書付属のCDを何度も聞いて復習すること。毎回の課題を着実にこなすこと。

8. 教科書・参考書

予定：上野也利、本田雅也「パノラマ 初級ドイツ語ゼミナール〔改訂版〕」（白水社、2015年）ISBN: 9784560064146

9. オフィスアワー

授業時間の前後

ドイツ語Ⅳ German IV

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目）

学年：2年次 学期：後期 単位区分：選択必修 単位数：1単位

担当教員名 未定

1. 概要

●授業の背景

人間の思考は言語によって作りだされる。すなわち、どの言語によって物事を考えるか、が肝心である。異文化理解には、その言語に対する知識が欠かせない。言語と文化に関する理解を深め、国際性とコミュニケーション能力の向上を図る。国際性とは世界の多様性と多様な世界との付き合い方を学ぶことであり、コミュニケーション能力は多様な世界の中であって個人や社会との相互理解に不可欠で、共に必須の教養的要素である。

●授業の目的

音声、文字の両面からドイツ語の基礎を総合的に学習することによってドイツ語の表現力を養成し、言語と文化の関連を理解する。

●授業の位置付け

前期「ドイツ語Ⅲ」に引き続きドイツ語の基礎を学習するとともに、中級ドイツ語（独検3級程度）に挑戦する。学生職君には、授業の枠を超えて、積極的に直接ドイツの伝統・文化に触れて欲しい。

2. キーワード

コミュニケーション、異文化理解、国際性

3. 到達目標

- ① 日常に必要な情報を聞き取ることができる。
- ② 説明的な文章の要点を読み取ることができる。
- ③ 接続表現を用いて文をつなげて書くことができる。
- ④ 自分に直接関連のあるトピックについて話すことができる。

4. 授業計画

- 第1回 昼食を食べに行く（1）
- 第2回 昼食を食べに行く（2）
- 第3回 駅の窓口で尋ねる（1）
- 第4回 駅の窓口で尋ねる（2）
- 第5回 休暇の予定を尋ねる（1）
- 第6回 休暇の予定を尋ねる（2）
- 第7回 旅の体験を語る（1）
- 第8回 旅の体験を語る（2）
- 第9回 旅の体験を語る（3）
- 第10回 発音テスト（1）
- 第11回 意見を交換する（1）
- 第12回 意見を交換する（2）
- 第13回 意見を交換する（3）
- 第14回 別れと再会の約束
- 第15回 発音テスト（2）、後期授業の確認

5. 評価の方法・基準

授業への取り組み（出席等）30%、発音のテスト20%、期末テスト50%

6. 履修上の注意事項

- ・ 授業には必ず辞書を持参すること。
- ・ 辞書で単語・熟語の意味を調べ、ドイツ文を日本語に翻訳して下ること。
- ・ ドイツ文の文化・歴史的な背景がわからないときは、ウィキペディアなどの百科事典を活用すること。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

教科書付属のCDを何度も聞いて復習すること。
毎回の課題を着実にこなすこと。

8. 教科書・参考書

予定：上野也利、本田雅也「パノラマ 初級ドイツ語ゼミナール〔改訂版〕」（白水社、2015年）ISBN: 9784560064146

9. オフィスアワー

授業時間の前後

中国語Ⅰ Chinese I

対象学科（コース）：機械知能・建設社会（人間科学科目）

学年：1年次 学期：前期 単位区分：選択必修 単位数：1単位
担当教員名 一木 達彦

1. 概要

ここ数年の間に日本と中国の交流はますます盛んになっている。また、国際的にも中国の存在が大きくクローズアップされてきており、私たち日本人にとって中国は目を離すことのできない国になってきている。そんな中国が発信する情報を受け止めるためには中国語の学習が不可欠である。

漢字を用いているため、日本人にとって取っつきやすい言語ではあるが、その一方で発音は日本語の体系とは全く異なっているため、入門期にはこの習得に多くの時間をかけることになる。しかしこの難関を通り過ぎれば、文法は欧米諸国の言語に比べればはるかに簡単だと感じることができよう。本講義を通じて中国語の初歩的なレベルに達し、今後ますます盛んになるであろう日中の交流に役立ててもらいたい。

2. キーワード

コミュニケーション、異文化理解、国際性

3. 到達目標

- ①音素を把握することができる。
- ②語句を区切って読むことができる。
- ③単語を書くことができる。
- ④個人についての情報を伝えることができる。

4. 授業計画

1. 中国語概説
2. 発音1 声調、単母音、複母音
3. 発音2 声母
4. 発音3 鼻音を伴う母音
5. 発音4 声調変化など
6. 発音のまとめ
7. 第1課 “是”を使った文、名前の言い方など
8. 第1課 復習
9. 第2課 “的”の使い方、疑問詞疑問文
10. 第2課 復習
11. 第3課 動詞述語文、連動文、副詞“也”
12. 第3課 復習
13. 第4課 形容詞述語文、助動詞“想”、反復疑問文
14. 第4課 復習
15. 復習

5. 評価の方法・基準

定期試験（70%）、小テスト・出席点（30%） 60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

出席は2/3以上なければ履修資格を失う。
個別の相談については人間科学事務室に連絡先を聞き、必要に応じて行うこと。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

各回に指示する教科書の該当箇所を事前に読んでおくこと。
一課終わる毎に必ずその課で学んだことを復習しておくこと。
次の授業で確認のための小テストを行う。

8. 教科書・参考書

教科書：相原茂、陳淑梅、飯田敦子『日中いぶこみ広場』（朝日出版社）ISBN: 9784255451930

9. オフィスアワー

yimu77@yahoo.co.jp

中国語Ⅰ Chinese I

対象学科（コース）：機械知能・建設社会（人間科学科目）

学年：1年次 学期：前期 単位区分：選択必修 単位数：1単位
担当教員名 李 郁蕙

1. 概要

英語に次ぐ二つ目の外国語を選択するにあたって、皆さんはどんな目的意識を持っているのか。将来就職のため？それとも、趣味や教養を身に付けるため？いずれにせよ、受験勉強から解放され、これまでとは違った形で取り組んでみたい気持ちをお手伝いするのが本講義の趣旨である。

読んで分かるだけでなく、話して伝わることを目標に、実際のコミュニケーションに必要なスキルを習得する。方法として、授業中ではテキストの音読やペア、グループ活動を通じて発音を鍛えるほか、eラーニングを導入し、授業以外の時間でも聴解練習が行えるようにする。さらに、視聴覚教材の活用により、中国や台湾など中華圏の社会文化に対する理解を深め、同時に日本を振り返る機会としたい。

2. キーワード

コミュニケーション、異文化理解、国際性

3. 到達目標

- ①音素を把握することができる。
- ②語句を区切って読むことができる。
- ③単語を書くことができる。
- ④個人についての情報を伝えることができる。

4. 授業計画

1. 発音
2. 発音
3. 発音
4. 発音
5. 第1課
6. 第1課
7. テスト（発音）
8. 第2課
9. 第2課
10. 第3課
11. 第3課
12. 第4課
13. 第4課
14. テスト（1-4）
15. まとめ

5. 評価の方法・基準

出席 20%、音読 10%、試験 70%

6. 履修上の注意事項

講義回数 2/3以上出席すること。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

既習した本文の音読練習をしておくこと。

8. 教科書・参考書

教科書：相原茂、陳淑梅、飯田敦子『日中いぶこみ広場』（朝日出版社）ISBN: 9784255451930

9. オフィスアワー

メール：yuhuilee@dhs.kyutech.ac.jp

研究室：総合教育棟 413

中国語Ⅰ Chinese I

対象学科（コース）：電気電子・総合システム（人間科学科目）
 学年：1年次 学期：前期 単位区分：選択必修 単位数：1単位
 担当教員名 一木 達彦

1. 概要

ここ数年の間に日本と中国の交流はますます盛んになっている。また、国際的にも中国の存在が大きくクローズアップされてきており、私たち日本人にとって中国は目を離すことのできない国になってきている。そんな中国が発信する情報を受け止めるためには中国語の学習が不可欠である。

漢字を用いているため、日本人にとって取っつきやすい言語ではあるが、その一方で発音は日本語の体系とは全く異なっているため、入門期にはこの習得に多くの時間をかけることになる。しかしこの難関を通り過ぎれば、文法は欧米諸国の言語に比べればはるかに簡単だと感じることができるだろう。本講義を通じて中国語の初歩的なレベルに達し、今後ますます盛んになるであろう日中の交流に役立ててもらいたい。

2. キーワード

コミュニケーション、異文化理解、国際性

3. 到達目標

- ①音素を把握することができる。
- ②語句を区切って読むことができる。
- ③単語を書くことができる。
- ④個人についての情報を伝えることができる。

4. 授業計画

1. 中国語概説
2. 発音1 声調、単母音、複母音
3. 発音2 声母
4. 発音3 鼻音を伴う母音
5. 発音4 声調変化など
6. 発音のまとめ
7. 第1課 “是”を使った文、名前の言い方など
8. 第1課 復習
9. 第2課 “的”の使い方、疑問詞疑問文
10. 第2課 復習
11. 第3課 動詞述語文、連動文、副詞“也”
12. 第3課 復習
13. 第4課 形容詞述語文、助動詞“想”、反復疑問文
14. 第4課 復習
15. 復習

5. 評価の方法・基準

定期試験（70%）、小テスト・出席点（30%）60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

出席は2/3以上なければ履修資格を失う。
 個別の相談については人間科学事務室に連絡先を聞き、必要に応じて行うこと。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

各回に指示する教科書の該当箇所を事前に読んでおくこと。
 一課終わる毎に必ずその課で学んだことを復習しておくこと。
 次の授業で確認のための小テストを行う。

8. 教科書・参考書

教科書：相原茂、陳淑梅、飯田敦子『日中いぶこみ広場』（朝日出版社）ISBN: 9784255451930

9. オフィスアワー

yimu77@yahoo.co.jp

中国語Ⅰ Chinese I

対象学科（コース）：電気電子・総合システム（人間科学科目）
 学年：1年次 学期：前期 単位区分：選択必修 単位数：1単位
 担当教員名 李 郁蕙

1. 概要

英語に次ぐ二つ目の外国語を選択するにあたって、皆さんはどんな目的意識を持っているのか。将来就職のため？それとも、趣味や教養を身に付けるため？いずれにせよ、受験勉強から解放され、これまでとは違った形で取り組んでみたい気持ちをお手伝いするのが本講義の趣旨である。

読んで分かるだけでなく、話して伝わることを目標に、実際のコミュニケーションに必要なスキルを習得する。方法として、授業中ではテキストの音読やペア、グループ活動を通じて発音を鍛えるほか、eラーニングを導入し、授業以外の時間でも聴解練習が行えるようにする。さらに、視聴覚教材の活用により、中国や台湾など中華圏の社会文化に対する理解を深め、同時に日本を振り返る機会としたい。

2. キーワード

コミュニケーション、異文化理解、国際性

3. 到達目標

- ①音素を把握することができる。
- ②語句を区切って読むことができる。
- ③単語を書くことができる。
- ④個人についての情報を伝えることができる。

4. 授業計画

1. 発音
2. 発音
3. 発音
4. 発音
5. 第1課
6. 第1課
7. テスト（発音）
8. 第2課
9. 第2課
10. 第3課
11. 第3課
12. 第4課
13. 第4課
14. テスト（1-4）
15. まとめ

5. 評価の方法・基準

出席20%、音読10%、試験70%

6. 履修上の注意事項

講義回数2/3以上出席すること。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

既習した本文の音読練習をしておくこと。

8. 教科書・参考書

教科書：相原茂、陳淑梅、飯田敦子『日中いぶこみ広場』（朝日出版社）ISBN: 9784255451930

9. オフィスアワー

メール：yuhuilee@dhs.kyutech.ac.jp
 研究室：総合教育棟413

中国語Ⅰ Chinese I

対象学科（コース）：応用化学・マテリアル（人間科学科目）

学年：1年次 学期：前期 単位区分：選択必修 単位数：1単位

担当教員名 李 郁蕙

1. 概要

英語に次ぐ二つ目の外国語を選択するにあたって、皆さんはどんな目的意識を持っているのか。将来就職のため？それとも、趣味や教養を身に付けるため？いずれにせよ、受験勉強から解放され、これまでとは違った形で取り組んでみたい気持ちをお手伝いするのが本講義の趣旨である。

読んで分かるだけでなく、話して伝わることを目標に、実際のコミュニケーションに必要なスキルを習得する。方法として、授業中ではテキストの音読やペア、グループ活動を通じて発音を鍛えるほか、eラーニングを導入し、授業以外の時間でも聴解練習が行えるようにする。さらに、視聴覚教材の活用により、中国や台湾など中華圏の社会文化に対する理解を深め、同時に日本を振り返る機会としたい。

2. キーワード

コミュニケーション、異文化理解、国際性

3. 到達目標

- ①音素を把握することができる。
- ②語句を区切って読むことができる。
- ③単語を書くことができる。
- ④個人についての情報を伝えることができる。

4. 授業計画

1. 発音
2. 発音
3. 発音
4. 発音
5. 第1課
6. 第1課
7. テスト（発音）
8. 第2課
9. 第2課
10. 第3課
11. 第3課
12. 第4課
13. 第4課
14. テスト（1-4）
15. まとめ

5. 評価の方法・基準

出席 20%、音読 10%、試験 70%

6. 履修上の注意事項

講義回数 2 / 3 以上出席すること。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

既習した本文の音読練習をしておくこと。

8. 教科書・参考書

教科書：相原茂、陳淑梅、飯田敦子『日中いぶこみ広場』（朝日出版社）ISBN: 9784255451930

9. オフィスアワー

メール：yuhuilee@dhs.kyutech.ac.jp

研究室：総合教育棟 413

中国語Ⅱ Chinese II

対象学科（コース）：機械知能・建設社会（人間科学科目）

学年：1年次 学期：後期 単位区分：選択必修 単位数：1単位

担当教員名 一木 達彦

1. 概要

ここ数年の間に日本と中国の交流はますます盛んになっている。また、国際的にも中国の存在が大きくクローズアップされてきており、私たち日本人にとって中国は目を離すことのできない国になってきている。そんな中国が発信する情報を受け止めるためには中国語の学習が不可欠である。

漢字を用いているため、日本人にとって取っつきやすい言語ではあるが、その一方で発音は日本語の体系とは全く異なっているため、入門期にはこの習得に多くの時間をかけることになる。しかしこの難関を通り過ぎれば、文法は欧米諸国の言語に比べればはるかに簡単だと感じることができるだろう。本講義を通じて中国語の初歩的なレベルに達し、今後ますます盛んになるであろう日中の交流に役立ててもらいたい。

2. キーワード

コミュニケーション、異文化理解、国際性

3. 到達目標

- ①ゆっくりはっきりと話されれば、単語を聞き取ることができる。
- ②基本構文を理解することができる。
- ③短い言い回しを書き写すことができる。
- ④身近な話題について簡単な応答をすることができる。

4. 授業計画

1. 復習
2. 第5課 年齢の言い方、動詞“有”、比較の言い方、数詞
3. 第5課 復習4の文、“把”構文
4. 第6課 経験を表す“過”、動詞“喜歡”、助動詞“要”、数詞
5. 第6課 復習
6. 第7課 年月日・曜日・時刻の言い方、前置詞“在”、文末の“了”
7. 第7課 復習
8. 第8課 前置詞“從”・“往”、動詞に付く“了”、時間量の言い方、量詞
9. 第8課 復習
10. 第9課 動詞の“在”、“是～的”構文、進行、方位詞
11. 第9課 復習
12. 第10課 主述述語文、助動詞“能”、結果補語
13. 第10課 復習
14. まとめ1
15. まとめ2

5. 評価の方法・基準

定期試験（70%）、小テスト・出席点（30%）60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

出席は2 / 3 以上なければ履修資格を失う。

個別の相談については人間科学事務室に連絡先を聞き、必要に応じて行うこと。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

各回に指示する教科書の該当箇所を事前に読んでおくこと。

一課終わる毎に必ずその課で学んだことを復習しておくこと。次の授業で確認のための小テストを行う。

8. 教科書・参考書

教科書：相原茂、陳淑梅、飯田敦子『日中いぶこみ広場』（朝日出版社）ISBN: 9784255451930

9. オフィスアワー

yimu77@yahoo.co.jp

中国語Ⅱ Chinese II

対象学科（コース）：機械知能・建設社会（人間科学科目）
 学年：1年次 学期：後期 単位区分：選択必修 単位数：1単位
 担当教員名 李 郁蕙

1. 概要

英語に次ぐ二つ目の外国語を選択するにあたって、皆さんはどんな目的意識を持っているのか。将来就職のため？それとも、趣味や教養を身に付けるため？いずれにせよ、受験勉強から解放され、これまでとは違った形で取り組んでみたい気持ちをお手伝いするのが本講義の趣旨である。

読んで分かるだけでなく、話して伝わることを目標に、実際のコミュニケーションに必要なスキルを習得する。方法として、授業中ではテキストの音読やペア、グループ活動を通じて発音を鍛えるほか、eラーニングを導入し、授業以外の時間でも聴解練習が行えるようにする。さらに、視聴覚教材の活用により、中国や台湾など中華圏の社会文化に対する理解を深め、同時に日本を振り返る機会としたい。

2. キーワード

コミュニケーション、異文化理解、国際性

3. 到達目標

- ① ゆっくりははっきりと話されれば、単語を聞き取ることができる。
- ② 基本構文を理解することができる。
- ③ 短い言い回しを書き写すことができる。
- ④ 身近な話題について簡単な応答をすることができる。

4. 授業計画

1. 第5課
2. 第5課
3. 第6課
4. 第6課
5. 第7課
6. 第7課
7. テスト（5-7）
8. 第8課
9. 第8課
10. 第9課
11. 第9課
12. 第10課
13. 第10課
14. テスト（8-10）
15. まとめ

5. 評価の方法・基準

出席 20%、音読 10%、試験 70%

6. 履修上の注意事項

講義回数 2 / 3 以上出席すること。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

既習した本文の音読練習をしておくこと。

8. 教科書・参考書

教科書：相原茂、陳淑梅、飯田敦子『日中いぶこみ広場』（朝日出版社）ISBN: 9784255451930

9. オフィスアワー

メール：yuhuilee@dhs.kyutech.ac.jp
 研究室：総合教育棟 413

中国語Ⅱ Chinese II

対象学科（コース）：電気電子・総合システム（人間科学科目）
 学年：1年次 学期：後期 単位区分：選択必修 単位数：1単位
 担当教員名 一木 達彦

1. 概要

ここ数年の間に日本と中国の交流はますます盛んになっている。また、国際的にも中国の存在が大きくクローズアップされてきており、私たち日本人にとって中国は目を離すことのできない国になってきている。そんな中国が発信する情報を受け止めるためには中国語の学習が不可欠である。

漢字を用いているため、日本人にとって取っつきやすい言語ではあるが、その一方で発音は日本語の体系とは全く異なっているため、入門期にはこの習得に多くの時間をかけることになる。しかしこの難関を通り過ぎれば、文法は欧米諸国の言語に比べればはるかに簡単だと感じることができるだろう。本講義を通じて中国語の初歩的なレベルに達し、今後ますます盛んになるであろう日中の交流に役立ててもらいたい。

2. キーワード

コミュニケーション、異文化理解、国際性

3. 到達目標

- ① ゆっくりははっきりと話されれば、単語を聞き取ることができる。
- ② 基本構文を理解することができる。
- ③ 短い言い回しを書き写すことができる。
- ④ 身近な話題について簡単な応答をすることができる。

4. 授業計画

1. 復習
2. 第5課 年齢の言い方、動詞“有”、比較の言い方、数詞
3. 第5課 復習4の文、“把”構文
4. 第6課 経験を表す“過”、動詞“喜歡”、助動詞“要”、数詞
5. 第6課 復習
6. 第7課 年月日・曜日・時刻の言い方、前置詞“在”、文末の“了”
7. 第7課 復習
8. 第8課 前置詞“從”・“往”、動詞に付く“了”、時間量の言い方、量詞
9. 第8課 復習
10. 第9課 動詞の“在”、“是～的”構文、進行、方位詞
11. 第9課 復習
12. 第10課 主述述語文、助動詞“能”、結果補語
13. 第10課 復習
14. まとめ1
15. まとめ2

5. 評価の方法・基準

定期試験（70%）、小テスト・出席点（30%）60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

出席は2 / 3 以上なければ履修資格を失う。

個別の相談については人間科学事務室に連絡先を聞き、必要に応じて行うこと。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

各回に指示する教科書の該当箇所を事前に読んでおくこと。

一課終わる毎に必ずその課で学んだことを復習しておくこと。次の授業で確認のための小テストを行う。

8. 教科書・参考書

教科書：相原茂、陳淑梅、飯田敦子『日中いぶこみ広場』（朝日出版社）ISBN: 9784255451930

9. オフィスアワー

yimu77@yahoo.co.jp

中国語Ⅱ Chinese II

対象学科（コース）：電気電子・総合システム（人間科学科目）
 学年：1年次 学期：後期 単位区分：選択必修 単位数：1単位
 担当教員名 李 郁蕙

1. 概要

英語に次ぐ二つ目の外国語を選択するにあたって、皆さんはどんな目的意識を持っているのか。将来就職のため？それとも、趣味や教養を身に付けるため？いずれにせよ、受験勉強から解放され、これまでとは違った形で取り組んでみたい気持ちをお手伝いするのが本講義の趣旨である。

読んで分かるだけでなく、話して伝わることを目標に、実際のコミュニケーションに必要なスキルを習得する。方法として、授業中ではテキストの音読やペア、グループ活動を通じて発音を鍛えるほか、eラーニングを導入し、授業以外の時間でも聴解練習が行えるようにする。さらに、視聴覚教材の活用により、中国や台湾など中華圏の社会文化に対する理解を深め、同時に日本を振り返る機会としたい。

2. キーワード

コミュニケーション、異文化理解、国際性

3. 到達目標

- ① ゆっくりははっきりと話されれば、単語を聞き取ることができる。
- ② 基本構文を理解することができる。
- ③ 短い言い回しを書き写すことができる。
- ④ 身近な話題について簡単な応答をすることができる。

4. 授業計画

1. 第5課
2. 第5課
3. 第6課
4. 第6課
5. 第7課
6. 第7課
7. テスト（5-7）
8. 第8課
9. 第8課
10. 第9課
11. 第9課
12. 第10課
13. 第10課
14. テスト（8-10）
15. まとめ

5. 評価の方法・基準

出席 20%、音読 10%、試験 70%

6. 履修上の注意事項

講義回数 2 / 3 以上出席すること。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

既習した本文の音読練習をしておくこと。

8. 教科書・参考書

教科書：相原茂、陳淑梅、飯田敦子『日中いぶこみ広場』（朝日出版社）ISBN: 9784255451930

9. オフィスアワー

メール：yuhuilee@dhs.kyutech.ac.jp
 研究室：総合教育棟 413

中国語Ⅱ Chinese II

対象学科（コース）：応用化学・マテリアル（人間科学科目）
 学年：1年次 学期：後期 単位区分：選択必修 単位数：1単位
 担当教員名 李 郁蕙

1. 概要

英語に次ぐ二つ目の外国語を選択するにあたって、皆さんはどんな目的意識を持っているのか。将来就職のため？それとも、趣味や教養を身に付けるため？いずれにせよ、受験勉強から解放され、これまでとは違った形で取り組んでみたい気持ちをお手伝いするのが本講義の趣旨である。

読んで分かるだけでなく、話して伝わることを目標に、実際のコミュニケーションに必要なスキルを習得する。方法として、授業中ではテキストの音読やペア、グループ活動を通じて発音を鍛えるほか、eラーニングを導入し、授業以外の時間でも聴解練習が行えるようにする。さらに、視聴覚教材の活用により、中国や台湾など中華圏の社会文化に対する理解を深め、同時に日本を振り返る機会としたい。

2. キーワード

コミュニケーション、異文化理解、国際性

3. 到達目標

- ① ゆっくりははっきりと話されれば、単語を聞き取ることができる。
- ② 基本構文を理解することができる。
- ③ 短い言い回しを書き写すことができる。
- ④ 身近な話題について簡単な応答をすることができる。

4. 授業計画

1. 第5課
2. 第5課
3. 第6課
4. 第6課
5. 第7課
6. 第7課
7. テスト（5-7）
8. 第8課
9. 第8課
10. 第9課
11. 第9課
12. 第10課
13. 第10課
14. テスト（8-10）
15. まとめ

5. 評価の方法・基準

出席 20%、音読 10%、試験 70%

6. 履修上の注意事項

講義回数 2 / 3 以上出席すること。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

既習した本文の音読練習をしておくこと。

8. 教科書・参考書

教科書：相原茂、陳淑梅、飯田敦子『日中いぶこみ広場』（朝日出版社）ISBN: 9784255451930

9. オフィスアワー

メール：yuhuilee@dhs.kyutech.ac.jp
 研究室：総合教育棟 413

中国語Ⅲ Chinese III

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目）

学年：2年次 学期：前期 単位区分：選択必修 単位数：1単位

担当教員名 未定

1. 概要

中国語ⅠⅡで習得した内容を確認しながら、新しい語彙や文法を学習し、初級から中級へのステップアップを目指す。読む・書く・聞く・話すの4つの技能をバランスよく伸ばし、日常生活に役立つ基礎的な運用能力を養っていく。

2. キーワード

コミュニケーション、異文化理解、国際性

3. 到達目標

- ①具体的な指示を聞き取ることができる。
- ②平易なテキストを理解することができる。
- ③基礎語彙を使って単文を書くことができる。
- ④要求や意思を簡単に伝えることができる。

4. 授業計画

1. 第11課
2. 第11課
3. 第12課
4. 第12課
5. 第13課
6. 第13課
7. テスト（11-13）
8. 第14課
9. 第14課
10. 第15課
11. 第15課
12. 第16課
13. 第16課
14. テスト（14-16）
15. まとめ

5. 評価の方法・基準

開講時に説明する。

6. 履修上の注意事項

講義回数の2/3以上出席すること。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

開講時に指示する。

8. 教科書・参考書

教科書：相原茂、陳淑梅、飯田敦子『日中いぶこみ広場』（朝日出版社）ISBN: 9784255451930

9. オフィスアワー

開講時に説明する。

中国語Ⅳ Chinese IV

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目）

学年：2年次 学期：後期 単位区分：選択必修 単位数：1単位

担当教員名 未定

1. 概要

中国語ⅠⅡで習得した内容を確認しながら、新しい語彙や文法を学習し、初級から中級へのステップアップを目指す。読む・書く・聞く・話すの4つの技能をバランスよく伸ばし、日常生活に役立つ基礎的な運用能力を養っていく。

2. キーワード

コミュニケーション、異文化理解、国際性

3. 到達目標

- ①日常に必要な情報を聞き取ることができる。
- ②説明的な文章の要点を読み取ることができる。
- ③接続表現を用いて文をつなげて書くことができる。
- ④自分に直接関連のあるトピックについて話すことができる。

4. 授業計画

1. 第1課
2. 第2課
3. 第3課
4. 第4課
5. 第5課
6. 第6課
7. テスト（1-6）
8. 第7課
9. 第8課
10. 第9課
11. 第10課
12. 第11課
13. 第12課
14. テスト（7-12）
15. まとめ

5. 評価の方法・基準

開講時に説明する。

6. 履修上の注意事項

講義回数の2/3以上出席すること。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

開講時に指示する。

8. 教科書・参考書

開講時に指示する。

9. オフィスアワー

開講時に説明する。

フランス語Ⅰ French I

対象学科（コース）：機械知能・建設社会（人間科学科目）
 学年：1年次 学期：前期 単位区分：選択必修 単位数：1単位
 担当教員名 コモン ティエリ

1. 概要

フランス語の初級会話と文法を学ぶ。アルファベットの読みからはじめ、挨拶や自己紹介の方法等を映像を用いながら学習していく。各 UNITE に授業4回をあてるペースで、UNITE 3の最後まで進める。会話に必要なフランス語の文法事項を補うために時折プリントを配付する。

2. キーワード

コミュニケーション、異文化理解、国際性

3. 到達目標

- ①音素を把握することができる。
- ②語句を区切って読むことができる。
- ③単語を書くことができる。
- ④個人についての情報を伝えることができる。

4. 授業計画

- 1) UNITE 0：フランス語のアルファベ/フランスの文化
- 2) 挨拶をする
- 3) 名前を言う
- 4) UNITE 1：紹介する
- 5) 近況をたずねる
- 6) 自分のことを話す
- 7) 詩を読む
- 8) UNITE 2：人を紹介するために質問する
- 9) 人を言葉で描写する
- 10) 好みについて話をする
- 11) eメールを読む
- 12) UNITE 3：日常的なことを語る
- 13) 一日の生活を述べる
- 14) 電話で話す
- 15) 手紙を読む/前期に学習した内容の復習

5. 評価の方法・基準

出席、平常点、定期試験および宿題の提出状況により総合的に評価。

6. 履修上の注意事項

授業内で使う単語について、ミニ辞書を作成して配布するので、毎回、忘れずに持ってくること。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

授業前に予習しておくこと。宿題を忘れないこと。

8. 教科書・参考書

教科書：モーリス・ジャケ、ナディーヌ・バタリア、佐藤公彦、平山弓月『カンピュス・J』（朝日出版社）ISBN: 9784255351834

9. オフィスアワー

授業内にて指示

フランス語Ⅰ French I

対象学科（コース）：電気電子・総合システム（人間科学科目）
 学年：1年次 学期：前期 単位区分：選択必修 単位数：1単位
 担当教員名 コモン ティエリ

1. 概要

フランス語の初級会話と文法を学ぶ。アルファベットの読みからはじめ、挨拶や自己紹介の方法等を映像を用いながら学習していく。各 UNITE に授業4回をあてるペースで、UNITE 3の最後まで進める。会話に必要なフランス語の文法事項を補うために時折プリントを配付する。

2. キーワード

コミュニケーション、異文化理解、国際性

3. 到達目標

- ①音素を把握することができる。
- ②語句を区切って読むことができる。
- ③単語を書くことができる。
- ④個人についての情報を伝えることができる。

4. 授業計画

- 1) UNITE 0：フランス語のアルファベ/フランスの文化
- 2) 挨拶をする
- 3) 名前を言う
- 4) UNITE 1：紹介する
- 5) 近況をたずねる
- 6) 自分のことを話す
- 7) 詩を読む
- 8) UNITE 2：人を紹介するために質問する
- 9) 人を言葉で描写する
- 10) 好みについて話をする
- 11) eメールを読む
- 12) UNITE 3：日常的なことを語る
- 13) 一日の生活を述べる
- 14) 電話で話す
- 15) 手紙を読む/前期に学習した内容の復習

5. 評価の方法・基準

出席、平常点、定期試験および宿題の提出状況により総合的に評価。

6. 履修上の注意事項

授業内で使う単語について、ミニ辞書を作成して配布するので、毎回、忘れずに持ってくること。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

授業前に予習しておくこと。宿題を忘れないこと。

8. 教科書・参考書

教科書：モーリス・ジャケ、ナディーヌ・バタリア、佐藤公彦、平山弓月『カンピュス・J』（朝日出版社）ISBN: 9784255351834

9. オフィスアワー

授業内にて指示

フランス語Ⅰ French I

対象学科（コース）：応用化学・マテリアル（人間科学科目）

学年：1年次 学期：前期 単位区分：選択必修 単位数：1単位

担当教員名 原田 裕里

1. 概要

フランス語の初級会話と文法を学ぶ。アルファベットの読みからはじめ、挨拶や自己紹介の方法等を映像を用いながら学習していく。各UNITEに授業4回をあてるペースで、UNITE 3の最後まで進める。会話に必要なフランス語の文法事項を補うために時折プリントを配付する。

2. キーワード

コミュニケーション、異文化理解、国際性

3. 到達目標

- ①アルファベットを正確に発音することができる。
- ②語句を区切って読むことができる。
- ③単語を書くことができる。
- ④個人についての情報を伝えることができる。

4. 授業計画

- 1) UNITE 0：フランス語のアルファベ/フランスの文化
- 2) 挨拶をする
- 3) 名前を言う
- 4) UNITE 1：紹介する
- 5) 近況をたずねる
- 6) 自分のことを話す
- 7) 詩を読む
- 8) UNITE 2：人を紹介するために質問する
- 9) 人を言葉で描写する
- 10) 好みについて話をする
- 11) eメールを読む
- 12) UNITE 3：日常的なことを語る
- 13) 一日の生活を述べる
- 14) 電話で話す
- 15) 手紙を読む/前期に学習した内容の復習

5. 評価の方法・基準

出席、平常点、定期試験および宿題の提出状況により総合的に評価。

6. 履修上の注意事項

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

授業前に予習しておくこと。宿題を忘れないこと。

8. 教科書・参考書

教科書：モーリス・ジャケ、ナディーヌ・バタリア、佐藤公彦、平山弓月『カンピュス・J』（朝日出版社）ISBN: 9784255351834

参考書：『プチロワイヤル仏和辞典』第四版（旺文社）853/T-3/4-2

9. オフィスアワー

授業内にて指示

フランス語Ⅱ French II

対象学科（コース）：機械知能・建設社会（人間科学科目）

学年：1年次 学期：後期 単位区分：選択必修 単位数：1単位

担当教員名 コモン ティエリ

1. 概要

フランス語の初級会話と文法を学ぶ。前期のフランス語Ⅰで学習した現在形による表現に加え、過去のことや未来についての表現を学習する。学生同士のロールプレイングや教員とのやり取りが中心となる。学習に必要な文法事項はプリントを適宜配付する。

2. キーワード

コミュニケーション、異文化理解、国際性

3. 到達目標

- ①ゆっくりはっきりと話されれば、単語を聞き取ることができる。
- ②基本構文を理解することができる。
- ③短い言い回しを書き写すことができる。
- ④身近な話題について簡単な応答をすることができる。

4. 授業計画

- 1) 前期内容 (UNITE 0～3) の復習
- 2) UNITE 4：出来事を語る
- 3) 過去の出来事を語る
- 4) 時制を選ぶ
- 5) 資料（お札、新聞、手帳など）を読む
- 6) UNITE 5：住まいを紹介して特徴を表す
- 7) 情報を交換する
- 8) 情報を比べる
- 9) テクストを読む
- 10) UNITE 6：推薦したり、それで理解する
- 11) 場所についてのちょっとしたやり取り
- 12) 会話の核心を理解する
- 13) vouloir, pouvoir を用いて話す
- 14) 後期に学習した内容の応用
- 15) 後期に学習した内容の復習

5. 評価の方法・基準

出席、平常点、定期試験および宿題の提出状況により総合的に評価。

6. 履修上の注意事項

前期に配布したミニ辞書を、毎回、忘れずに持ってくること。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

授業前に予習しておくこと。宿題を忘れないこと。

8. 教科書・参考書

教科書：モーリス・ジャケ、ナディーヌ・バタリア、佐藤公彦、平山弓月『カンピュス・J』（朝日出版社）ISBN: 9784255351834

9. オフィスアワー

授業内にて指示

フランス語Ⅱ French II

対象学科（コース）：電気電子・総合システム（人間科学科目）
 学年：1年次 学期：後期 単位区分：選択必修 単位数：1単位
 担当教員名 コモン ティエリ

1. 概要

フランス語の初級会話と文法を学ぶ。前期のフランス語Ⅰで学習した現在形による表現に加え、過去のことや未来についての表現を学習する。学生同士のロールプレイングや教員とのやり取りが中心となる。学習に必要な文法事項はプリントを適宜配付する。

2. キーワード

コミュニケーション、異文化理解、国際性

3. 到達目標

- ① ゆっくりはっきりと話されれば、単語を聞き取ることができる。
- ② 基本構文を理解することができる。
- ③ 短い言い回しを書き写すことができる。
- ④ 身近な話題について簡単な応答をすることができる。

4. 授業計画

- 1) 前期内容（UNITE 0～3）の復習
- 2) UNITE 4：出来事を語る
- 3) 過去の出来事を語る
- 4) 時制を選ぶ
- 5) 資料（お札、新聞、手帳など）を読む
- 6) UNITE 5：住まいを紹介して特徴を表す
- 7) 情報を交換する
- 8) 情報を比べる
- 9) テクストを読む
- 10) UNITE 6：推薦したり、それで理解する
- 11) 場所についてのちょっとしたやり取り
- 12) 会話の核心を理解する
- 13) vouloir, pouvoir を用いて話す
- 14) 後期に学習した内容の応用
- 15) 後期に学習した内容の復習

5. 評価の方法・基準

出席、平常点、定期試験および宿題の提出状況により総合的に評価。

6. 履修上の注意事項

前期に配布したミニ辞書を、毎回、忘れずに持ってくること。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

授業前に予習しておくこと。宿題を忘れないこと。

8. 教科書・参考書

教科書：モーリス・ジャケ、ナディーヌ・バタリア、佐藤公彦、平山弓月『カンピュス・J』（朝日出版社）ISBN: 9784255351834

9. オフィスアワー

授業内にて指示

フランス語Ⅱ French II

対象学科（コース）：応用化学・マテリアル（人間科学科目）
 学年：1年次 学期：後期 単位区分：選択必修 単位数：1単位
 担当教員名 原田 裕里

1. 概要

フランス語の初級会話と文法を学ぶ。前期のフランス語Ⅰで学習した現在形による表現に加え、過去のことや未来についての表現を学習する。学生同士のロールプレイングや教員とのやり取りが中心となる。学習に必要な文法事項はプリントを適宜配付する。

2. キーワード

コミュニケーション、異文化理解、国際性

3. 到達目標

- ① ゆっくりはっきりと話されれば、単語を聞き取ることができる。
- ② 基本構文を理解することができる。
- ③ 短い言い回しを書き写すことができる。
- ④ 身近な話題について簡単な応答をすることができる。

4. 授業計画

- 1) 前期内容（UNITE 0～3）の復習
- 2) UNITE 4：出来事を語る
- 3) 過去の出来事を語る
- 4) 時制を選ぶ
- 5) 資料（お札、新聞、手帳など）を読む
- 6) UNITE 5：住まいを紹介して特徴を表す
- 7) 情報を交換する
- 8) 情報を比べる
- 9) テクストを読む
- 10) UNITE 6：推薦したり、それで理解する
- 11) 場所についてのちょっとしたやり取り
- 12) 会話の核心を理解する
- 13) vouloir, pouvoir を用いて話す
- 14) 後期に学習した内容の応用
- 15) 後期に学習した内容の復習

5. 評価の方法・基準

出席、平常点、定期試験および宿題の提出状況により総合的に評価。

6. 履修上の注意事項

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

授業前に予習しておくこと。宿題を忘れないこと。

8. 教科書・参考書

教科書：モーリス・ジャケ、ナディーヌ・バタリア、佐藤公彦、平山弓月『カンピュス・J』（朝日出版社）ISBN: 9784255351834

参考書：『プチロワイヤル仏和辞典』第四版（旺文社）853/T-3/4-2

9. オフィスアワー

授業内にて指示

フランス語Ⅲ French III

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目）

学年：2年次 学期：前期 単位区分：選択必修 単位数：1単位

担当教員名 未定

1. 概要

フランス語の中級会話。文法の復習を取り入れながら、挨拶や自己紹介、自分がすることなどをフランス語で表現する方法を学ぶ。現在形での表現が中心となるが、フランス語Ⅰ・Ⅱで学習したやり取りの応用編となる。

2. キーワード

コミュニケーション、異文化理解、国際性

3. 到達目標

- ①具体的な指示を聞き取ることができる。
- ②平易なテキストを理解することができる。
- ③基礎語彙を使って単文を書くことができる。
- ④要求や意思を簡単に伝えることができる。

4. 授業計画

1. インTRODクシヨ、挨拶、自己紹介の方法
2. 挨拶、ある人について言う、名前のつづりを言う
3. 名前・職業・住んでいるところをたずねる・言う
4. 自分の仕事について話す、ある人について質問する
5. 職業をたずねる、やりたい職業を言う
6. 国籍をたずねる、何語を話すか言う
7. ある人について話す、何かを示す
8. 好きな物を言う、どちらが好きか言う
9. 何をするのが好きかと言う、したいことについて話す
10. 好みを説明する、人を描写する
11. 自分について話す、年令を言う
12. 科目について話す
13. 物を借りる、あやまる
14. ある場所について説明する、たずねる
15. 前期内容の復習

5. 評価の方法・基準

出席、平常点、定期試験および宿題の提出状況により総合的に評価。

6. 履修上の注意事項

フランス語Ⅰ、Ⅱを履修していることが望ましい。また、授業内で単語を辞書で調べたりすることがあるため、紙媒体のフランス語の辞書を用意しておくこと。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

授業前に予習しておくこと。宿題を忘れないこと。

8. 教科書・参考書

教科書：ガエル・クレピウ、フィリップ・カレンス、高瀬智子、根岸純『スピラル』（ピアソン・エデュケーション、アシェット）ISBN: 9782011558084（第3版）

9. オフィスアワー

授業内にて指示

フランス語Ⅳ French IV

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目）

学年：2年次 学期：後期 単位区分：選択必修 単位数：1単位

担当教員名 未定

1. 概要

フランス語の中級会話。現在形での表現に加え、過去形や未来形を用いて、フランス語での多様な表現方法を学ぶ。道を教えたり、一日の出来事や、近い未来の計画などについて話す。

2. キーワード

コミュニケーション、異文化理解、国際性

3. 到達目標

- ①日常に必要な情報を聞き取ることができる。
- ②説明的な文章の要点を読み取ることができる。
- ③接続表現を用いて文をつなげて書くことができる。
- ④自分に直接関連のあるトピックについて話すことができる。

4. 授業計画

1. 何をするかたずねる、答える
2. 趣味・余暇の過ごし方について話す
3. 習慣について話す
4. 家族について話す
5. 過去の出来事について語る
6. どこに行くかたずねる・答える
7. どこに行ったのか詳しく話す
8. だれかを誘う、何かに誘う・会う約束をする
9. よく行く場所について話す
10. 毎日の習慣について話す
11. 一日の出来事を過去形で話す
12. 交通手段について話す
13. 道順を説明する、予約する
14. 近い未来の計画を話す、天気について話す
15. 食生活について話す、注文する／後期内容の復習

5. 評価の方法・基準

出席、平常点、定期試験および宿題の提出状況により総合的に評価。

6. 履修上の注意事項

フランス語Ⅰ、Ⅱを履修していることが望ましい。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

授業前に予習しておくこと。宿題を忘れないこと。

8. 教科書・参考書

教科書：ガエル・クレピウ、フィリップ・カレンス、高瀬智子、根岸純『スピラル』（ピアソン・エデュケーション、アシェット）ISBN: 9782011558084（第3版）

9. オフィスアワー

授業内にて指示

韓国語Ⅰ Korean I

対象学科（コース）：機械知能・建設社会（人間科学科目）

学年：1年次 学期：前期 単位区分：選択必修 単位数：1単位

担当教員名 桂 林春

1. 概要

本講義では、韓国語の基本的な「文字」と「正確な発音」の修得が第一の目標になります。韓国語と日本語は、語順がたいへんよく似ているため学習しやすい言語であると云われています。しかしながら、文字や発音など、似ても似つかない部分も多くあります。特に、はじめて韓国語（ハングル文字）に接する初学者にとっては、他の言語（外国語）と比べても、決して容易であると言い難いです。そのため、授業の進行は受講者の理解度に応じたペースで進めていきます。また、時折韓国文化についても紹介します。

2. キーワード

コミュニケーション、異文化理解、国際性

3. 到達目標

- ①音素を把握することができる。
- ②語句を区切って読むことができる。
- ③単語を書くことができる。
- ④個人についての情報を伝えることができる。

4. 授業計画

1. ガイダンス・授業の進め方。韓国語・ハングルとは。
2. 文字と発音 ー基本母音
3. 文字と発音 ー基本子音①
4. 文字と発音 ー基本子音②
5. 文字と発音 ー二重母音
6. 文字と発音 ーパッチム①
7. 文字と発音 ーパッチム②
8. 文字と発音 ー発音の規則
9. 文字と発音 ー総復習
10. 第1課
11. 第2課
12. 第3課
13. 第4課
14. 第5課
15. 総まとめ

5. 評価の方法・基準

- ・出席：30%
- ・定期試験：30%
- ・小テスト：20%
- ・オーラルテスト：10%
- ・音読・授業への参加度：10%

6. 履修上の注意事項

1. 楽しく学ぶことがモットーの授業です。
2. 新しい言語を学ぶにはある程度の情熱や覚悟、そして沢山の好奇心を持つこと。
3. 私語や居眠り、携帯端末いじりは厳禁です。
4. 授業中に課せられる課題は必ずこなす事。
5. 何よりも基本中の基本は皆勤することです。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

1. 今日のノート、又はメモを参考にしながら p.2～p.7 まで3回読むこと。
2. p.8～p.9 まで10回書きながら、覚えること。
3. p.10～p.12 まで5回音読、単語を暗記する。
4. p.13 と p.15 の単語を20回書くこと。
5. p.16 と p.17 を音読し、単語を暗記すること。
6. p.18～p.21 まで目を通し、単語18個を暗記する。
7. p.22～p.25 まで繰り返し声を出して発音の練習し、単語を覚える。
8. 今までの授業を振り返りながら自ら復習すること。
9. 音読しながら単語を覚えること。

10. 第1課 p.30～31 を読み理解すること。p.34 の単語を覚える。
11. 第2課 p.38～39 を複数回読むこと。p.40 の単語の暗記。
12. 第3課 p.46～48 を読み、練習問題を解いてみる。
13. 第4課 p.54～56 の文法を説明を読むこと。
14. 第5課 p.62～64 の理解、家族の誕生日を言ってみる。p.67 の単語の暗記。
15. 総復習！

8. 教科書・参考書

教科書：朴美子、崔相振『グループで楽しく学ぼう！韓国語』（朝日出版社）ISBN: 9784255556376

9. オフィスアワー

gyelc0926@yahoo.co.jp

韓国語Ⅰ Korean I

対象学科（コース）：電気電子・総合システム（人間科学科目）

学年：1年次 学期：前期 単位区分：選択必修 単位数：1単位

担当教員名 桂 林春

1. 概要

本講義では、韓国語の基本的な「文字」と「正確な発音」の修得が第一の目標になります。韓国語と日本語は、語順がたいへんよく似ているため学習しやすい言語であると云われています。しかしながら、文字や発音など、似ても似つかない部分も多くあります。特に、はじめて韓国語（ハングル文字）に接する初学者にとっては、他の言語（外国語）と比べても、決して容易であると言いがたいです。そのため、授業の進行は受講者の理解度に応じたペースで進めていきます。また、時折韓国文化についても紹介します。

2. キーワード

コミュニケーション、異文化理解、国際性

3. 到達目標

- ①音素を把握することができる。
- ②語句を区切って読むことができる。
- ③単語を書くことができる。
- ④個人についての情報を伝えることができる。

4. 授業計画

1. ガイダンス・授業の進め方。韓国語・ハングルとは。
2. 文字と発音 ー基本母音
3. 文字と発音 ー基本子音①
4. 文字と発音 ー基本子音②
5. 文字と発音 ー二重母音
6. 文字と発音 ーパッチム①
7. 文字と発音 ーパッチム②
8. 文字と発音 ー発音の規則
9. 文字と発音 ー総復習
10. 第1課
11. 第2課
12. 第3課
13. 第4課
14. 第5課
15. 総まとめ

5. 評価の方法・基準

- ・出席：30%
- ・定期試験：30%
- ・小テスト：20%
- ・オーラルテスト：10%
- ・音読・授業への参加度：10%

6. 履修上の注意事項

1. 楽しく学ぶことがモットーの授業です。
2. 新しい言語を学ぶにはある程度の情熱や覚悟、そして沢山の好奇心を持つこと。
3. 私語や居眠り、携帯端末いじりは厳禁です。
4. 授業中に課せられる課題は必ずこなす事。
5. 何よりも基本中の基本は皆勤することです。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

1. 今日のノート、又はメモを参考にしながらp.2～p.7まで3回読むこと。
2. p.8～p.9まで10回書きながら、覚えること。
3. p.10～p.12まで5回音読、単語を暗記する。
4. p.13とp.15の単語を20回書くこと。
5. p.16とp.17を音読し、単語を暗記すること。
6. p.18～p.21まで目を通し、単語18個を暗記する。
7. p.22～p.25まで繰り返し声を出して発音の練習し、単語を覚える。
8. 今までの授業を振り返りながら自ら復習すること。
9. 音読しながら単語を覚えること。

10. 第1課 p.30～31を読み理解すること。p.34の単語を覚える。
11. 第2課 p.38～39を複数回読むこと。p.40の単語の暗記。
12. 第3課 p.46～48を読み、練習問題を解いてみる。
13. 第4課 54～56の文法を説明を読むこと。
14. 第5課 62～64の理解、家族の誕生日を言う。p.67の単語の暗記。
15. 総復習！

8. 教科書・参考書

教科書：朴美子、崔相振『グループで楽しく学ぼう！韓国語』（朝日出版社）ISBN: 9784255556376

9. オフィスアワー

gyelc0926@yahoo.co.jp

韓国語 I Korean I

対象学科（コース）：応用化学・マテリアル（人間科学科目）
 学年：1年次 学期：前期 単位区分：選択必修 単位数：1単位
 担当教員名 崔 相振

1. 概要

楽しく韓国語を習得できる授業を目指す。先ず韓国語の文字を覚え、発音に気をつけながら、色々な場面における基本的な表現（例えば、自己紹介、買い物、学校生活、旅行など）を会話形式で練習し、韓国語の読み書きができるように指導する。また、会話でよく使う単語や文章などを学習しながら実践会話に慣れる。以上のことを楽しく学習できるように韓国の文化に関わる資料を多く活用していく。

2. キーワード

コミュニケーション、異文化理解、国際性

3. 到達目標

- ①音素を把握することができる。
- ②語句を区切って読むことができる。
- ③単語を書くことができる。
- ④個人についての情報を伝えることができる。

4. 授業計画

- 1. ハングルとは？（文字、あいさつ、教室用語）
- 2. ハングル文字（基本母音）
- 3. ハングル文字（基本子音）
- 4. ハングル文字（激音、濃音）
- 5. ハングル文字（二重母音）
- 6. ハングル文字（パッチム）
- 7. ハングル文字（2文字パッチム）
- 8. まとめ
- 9. 発音（有声音化、連音化など）
- 10. 発音（激音化、濃音化など）
- 11. 第1課（自己紹介）
- 12. 第2課（指示・疑問文）
- 13. 第3課（存在文）
- 14. 第4課（否定文）
- 15. まとめ

5. 評価の方法・基準

出席、小テスト、課題…50%、試験…50%

6. 履修上の注意事項

2/3以上出席すること。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

必ず予習して授業に参加すること。

8. 教科書・参考書

教科書：朴美子、崔相振『グループで楽しく学ぼう！韓国語』（朝日出版社）ISBN: 9784255556376

9. オフィスアワー

csjmimi@gmail.com

韓国語 II Korean II

対象学科（コース）：機械知能・建設社会（人間科学科目）
 学年：1年次 学期：後期 単位区分：選択必修 単位数：1単位
 担当教員名 桂 林春

1. 概要

本講義では、韓国語の基本的な「文字」と「正確な発音」の修得が第一の目標になります。韓国語と日本語は、語順がたいへんよく似ているため学習しやすい言語であると云われています。しかしながら、文字や発音など、似ても似つかない部分も多くあります。特に、はじめて韓国語（ハングル文字）に接する初学者にとっては、他の言語（外国語）と比べても、決して容易であると言いはれません。そのため、授業の進行は受講者の理解度に応じたペースで進めていきます。また、時折韓国文化についても紹介します。

2. キーワード

コミュニケーション、異文化理解、国際性

3. 到達目標

- ①ゆっくりはっきりと話されれば、単語を聞き取ることができる。
- ②基本構文を理解することができる。
- ③短い言い回しを書き写すことができる。
- ④身近な話題について簡単な応答をすることができる。

4. 授業計画

- 1. ガイダンス・授業の進め方
- 2. 「韓国語 I」の復習 ①
- 3. 「韓国語 I」の復習 ②
- 4. 第6課
- 5. 第7課
- 6. 第8課
- 7. 第9課
- 8. 第10課
- 9. 復習と中間テスト
- 10. 第11課
- 11. 第12課
- 12. 第13課
- 13. 第14課
- 14. 第15課
- 15. 総まとめ

5. 評価の方法・基準

- ・出席：30%
- ・定期試験：30%
- ・小テスト：20%
- ・オーラルテスト：10%
- ・音読・授業への参加度：10%

6. 履修上の注意事項

- 1. 楽しく学ぶことがモットーの授業です。
- 2. 新しい言語を学ぶにはある程度の情熱や覚悟、そして沢山の好奇心を持つこと。
- 3. 私語や居眠り、携帯端末いじりは厳禁です。
- 4. 授業中に課せられる課題は必ずこなす事。
- 5. 何よりも基本中の基本は皆勤することです。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

- 1. 韓国語 I に関する資料をまとめておくこと。
- 2. 今日復習した部分をもう一度書いてみる。
- 3. 単語小テストに備えて、韓国語 I の基本単語を覚える。
- 4. 第6課の文型の説明を読んで来ること。
- 5. 新しい単語を覚えること。
- 6. 今日習った本文を暗記する。
- 7. 時間・時刻を言えるようになること。又、第8課 p.86～87 を十分に理解して来ること。
- 8. 過去形の作り方を復習する。
- 9. p.97 をすらすら云えるように練習する。
- 10. 会話の本文を暗記する。

11. 接続詞を使った文章を作ってみる (p.112)。
 12. 場所に関する単語を覚えて、各自の希望や願望の表現を話せるように練習して来ること。
 13. p.126～128 を 3 回以上読んで、例文を言えるようになること。
 14. 第 15 課の学習ポイントを 2 回以上読んでみる。
 15. 総復習。未定
- 8. 教科書・参考書**
教科書：朴美子、崔相振『グループで楽しく学ぼう！韓国語』（朝日出版社）ISBN: 9784255556376
- 9. オフィスアワー**
gyelc0926@yahoo.co.jp

韓国語Ⅱ Korean II

対象学科（コース）：電気電子・総合システム（人間科学科目）

学年：1 年次 学期：後期 単位区分：選択必修 単位数：1 単位

担当教員名 桂 林春

1. 概要

本講義では、韓国語の基本的な「文字」と「正確な発音」の修得が第一の目標になります。韓国語と日本語は、語順がたいへんよく似ているため学習しやすい言語であると云われています。しかしながら、文字や発音など、似ても似つかない部分も多くあります。特に、はじめて韓国語（ハングル文字）に接する初学者にとっては、他の言語（外国語）と比べても、決して容易であると言い難いです。そのため、授業の進行は受講者の理解度に応じたペースで進めていきます。また、時折韓国文化についても紹介します。

2. キーワード

コミュニケーション、異文化理解、国際性

3. 到達目標

- ① ゆっくりはっきりと話されれば、単語を聞き取ることができる。
- ② 基本構文を理解することができる。
- ③ 短い言い回しを書き写すことができる。
- ④ 身近な話題について簡単な応答をすることができる。

4. 授業計画

1. ガイダンス・授業の進め方
2. 「韓国語Ⅰ」の復習 ①
3. 「韓国語Ⅰ」の復習 ②
4. 第 6 課
5. 第 7 課
6. 第 8 課
7. 第 9 課
8. 第 10 課
9. 復習と中間テスト
10. 第 11 課
11. 第 12 課
12. 第 13 課
13. 第 14 課
14. 第 15 課
15. 総まとめ

5. 評価の方法・基準

- ・出席：30%
- ・定期試験：30%
- ・小テスト：20%
- ・オーラルテスト：10%
- ・音読・授業への参加度：10%

6. 履修上の注意事項

1. 楽しく学ぶことがモットーの授業です。
2. 新しい言語を学ぶにはある程度の情熱や覚悟、そして沢山の好奇心を持つこと。
3. 私語や居眠り、携帯端末いじりは厳禁です。
4. 授業中に課せられる課題は必ずこなす事。
5. 何よりも基本中の基本は皆勤することです。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

1. 韓国語Ⅰに関する資料をまとめておくこと。
2. 今日復習した部分をもう一度書いてみる。
3. 単語小テストに備えて、韓国語Ⅰの基本単語を覚える。
4. 第 6 課の文型の説明を読んで来ること。
5. 新しい単語を覚えること。
6. 今日習った本文を暗記する。
7. 時間・時刻を言えるようになること。又、第 8 課 p.86～87 を十分に理解して来ること。
8. 過去形の作り方を復習する。
9. p.97 をすらすら云えるように練習する。
10. 会話の本文を暗記する。

11. 接続詞を使った文章を作ってみる (p.112)。
12. 場所に関する単語を覚えて、各自の希望や願望の表現を話せるように練習して来ること。
13. p.126～128 を 3 回以上読んで、例文を言えるようになること。
14. 第 15 課の学習ポイントを 2 回以上読んでみる。
15. 総復習。未定

8. 教科書・参考書

教科書：朴美子、崔相振『グループで楽しく学ぼう！韓国語』
(朝日出版社) ISBN: 9784255556376

9. オフィスアワー

gyelc0926@yahoo.co.jp

韓国語Ⅱ Korean II

対象学科(コース)：応用化学・マテリアル(人間科学科目)

学年：1 年次 学期：後期 単位区分：選択必修 単位数：1 単位

担当教員名 崔 相振

1. 概要

楽しく韓国語を習得できる授業を目指す。まず韓国語の文字を覚え、発音に気をつけながら、色々な場面における基本的な表現(例えば、自己紹介、買い物、学校生活、旅行など)を会話形式で練習し、韓国語の読み書きができるように指導する。また、会話でよく使う単語や文章などを学習しながら実践会話に慣れる。以上のことを楽しく学習できるように韓国の文化に関わる資料を多く活用していく。

2. キーワード

コミュニケーション、異文化理解、国際性

3. 到達目標

- ① ゆっくりはっきりと話されれば、単語を聞き取ることができる。
- ② 基本構文を理解することができる。
- ③ 短い言い回しを書き写すことができる。
- ④ 身近な話題について簡単な応答をすることができる。

4. 授業計画

1. 第 5 課 (漢数字)
2. 第 6 課 (用言の活用)
3. 第 7 課 (固有数字)
4. 第 8 課 (時刻、時間と曜日)
5. 第 9 課 (過去形)
6. まとめ
7. 第 10 課 (目的、羅列、提案)
8. 第 11 課 (依頼、意志、接続詞)
9. 第 12 課 (感嘆、希望、比較)
10. 第 13 課 (可能、不可能)
11. 第 14 課 (命令、勧告)
12. 第 15 課 (推量、原因、義務)
13. まとめ
14. 実践会話 (1)
15. 実践会話 (2)

5. 評価の方法・基準

出席、小テスト、課題…50%、試験…50%

6. 履修上の注意事項

2 / 3 以上出席すること。

7. 授業外学習(予習・復習)の指示

必ず予習して授業に参加すること。

8. 教科書・参考書

教科書：朴美子、崔相振『グループで楽しく学ぼう！韓国語』
(朝日出版社) ISBN: 9784255556376

9. オフィスアワー

csjmimi@gmail.com

韓国語Ⅲ Korean III

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目）

学年：2年次 学期：前期 単位区分：選択必修 単位数：1単位

担当教員名 未定

1. 概要

韓国語のスキルアップ（初級から中級へ）と共に、韓国の様々な文化に触れることで異文化理解を深める。まず色々な韓国語の文章を音読しつつ、韓国語特有の発音や表現を身につける。そして頻出語彙や文法事項を体系的に習得し、韓国語を「読む・訳す・作る・話す」力を培う。

2. キーワード

コミュニケーション、異文化理解、国際性

3. 到達目標

- ①具体的な指示を聞き取ることができる。
- ②平易なテキストを理解することができる。
- ③基礎語彙を使って単文を書くことができる。
- ④要求や意思を簡単に伝えることができる。

4. 授業計画

1. レベルテスト
2. 基本文型と会話（1）可能、不可能、接続詞
3. 基本文型と会話（2）進行、義務
4. 基本文型と会話（3）間違いやすい助詞
5. 基本文型と会話（4）羅列、理由、原因
7. 基本文型と会話（5）副詞形、決定
8. まとめ
9. 基本文型と会話（6）逆説、方向
10. 基本文型と会話（7）尊敬
11. 基本文型と会話（8）同意、推量
12. 基本文型と会話（9）連体形その1
13. 基本文型と会話（10）逆説、比較、仮定
14. 基本文型と会話（11）連体形その2
15. まとめ

5. 評価の方法・基準

出席、小テスト、課題…50%、試験…50%

6. 履修上の注意事項

2/3以上出席すること。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

必ず予習して授業に参加すること。

8. 教科書・参考書

教科書：崔相振、呉香善『Pointで学ぶ韓国語2』（花書院）

ISBN: 9784905324027

9. オフィスアワー

csjmimi@gmail.com

韓国語Ⅳ Korean IV

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目）

学年：2年次 学期：後期 単位区分：選択必修 単位数：1単位

担当教員名 未定

1. 概要

韓国語のスキルアップ（初級から中級へ）と共に、韓国の様々な文化に触れることで異文化理解を深める。まず色々な韓国語の文章を音読しつつ、韓国語特有の発音や表現を身につける。そして頻出語彙や文法事項を体系的に習得し、韓国語を「読む・訳す・作る・話す」力を培う。

2. キーワード

コミュニケーション、異文化理解、国際性

3. 到達目標

- ①日常に必要な情報を聞き取ることができる。
- ②説明的な文章の要点を読み取ることができる。
- ③接続表現を用いて文をつなげて書くことができる。
- ④自分に直接関連のあるトピックについて話すことができる。

4. 授業計画

1. 基本文型と会話（1）変則活用その1
2. 基本文型と会話（2）状況、練習問題
3. 基本文型と会話（3）変則活用その2
4. 基本文型と会話（4）経験、命令
5. 基本文型と会話（5）変則活用その3
6. 基本文型と会話（6）過去の経験、状態
7. まとめ
8. 基本文型と会話（7）変則活用その4
9. 基本文型と会話（8）推測
10. 基本文型と会話（9）予定、選択
11. 基本文型と会話（10）理由、原因
12. 基本文型と会話（11）変則活用その5
13. 基本文型と会話（11）変則活用その6
14. 基本文型と会話（12）継続
15. まとめ

5. 評価の方法・基準

出席、小テスト、課題…50%、試験…50%

6. 履修上の注意事項

2/3以上出席すること。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

必ず予習して授業に参加すること。

8. 教科書・参考書

教科書：崔相振、呉香善『Pointで学ぶ韓国語2』（花書院）

ISBN: 9784905324027

9. オフィスアワー

csjmimi@gmail.com